

み ひろ いし
三 尋 石 遺 跡 IV

1999年3月

長野県飯田市教育委員会

^み三 ^{ひろ}尋 ^{いし}石 遺 跡 IV

1999年3月

長野県飯田市教育委員会

序

飯田市は「人も自然も美しく、輝くまち飯田ー環境文化都市」として基本計画に示すとおり、山紫水明の自然環境に恵まれ、原始・古代より多くの人々が生活を営んできた地域であります。近年全国的に進められている開発工事は、この飯田市に於いても例外でなく、現在まで保存されてきた埋蔵文化財が破壊されつつあります。本来ならば過去から現在まで保存されてきたと同様に地中に保存していくのが最善の方法であります。地域社会の発展を考える上に於いては、発掘調査を行い記録保存することによって、後世に埋蔵文化財を残すことはやむを得ないことと考えております。

今回発掘調査を実施した三尋石遺跡は、飯田市伊賀良地区に所在し縄文時代を中心とした遺跡です。本遺跡内に市営三尋石団地を改築するという事で発掘調査を行いました。この調査により、縄文時代と弥生時代の集落跡が発見され、当時の人々の暮らしぶりを垣間見た気が致します。このように、これらの発掘調査の積み重ねによって地域の歴史の再構築が行われ、ひいてはその成果が私たちの生活に還元されていくものであります。

最後になりましたが、調査実施にあたり文化財保護の本旨に厚いご理解を賜った飯田市建設部、土地所有者の方・地元の皆様・現地・整理作業に従事された作業員の皆様に深甚なる謝意を申し上げる次第であります。

平成11年3月

飯田市教育委員会

教育長 小林 恭之助

例 言

1. 本報告書は三尋石団地公営住宅建て替えに伴い実施された、飯田市伊賀良地区所在の埋蔵文化財包蔵地三尋石遺跡の緊急発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は飯田市建設部からの委託を受け、飯田市教育委員会が実施した。
3. 調査は、平成10年度に現地作業、整理作業及び報告書作成作業を行った。
4. 発掘調査及び整理作業は、調査区が2箇所あったため、便宜的にA・B地区としてMH I 1971-1 IVA・Bを用いた。また、遺構には以下の略号を用いた。竪穴住居址・SB 掘立柱建物址・ST 溝址・SD 集石・SI 土坑・SK
5. 本遺跡は平成3・4年度に土地改良総合整備事業に伴い、1次・2次の発掘調査が、また平成8年度に3次調査がおこなわれているので、今次調査は4次調査として扱う。よって遺構番号は3次調査の連番とした。ただしSB39・SK198は欠番となっている。
6. 三尋石遺跡に於ける発掘調査位置は国土基本図の区画、MC-05にそれぞれ位置し（社団法人日本測量協会 1969 「国土基本図図式 同適用規定」 参照）、グリッド設定は飯田市埋蔵文化財基準メッシュ図に基づいて、株式会社ジャステックに委託した。
7. 本書の記載については遺構の順とし、住居址については時代順とした。遺構図・遺物図版・写真図版等は本文末に一括した。
8. 土層観察については小山正忠・竹原秀男 1996 『新版標準土色帖』による。
9. 遺物写真撮影は、株式会社ジャステックに委託した。
10. 遺物実測図の縮尺については、下記のとおりである。
土器 復元実測図1/4 及び1/6、拓本及び断面1/3、土製品2/3
石器 小型石器1/1、大型石器1/4、他1/3
11. 石器実測図の表現については「T」刃潰し加工・「K」敲打・「S」研磨を示す。詳細は、（飯田市教育委員会 1998 美女遺跡）を参照のこと。
12. 本書は担当者の協議の上、吉川金利が執筆・編集し、小林正春が総括した。
13. 本書に関連する出土品及び諸記録は飯田市教育委員会が管理し、飯田市考古資料館及び飯田市上郷考古博物館で保管している。

目 次

序		⑨ S B36	12
		⑩ S B37	12
例 言		⑪ S B38	13
		⑫ S B40	13
目 次		(2)弥生時代	
I 調査の経過		① S B32	14
1. 調査に至るまでの経過	1	4. 方形周溝墓 (S M)	
2. 調査の経過	1	① S M01	15
3. 調査組織		5. 埋設土器	
(1)調査団	2	①埋設土器 1	15
(2)事務局	2	6. 土坑 (S K)	
		S K199~230	15
II 遺跡の環境		7. ピット	16
1. 自然環境	3	8. 土層観察表	17
2. 歴史環境	3		
III 調査結果		IV まとめ	
A地区		1. 三尋石遺跡に於ける縄文時代中期後葉の 土器様相について	19
1. 基本層序	7	2. 縄文時代中期後葉の集落について	20
2. ピット	7		
B地区		図版	29
1. 基本層序	7	写真図版	83
2. 竪穴住居址 (S B)		報告書抄録	101
(1)縄文時代			
① S B26	8		
② S B27	8		
③ S B28	9		
④ S B29	9		
⑤ S B30	10		
⑥ S B31	10		
⑦ S B33	11		
⑧ S B34	11		

I 調査の経過

1. 調査に至るまでの経過

平成6年度に飯田市建設部建築課より飯田市大瀬木地区に所在する三尋石団地公営住宅建替事業に伴う発掘調査の依頼が飯田市教育委員会にあった。そこで平成6年9月29日に県教育委員会・開発主体者である飯田市建築課建築係・飯田市教育委員会の三者により埋蔵文化財保護協議が行われた。その結果、当該地は埋蔵文化財包蔵地三尋石遺跡内にあたり、埋蔵文化財の保存が望まれるが、工事の変更は不可能であるとの結論に達し、遺跡の状況を把握するべく試掘調査を行い、その結果改めて協議を行う事となった。

保護協議の結果を受けて平成7年度に試掘調査を行った結果、縄文時代中期と思われる竪穴住居址及び同時期の土器片が検出された。よって開発主体者・教育委員会の両者により保護協議を行った結果、工事対象地区は発掘調査を行い記録保存する事となった。

平成8年度に上記の協議結果を踏まえ、飯田市教育委員会によって発掘調査を行なった。その結果、縄文時代中期及び弥生時代後期を中心とした集落址が確認された。今年度開発対象区に於いても同様な様相が考えられたため、敢えて試掘調査等せず、旧住宅取り壊し終了後、発掘調査を行なうこととした。

2. 調査の経過

平成10年9月8日にA地区から重機により表土剥ぎを行った。しかし、一部の地点を除き遺構・遺物が確認できなかったため、写真撮影・測量のみ行い、精査は行わなかった。遺構・遺物が確認された箇所については、順次基準点測量と並行し、作業員による精査を行った。10月20日に調査が終了したため、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を委託し、終了した。

B地区についてはA地区と同様に重機による表土剥ぎを一部作業員による調査と並行して行い、排土を調査が終了したA地区に運搬した。また一部の排土については現場の保安上調査地区外に運び出した。当該地区は遺構の分布が地形に規制されると判断したため、作業員による調査の進行状況を見ながらコンタ図実測を委託した。

A・B地区の間にある道路部分については一部の地域住民が使用していたため、当初は調査を行わない予定であったが、遺構の分布状況から急ぎ調査することとし、多くの遺構・遺物を検出した。B地区及び道路部分の調査が終了した平成11年1月27日にA地区と同様、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を委託し、1月29日調査機材を撤収し現場作業の全日程が終了した。

今次調査の整理作業及び報告書作成については、当初は来年度以降行う予定であったがA地区が予想外に調査が不要であったため、期間・予算等の関係で平成10年度に行うこととし、現場作業と平成8年度調査分の整理作業と並行して行い、報告書刊行となった。

3. 調査組織

(1)調査団

調査主体者	飯田市教育委員会 教育長 小林恭之助				
調査担当者	佐々木嘉和	吉川 金利	福沢 好晃		
調査員	吉川 豊	山下 誠一	西山 克己	馬場 保之	下平 博行
	伊藤 尚志				
作業員	新井 幸子	新井ゆり子	池田 幸子	伊坪 節	太田 沢男
	岡田 紀子	金井 照子	金子 裕子	唐沢古千代	北原 裕
	木下 貞子	木下 義男	木下 力弥	木下 玲子	熊谷 義章
	小島 康夫	小平 晴美	小平まなみ	小林 定雄	小林 千枝
	斉藤 徳子	坂下やすゑ	佐々木一平	佐々木文茂	佐々木美千枝
	佐藤知代子	下田美美子	代田 和登	菅沼和加子	杉山 春樹
	瀬古 郁保	高木 純子	高橋 恭子	高橋セキ子	竹本 常子
	田中 薫	田中 博人	筒井千恵子	中平けい子	中平 隆雄
	仲田 昭平	中田 恵	仲村 信	中山 敏子	服部 光男
	林 伸好	林 ひとみ	原 昭子	平栗 陽子	福沢 育子
	福沢 幸子	福沢トシ子	古林登志子	牧内 修	松井 明治
	松下 省吾	三浦 厚子	南井 規子	宮内真理子	森山 律子
	山田 康夫	吉川 和夫	吉川紀美子		

(2)事務局

飯田市教育委員会博物館課

小畑伊之助	(博物館課長)
小林 正春	(博物館課埋蔵文化財係長)
吉川 豊	(博物館課埋蔵文化財係)
山下 誠一	(”)
馬場 保之	(”)
吉川 金利	(”)
下平 博行	(”)
伊藤 尚志	(”)
福沢 好晃	(”)
牧内 功	(博物館課庶務係)

II 遺跡の環境

1. 自然環境 (第1・2図)

飯田市は赤石山脈(南アルプス)と木曾山脈(中央アルプス)に挟まれた伊那谷の南端にあたり、両山脈の間を天竜川が南流する。天竜川に平行する河岸段丘地形を特徴とするが、これは両山脈の形成にかかわる断層地塊運動に伴い盆地や大きな段丘崖が形成された結果であり、天竜川支流の開析等による段丘・扇状地とあいまって複雑な地形を呈している。

三尋石遺跡が所在する伊賀良地区は、西側と東側で大きく地形が変化している。西半は木曾山脈の前山である笠松山(1271m)・高鳥屋山(1397m)東山麓にあたり、飯田松川・茂都計川をはじめ、笠松山・高鳥屋山を源流とする入野沢川・南沢川・滝沢川・新川などの河川によって形成された広大な扇状地が広がる。扇端はおおむね北方地籍では新井付近、大瀬木で伊賀良小学校付近、中村は長清寺付近であり、これより西側は傾斜の比較的急な斜面となっている。扇端の一部は前述の線を大きく越えて東側に伸びており、下殿岡地籍まで達するものもある。扇端付近では通例の如く湧水が豊かであるが、この扇状地は小河川により幾重にも複合して形成されているため、比較的湧水に恵まれ、今日でも横井戸を利用している住宅も見られる。扇状地の形成に大きな役割を果たした小河川は、現在では堆積作用により下谷作用に転じているが、浸蝕力は弱く、開析谷の規模は比較的小さい。

これに対し、地区の東側は基本的には高位の段丘面が多くを占めており、扇端から離れるほど地下水位が低くなる。古代末以来、この高燥な地帯への井水の開削が繰り返し行われ、大井をはじめ多くの井水が付設されているほか、地区内の大小河川は大規模な河川改修が行われてきた。

本遺跡は伊賀良地区西側にあたり、滝沢川により形成された扇状地に位置し、南北700m・東西1050m、面積62.5haを測る。調査地点は遺跡内北側に位置し、平成8年度調査地点の北側及び西側の隣接地に当たる。南側には下新井沢川が、北側には細田沢川がそれぞれ流れている。地形的には扇状地の扇中央部にあたり、南東に急傾斜する地点であり、その比高差は約7mを測る。また、標高は調査区中央部で約640mであり、市内に於いては高標高の遺跡である。

2. 歴史環境 (第2図)

伊賀良地区は埋蔵文化財包蔵地が濃密に分布しており、これまで発掘調査がなされた遺跡は、学術調査による立野(1)・山口(2)・西の原各遺跡、中央自動車道建設にかかる与志原・上の平東部・寺山・六反田・大東(3)・酒屋前(4)・滝沢井尻(5)・小垣外(辻垣外)(6)・三壺淵・上の金谷各遺跡、一般国道153号飯田バイパス建設にかかる殿原(7)・八幡面・小垣外各遺跡、広域農道西部山麓線建設にかかる飯田垣外・火振原(8)・梅ヶ久保・細田北(9)・北方大原(10)・直刀原(11)・河原林・入野・北方北の原各遺跡、諸開発に伴う中島平・宮ノ先・鳥屋平・下原(12)・高野・公文所前・中村中平(13)・増泉寺付近(14)・三尋石・富の平(15)・富士塚・中川・経塚原・柵口(16)・はりつけ原(17)各遺跡等、枚挙に遑がない。

こうした文化財に表れた先人たちの足跡は縄文時代早期まで溯る。立野遺跡・山口遺跡といった縄文時代早・前期の遺跡は主に笠松山麓の比較的標高の高い所に立地している。前期終末では辻垣外・殿原遺跡等扇状地の扇端付近の遺跡で竪穴住居址が調査されている。中期の遺跡は伊賀良地区の広範に分布しており、中央自動車道・西部山麓線路線にかかる扇状地上の諸遺跡や下原・公文所前といった段丘上の遺跡がある。殊に北方大原・下原・増泉寺付近遺跡では、該期中葉から後葉の大集落の一面が調査されている。後期中葉から晩期にかけては、茂都計川に面した中村中平遺跡で、配石址・竪穴住居址・配石墓等の遺構や土偶・土製耳飾り・石棒・石剣を含む多量の遺物が調査され、不明な点が多かった該期の様相が解明されると期待されている。また、酒屋前・辻垣外・殿原遺跡で断片的な資料ではあるが遺構・遺物が確認されている。

弥生時代においても集落立地は基本的には縄文時代と変わらないと考えられるが、前期・中期についてはなお不明である。後期になると遺跡数が増加すると共に調査例も増す。これまで調査された遺跡としては、大東・上の金谷・酒屋前・滝沢井尻・宮ノ先・中島平・中村中平・柵口・はりつけ原遺跡等がある。該期の集落展開としては、扇状地末端の湧水線及び西方前山から東流する大小河川を利用した水田経営と高位段丘上での陸耕を基盤とするものが考えられる。殿原遺跡ではこれまで90軒にのぼる竪穴住居址が調査される等、大規模な集落が営まれていたことが判明している。また、細田北遺跡では標高700mを超える高所から2軒の竪穴住居址が発見されており、人口の爆発的な増加とこうした高所にまで生産基盤を拡大するまでに至る生産力の向上を看取できる。

古墳は伊賀良地区では52基が確認されているが、現存するものは9基にすぎない。隣接する竜丘・松尾地区に比べ数も少なく、いずれも規模の小さい円墳である。また、該期の集落址の調査例は少なく、中期の上の金谷・富の平遺跡・後期の三壺淵・中島平・中村中平遺跡が調査されているのみである。遺跡数も前時代に比べると著しく減少しており、湧水・湿地を控えた集落の展開が考えられる。中村中平遺跡では、遺跡北側の台地の縁に大名塚古墳が現存し、ほかに消滅したものとして中村狐塚古墳・寺畑古墳・宮原2号古墳があり、これらの築造を担った集落であろう。また、地区内北方地籍には条里が敷かれたとも指摘されており、水田経営の定着した姿を想定する事ができよう。

奈良時代については、具体的な遺構・遺物の調査例は中村中平遺跡のみであり、掘立柱建物址が単独で調査されたのみで、詳細は不明である。地区内には、古代東山道の経路及び「育良駅」の推定地や、荘園を構成する村落の起源等に関連すると思われる箇所があり、重要な役割を果たした地区という事ができる。

平安時代については、その末期に伊賀良庄の名が文書に登場する。その中には中村・久米・川路・殿岡が含まれる事が文献等により明らかにされており、当地区がその中心的な位置を占めていた事が考えられる。当地方における大規模な井水開発の歴史は、この時代に始まるともいわれている。殿原遺跡の調査結果はこうした説をある程度裏付けるものといえる。一方、これまで実施された発掘調査の結果、六反田・滝沢井尻・小垣外・三壺淵・上の金谷・宮の先・公文所前遺跡等地区内のほぼ全域にわたり、集落址の一部が調査されている。伊賀良庄の成立がどこまで溯るかは不明であるが、この時代の集落が前時代よりも増加する事はこの地区の開発が一段と進んだ証左であろう。隣接する山本久米地区には真言宗の古刹光明寺がある。胎内に「保延六(1140)年」の銘をもつ薬師如来坐像がある事から、寺の創建はこれより遡ると考えられ、伊那谷の中ではいち早く中央の文化を取り入れた先進地域の一つであった

と思われる。さらにこの時代には三日市場地籍に須恵器を生産した土器（かわらけ）洞窯跡があり、ここで生産された須恵器が下伊那全域に分布するなど、手工業生産の発達が見られる。

中世においては鎌倉時代には北条時政が伊賀良庄地頭であり、以後一族の江馬氏がこれを継いだ。その地頭代が地区内に居を構えたことは疑いなく、鎌倉末期には荘園を自領化していたことが三浦和田文書に窺える。この時代の文化財としては、藤原様式の流れを汲む鎌倉初期の光明寺の阿弥陀如来坐像（国指定重要文化財）がある。

北条氏の滅亡後、信濃守護職小笠原氏は伊賀良庄を与えられ、その下で伊賀良地区の開発は急速に進んだとされる。地区内の井水の大半はこの時代の開発と考えられ、小笠原氏の勢力伸長の基盤として当地区が大きな役割を果たしたといえる。室町時代中期以降、小笠原氏内訌に伴い松尾城・鈴岡城の支城が各地に築かれ、地区内には下の城跡・桜山城跡・三日市場城跡などがある。

以上、各時代について概観したが、こうした歴史の脈絡の中で、今次調査の成果がどのように位置付けられるかは、本書の内容により明らかにされるといえる。

III 調査結果

A 地区

当該地区に於いては前述した如く造成が主たる原因と思われるが、多くの調査地点で表土の下層が礫層で、遺構確認面であるローム層が削平されており一部の箇所のみを調査した。しかし、調査区北側はB地区の状況から北東に急傾斜しており、遺構はなかったと考えられる。

1. 基本層序 (第4図)

調査区南側壁のものである。この箇所は造成等、攪乱を受けていない唯一の場所である。遺構検出面はVII層(ローム層)上層であり、比較的容易に遺構検出ができた。

2. ピット (第5・6図)

ピットのみを検出した。各々の説明は省略する。

B 地区

当該地区に於いて確認された遺構は下記のとおりである。

・ 竪穴住居址 (S B)	縄文時代中期後葉	12軒
	弥生時代後期	1軒
		計13軒
・ 竪穴状遺構 (S B)	時期不明	1基
・ 方形周溝墓 (S M)	弥生時代後期	1基
・ 埋設土器	縄文時代中期～後期	1基
・ 土坑 (S K)	縄文時代中期～後期	32基
・ ピット		

1. 基本層序 (第4図)

調査区南東側壁(3地点)と北側壁(2地点)で採取した。両者の整合関係は取れない。3地点については下新井沢川の氾濫源に位置しているためと考えられる。2地点についてはA地区と同様、北東に急傾斜し始める箇所にあたる。遺構検出面はそれぞれV・VI層(ローム層)上層である。

2. 竪穴住居址 (S B)

(1) 縄文時代

① S B 26 (第 7 図)

検出位置	B X - 12	覆土	単層						
重切る	なし	床面	堅固で明確な貼床						
複切られる	なし	住居内施設	主柱穴	P 1 ~ P 6 6本柱	埋	場所	なし		
規模・形状	プラン		円形	周溝		なし	甕	状況	
	規模 m		(4.7) × (4.4)	入口	不明				
	主軸		N 34° E	炉・竈	形状	(石囲炉)			
	壁高 cm		17		規模 cm	75 × 60			
	状態		緩やか	特記事項	石の抜痕あり				
出土遺物 (第30・31・43図) 深鉢 浅鉢 打製石斧 磨製石斧 石鏃 石匙									
特記事項 南～南東側は削平されており、覆土がほとんどない									
時期	縄文時代中期中葉末～後葉	根拠	出土遺物						

② S B 27 (第 8 図)

検出位置	B V - 15	覆土							
重切る	なし	床面	堅固で明確な貼床						
複切られる	S M 01	住居内施設	主柱穴	P 1 ~ P 4 4本柱か	埋	場所	不明		
規模・形状	プラン		円形に近い隅丸方形	周溝		部分的にあり	甕	状況	
	規模 m		4.2 × (4.2)	入口	不明				
	主軸		N 57° W	炉・竈	形状	(石囲炉)			
	壁高 cm		27		規模 cm	122 × 111			
	状態		緩やか	特記事項	石の抜痕あり				
出土遺物 (第31・43図) 深鉢 打製石斧横刃形石器敲打器									
特記事項 周溝が一部 2 重にあるので改築の可能性あり									
時期	縄文時代中期後葉	根拠	出土遺物						

③ S B28(第9図)

検出位置	AU-18	覆土								
重複	切る	なし	床面	不明						
	切られる	なし	住居内施設	主柱穴	不明	埋	場所	不明		
規模・形状	プラン	不明		周溝	不明		甕	状況		
	規模 m	不明		入口	不明					
	主軸	不明		炉・竈	形状					(石囲炉)
	壁高 cm	不明			規模 cm					110×97
	状態	不明		特記事項	副炉あり					
出土遺物 (第31・43・44図) 深鉢 打製石斧横刃型石器磨製石斧 混入品の可能性が高い										
特記事項 炉址のみを検出したため、詳細は不明										
時期	縄文時代中期後葉		根拠	出土遺物						

④ S B29(第9図)

検出位置	AU-15	覆土								
重複	切る	SK216	床面	堅固で一部を除き貼床あり						
	切られる	なし	住居内施設	主柱穴	P1~P3 4本柱か	埋	場所	なし		
規模・形状	プラン	隅丸方形		周溝	部分的にあり		甕	状況		
	規模 m	4.4×(4.3)		入口	不明					
	主軸	N60°W		炉・竈	形状					(石囲炉)
	壁高 cm	34			規模 cm					170×102
	状態	やや緩やか		特記事項	石の抜痕あり					
出土遺物 (第31・32図) 深鉢ミニチュア土器 打製石斧										
特記事項 ロームマウンド上に住居址があり、北東側はプラン不明										
時期	縄文時代中期後葉		根拠	出土遺物						

⑤ S B 30 (第10図)

検出位置	AS-24	覆土						
重複	切る	なし	床面	西側は明確であるが、軟弱であり、東側は不明瞭				
	切られる	S B 36 S K 222	住居内施設	主柱穴	P 1 ~ P 6 6本柱か	埋	場所	南東壁側
規模・形状	プラン	円形		周溝	ほぼ全周する		甕	状況
	規模 m	(6.2) × 5.9		入口	不明			
	主軸	N52° W		炉・竈	形状	(石囲炉)		
	壁高 cm	24			規模 cm	177 × 167		
	状態	やや緩やか		特記事項	石の抜痕あり			
出土遺物 (第32・33・34・35図) 深鉢有効鐔付土器 打製石斧横刃形石器磨石								
特記事項								
時期	縄文時代中期後葉	根拠	出土遺物					

⑥ S B 31 (第11図)

検出位置	AV-27	覆土	床面のみ検出					
重複	切る	不明	床面	堅固な貼床(検出できた箇所)				
	切られる	不明	住居内施設	主柱穴	不明	埋	場所	不明
規模・形状	プラン	不明		周溝	不明		甕	状況
	規模 m	不明		入口	不明			
	主軸	(N25° E)		炉・竈	形状	(石囲炉)		
	壁高 cm	0			規模 cm	90 × (63)		
	状態	床面のみ		特記事項				
出土遺物 (第35図) 深鉢								
特記事項 一部の床面と炉址のみを検出した 柱穴は貼床を除去して確認した								
時期	縄文時代中期後葉	根拠	出土遺物					

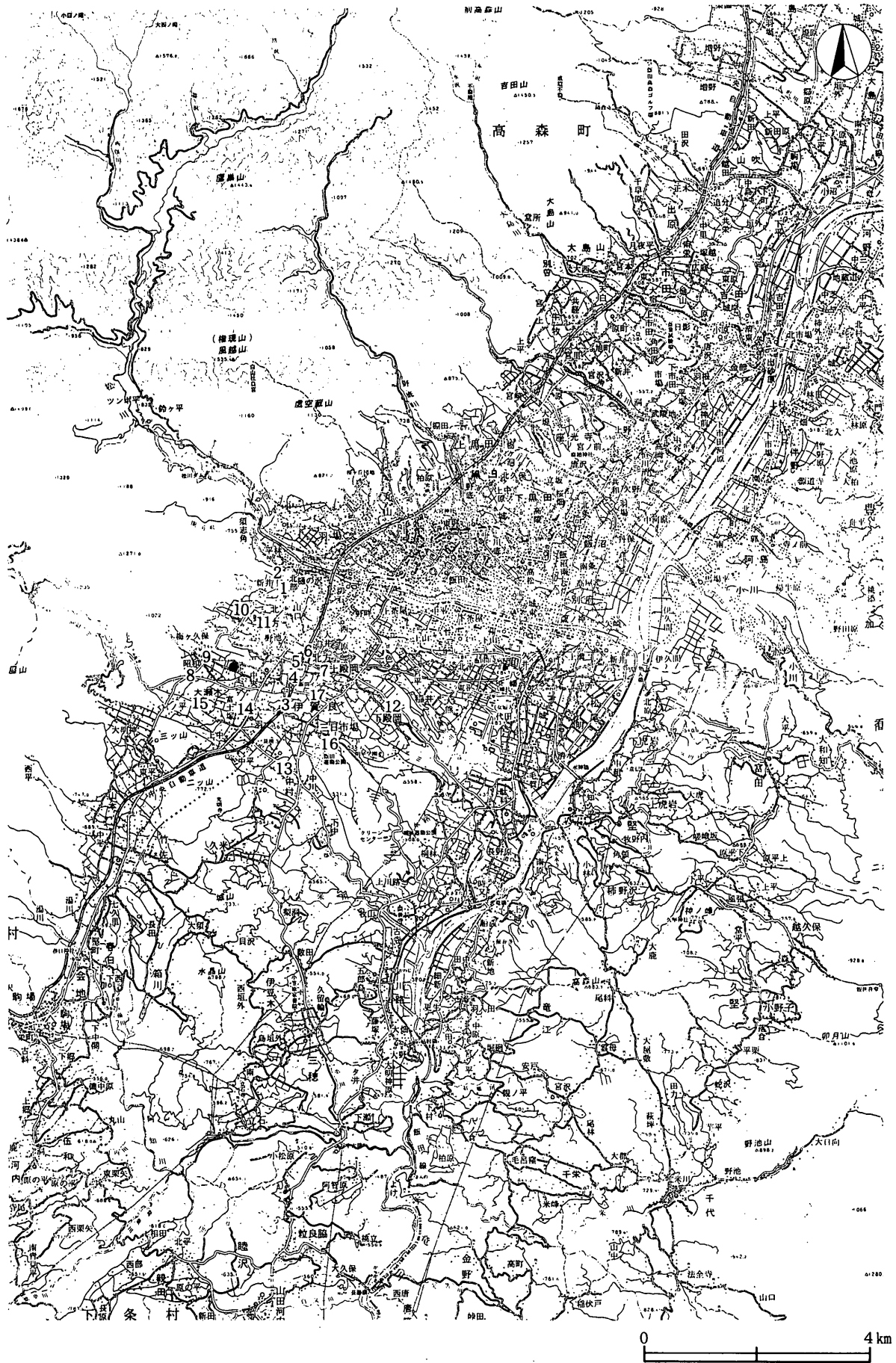
⑦ S B 33 (第11図)

検出位置	A P - 26		覆土					
重複	切る	S B 34	床面	明確で堅固な貼床				
	切られる	S B 32	住居内施設	主柱穴	P 1 ~ P 4	埋	場所	不明
規模	プラン	隅丸方形		周溝	なし		甕	状況
	規模 m	5.75 × (5.8)	入口	不明				
形状	主軸	N 28° E	炉・竈	形状	(石囲炉)			
	壁高 cm	19		規模 cm	120 × 112			
	状態	緩やか		特記事項				
出土遺物 (第35・36・44・45図)								
深鉢台付土器								
打製石斧横刃形石器石鏃								
特記事項								
時期	縄文時代中期後葉		根拠	出土遺物				

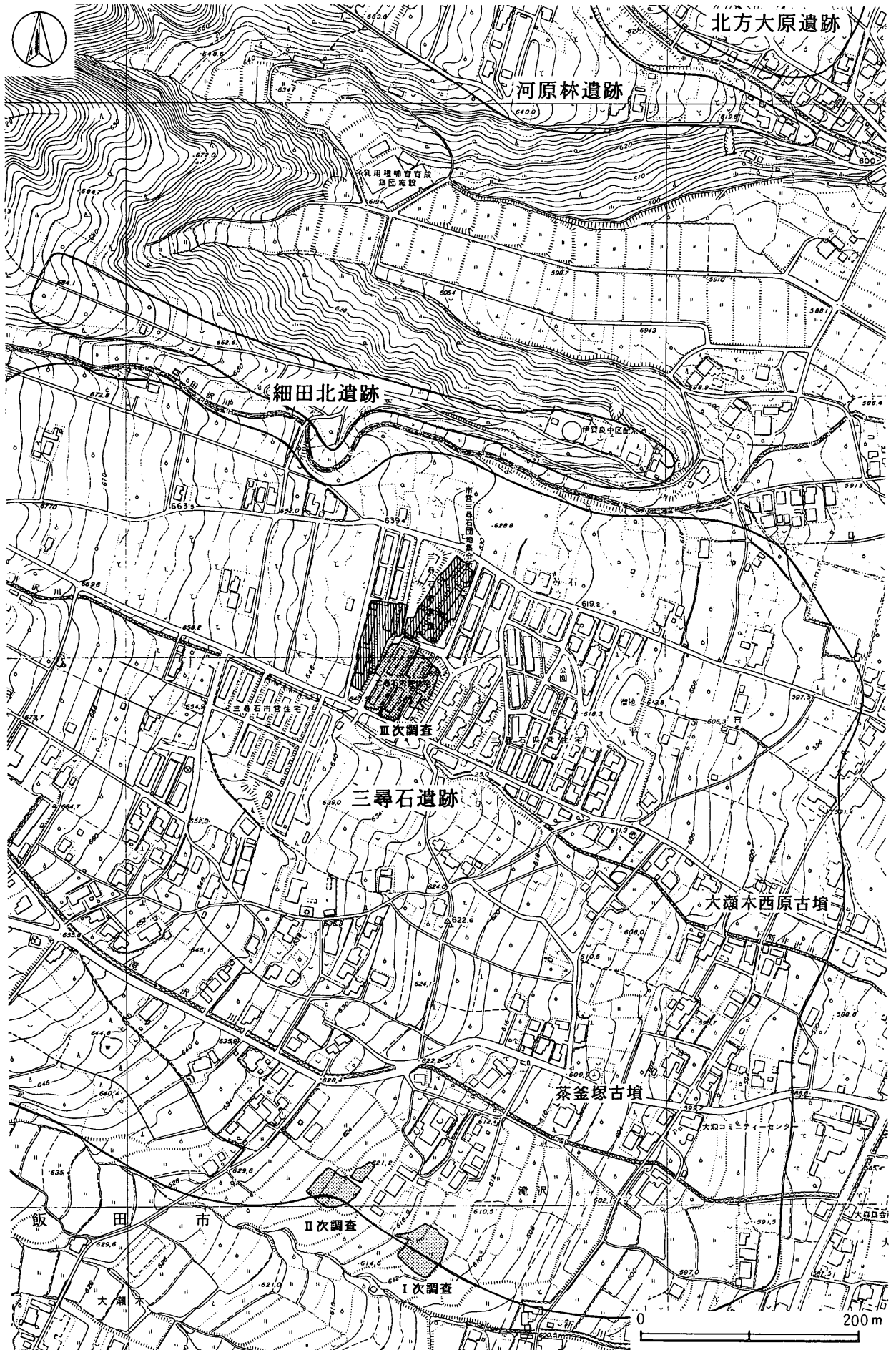
⑧ S B 34 (第12図)

検出位置	A S - 27		覆土					
重複	切る	なし	床面	堅固で明確な貼床南東側不明瞭				
	切られる	S B 33 S K 228	住居内施設	主柱穴	P 1 ・ P 3 ・ P 5 ~ 8	埋	場所	南東壁側
規模	プラン	円形		周溝	部分的にある		甕	状況
	規模 m	5.6 × 5.6	入口	不明				
形状	主軸	N 66° W	炉・竈	形状	(石囲炉)			
	壁高 cm	13		規模 cm	145 × 123			
	状態	やや緩やか		特記事項				
出土遺物 (第36・37・45図)								
深鉢								
打製石斧横刃形石器磨石石鏃								
特記事項								
時期	縄文時代中期後葉		根拠	出土遺物				

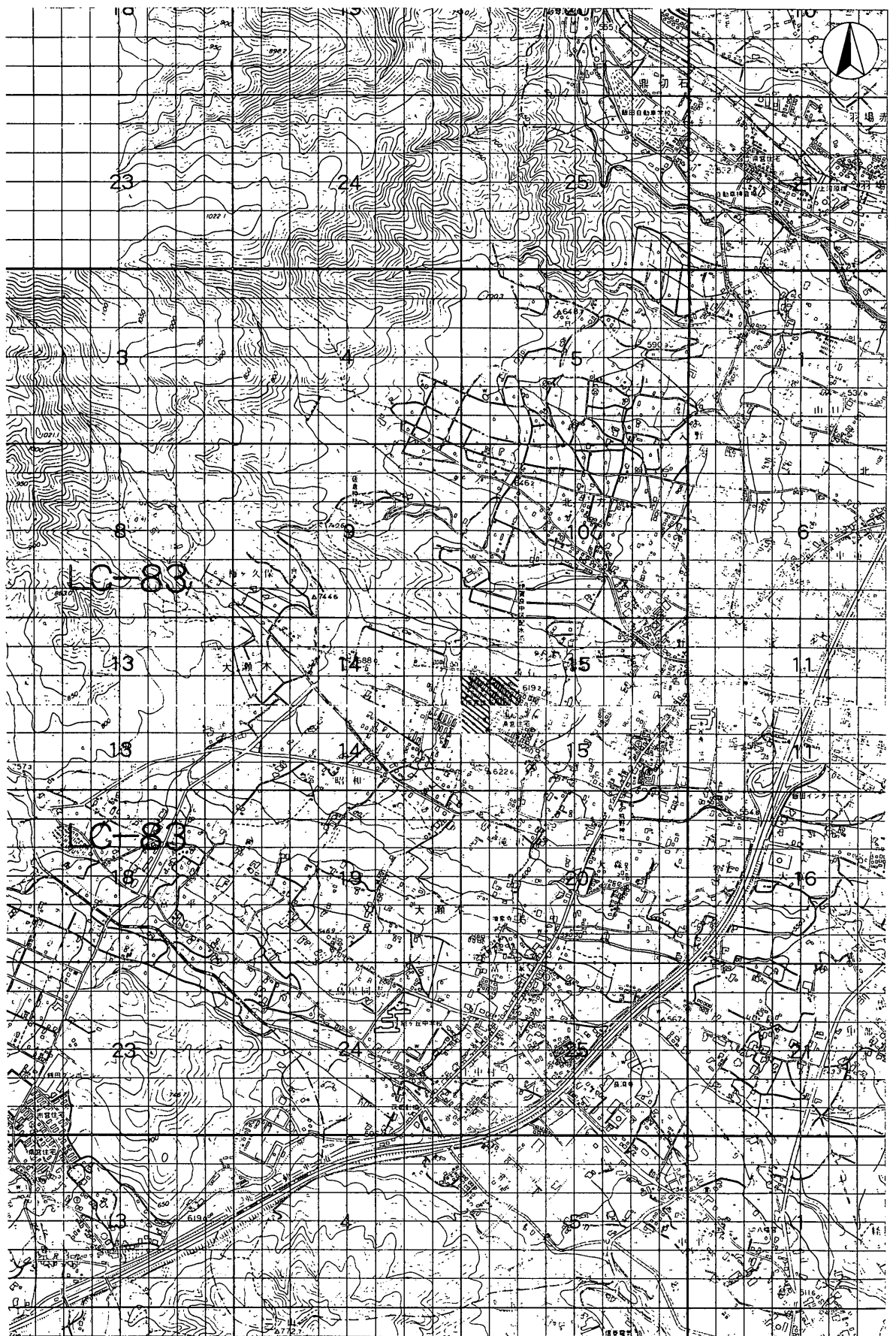




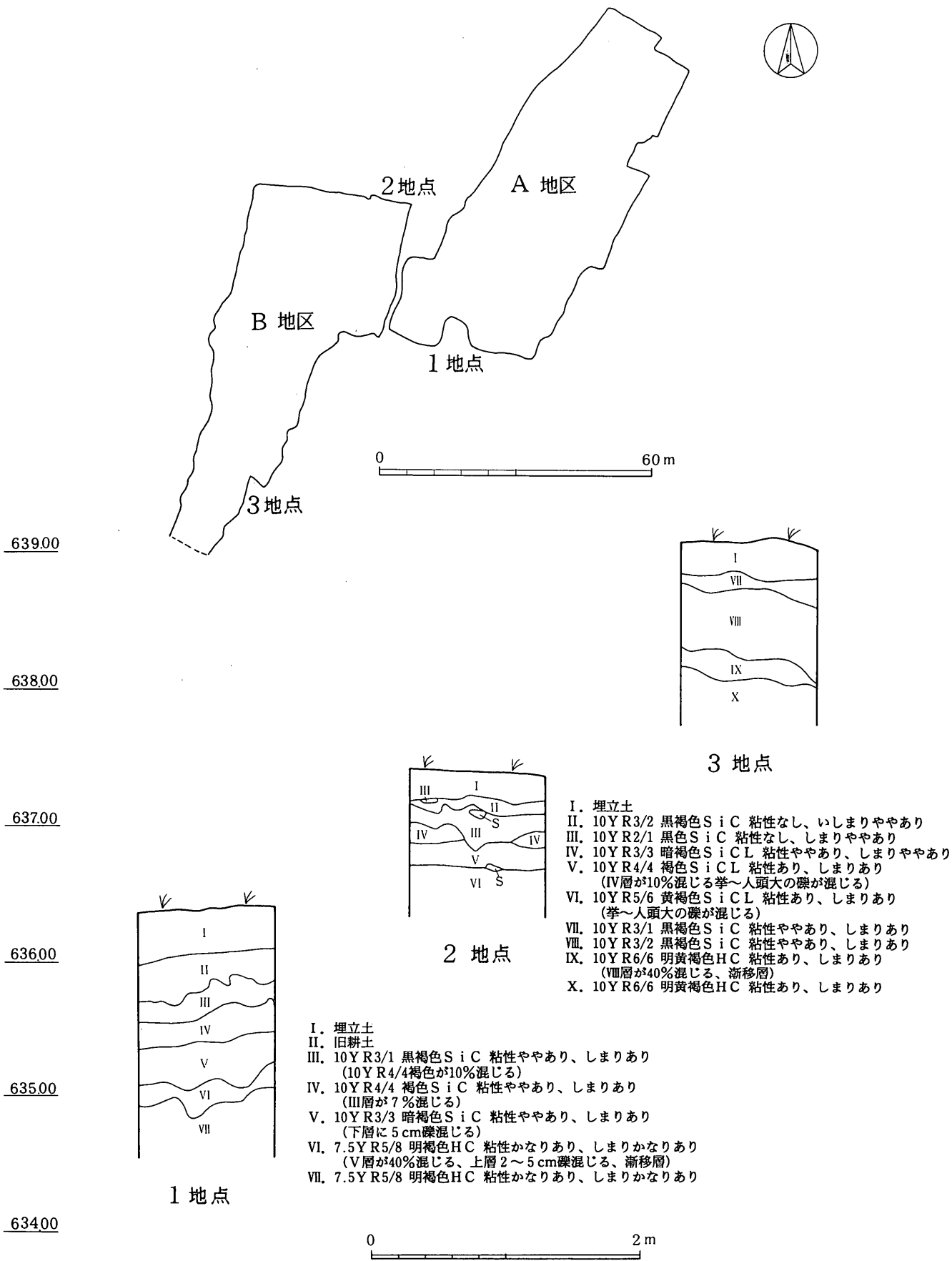
第1図 調査遺跡及び周辺遺跡位置図



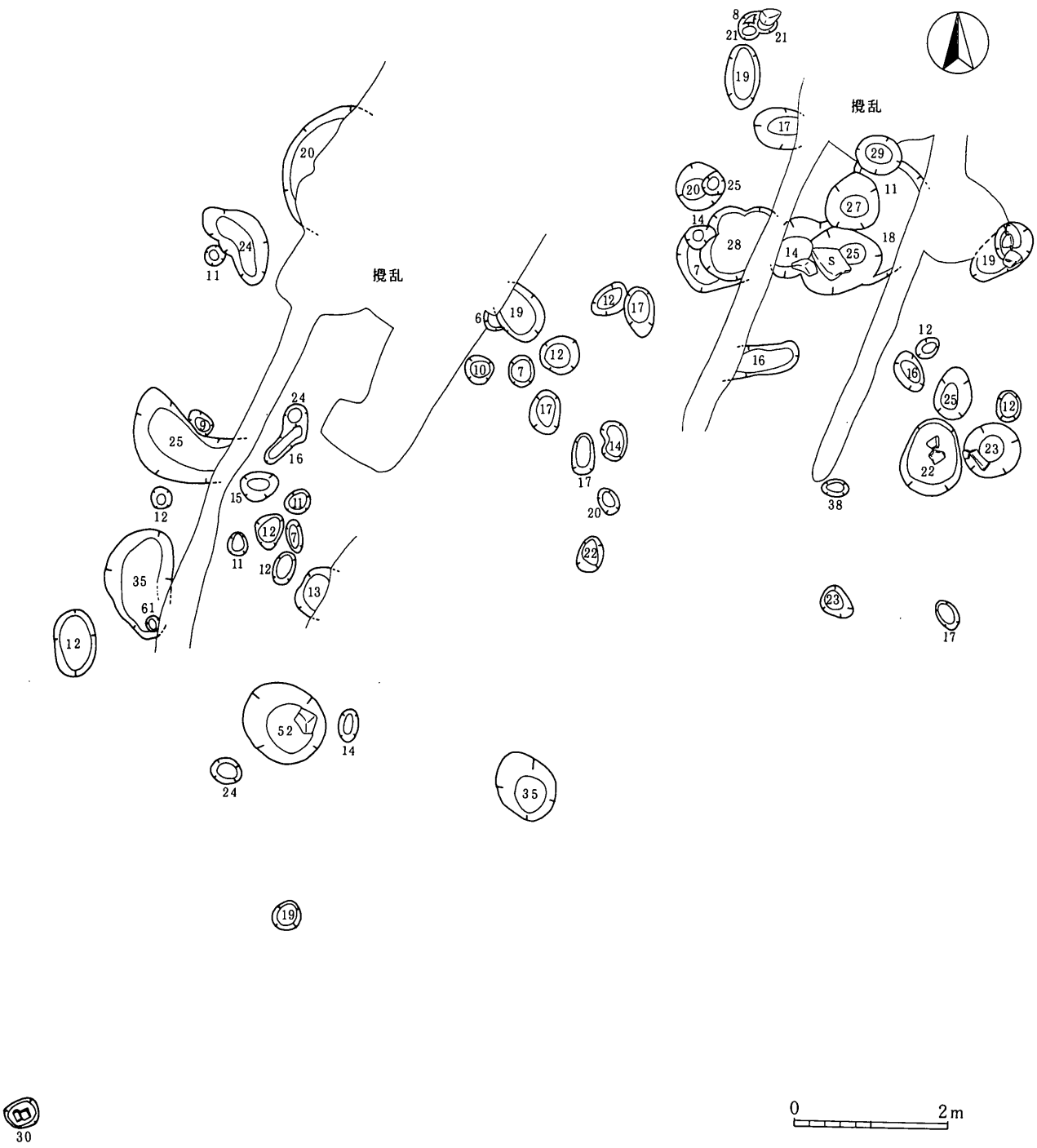
第 2 図 調査位置図及び周辺地図



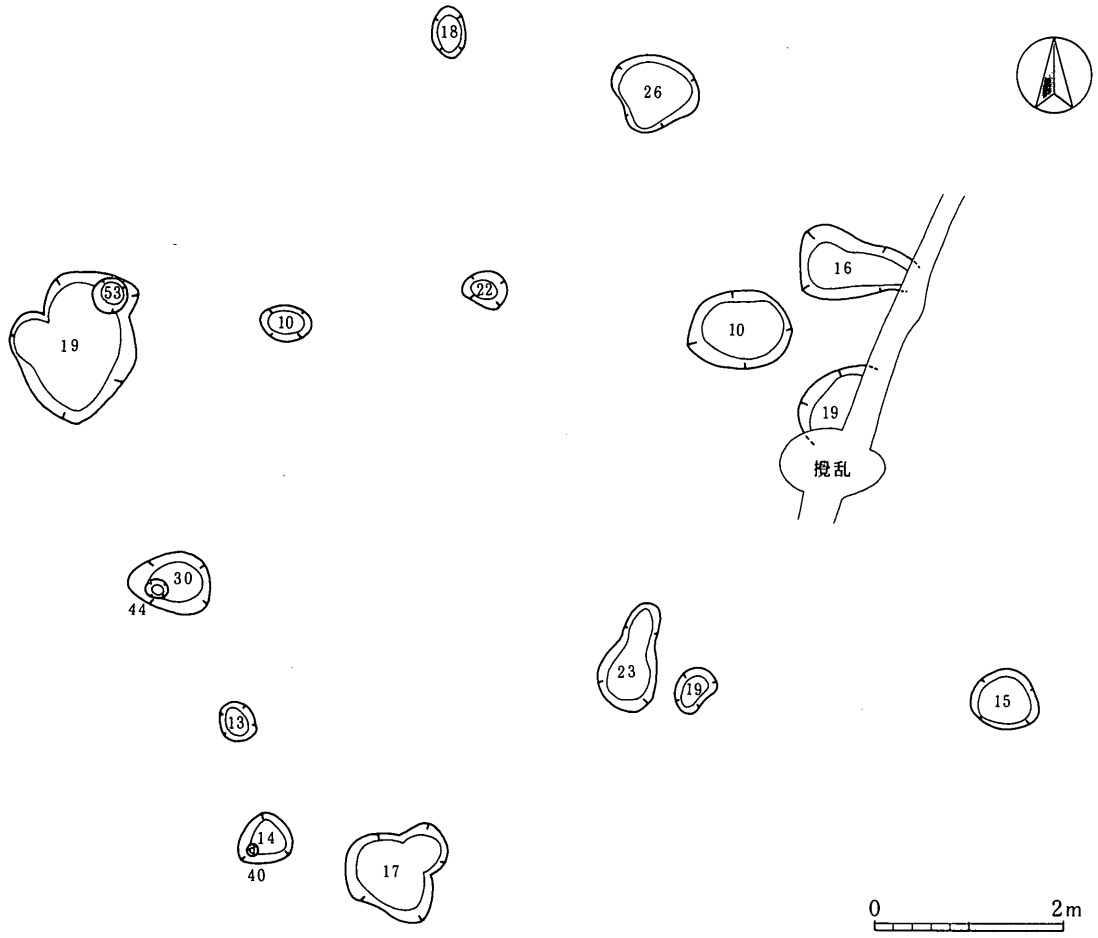
第3図 基準メッシュ区画調査位置図



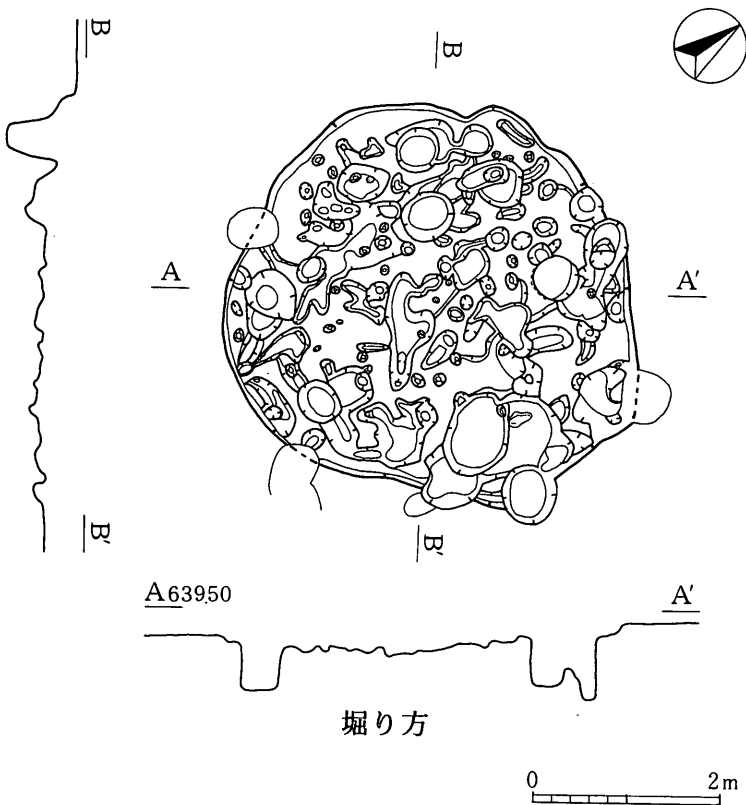
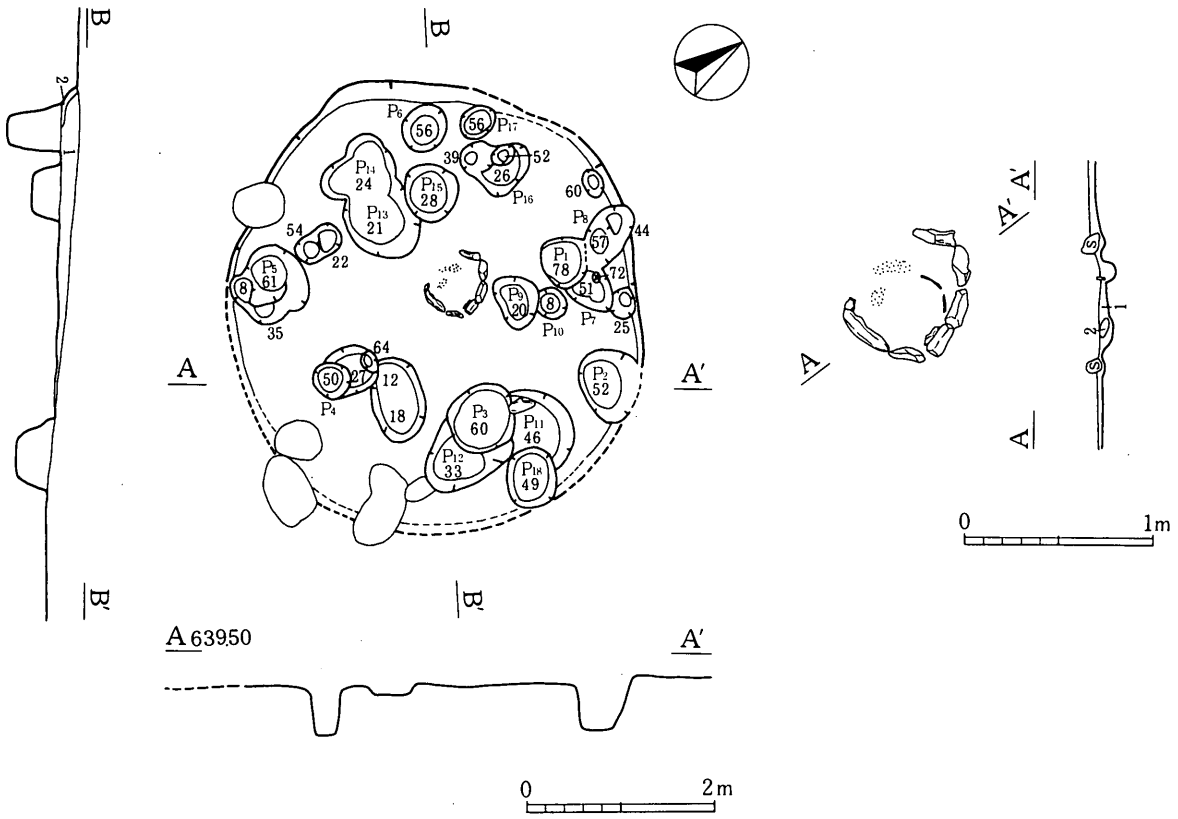
第4図 基本層序



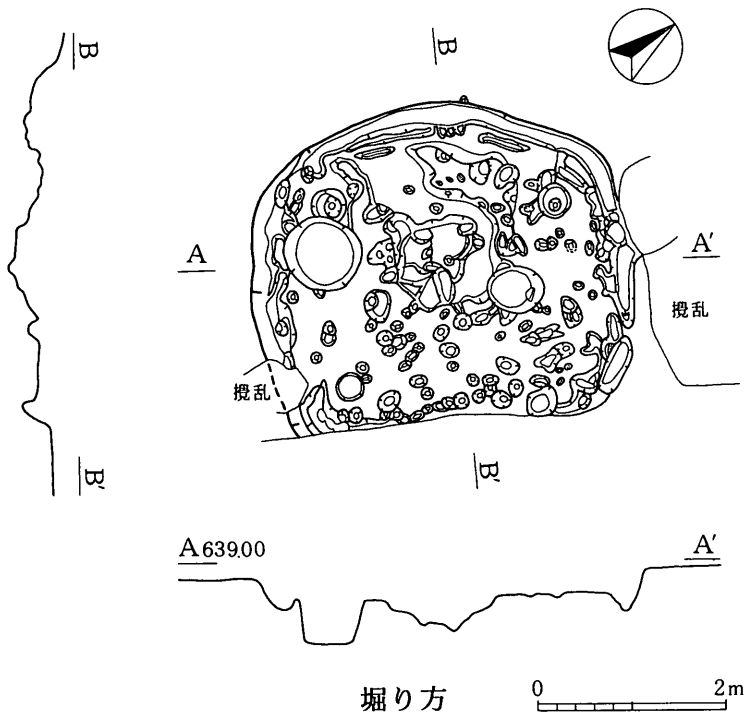
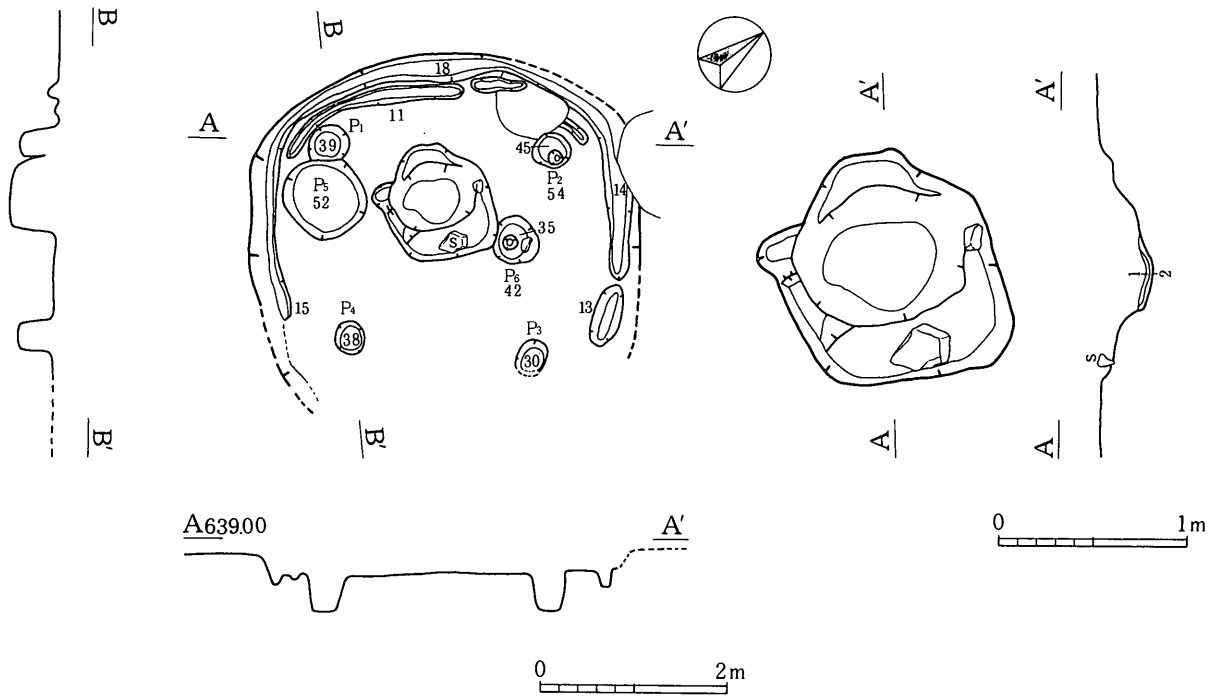
第5図 A地区 ピット (1)



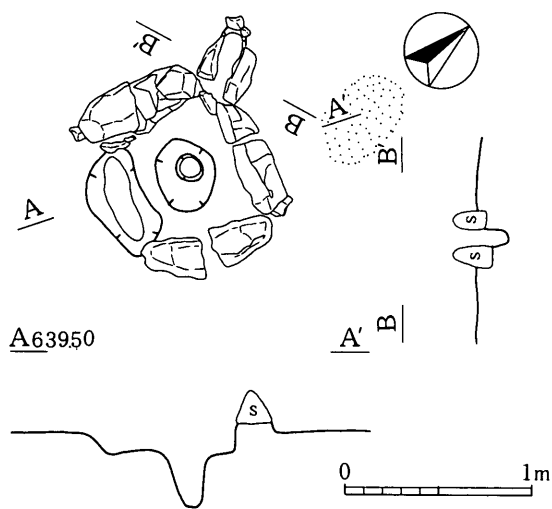
第6図 A地区 ピット (2)



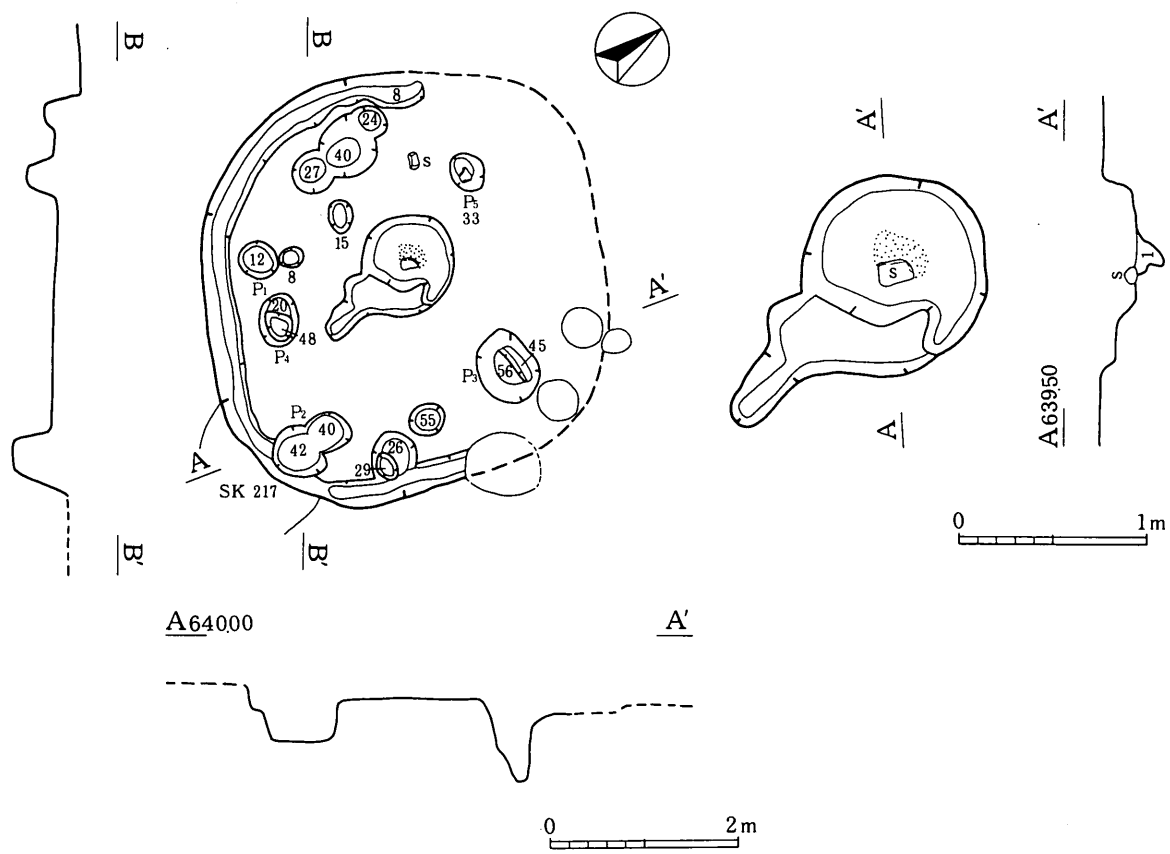
第7図 SB26



第8図 SB27

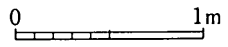
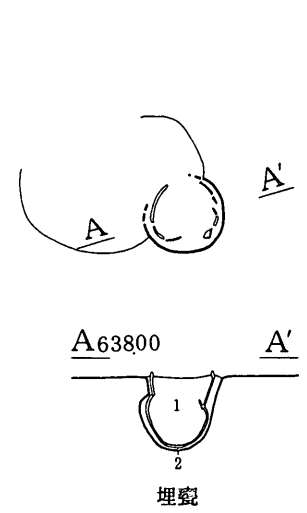
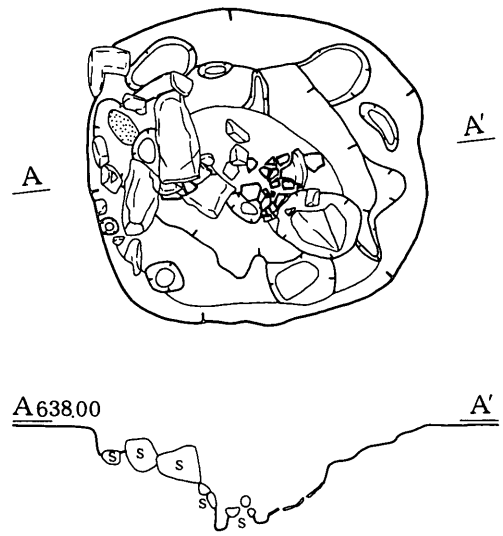
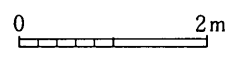
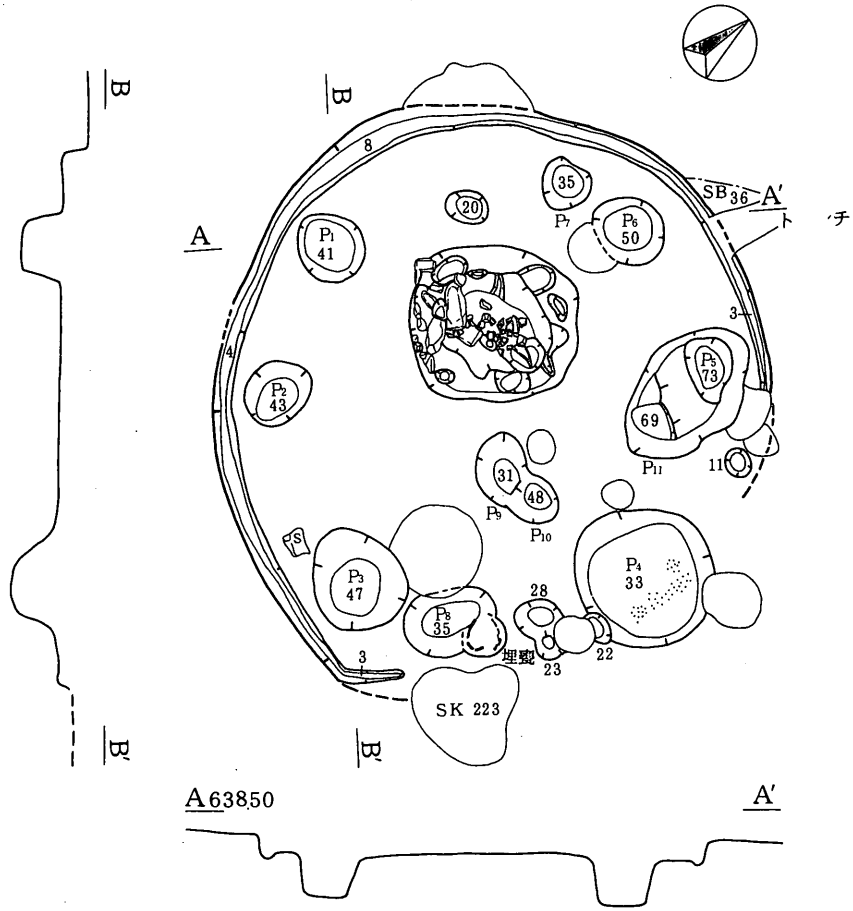


SB 28 炉

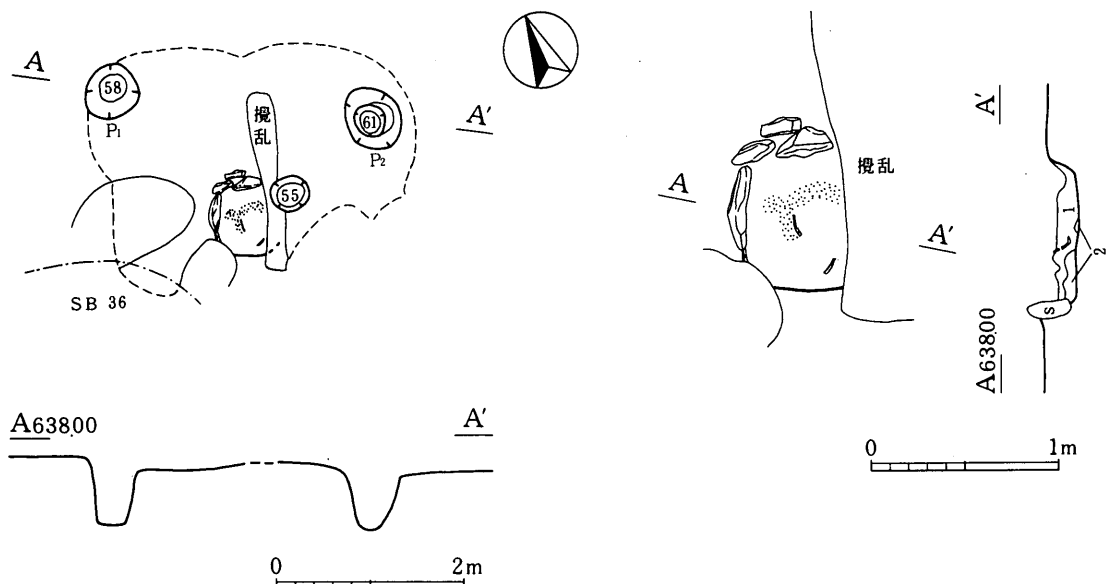


SB 29

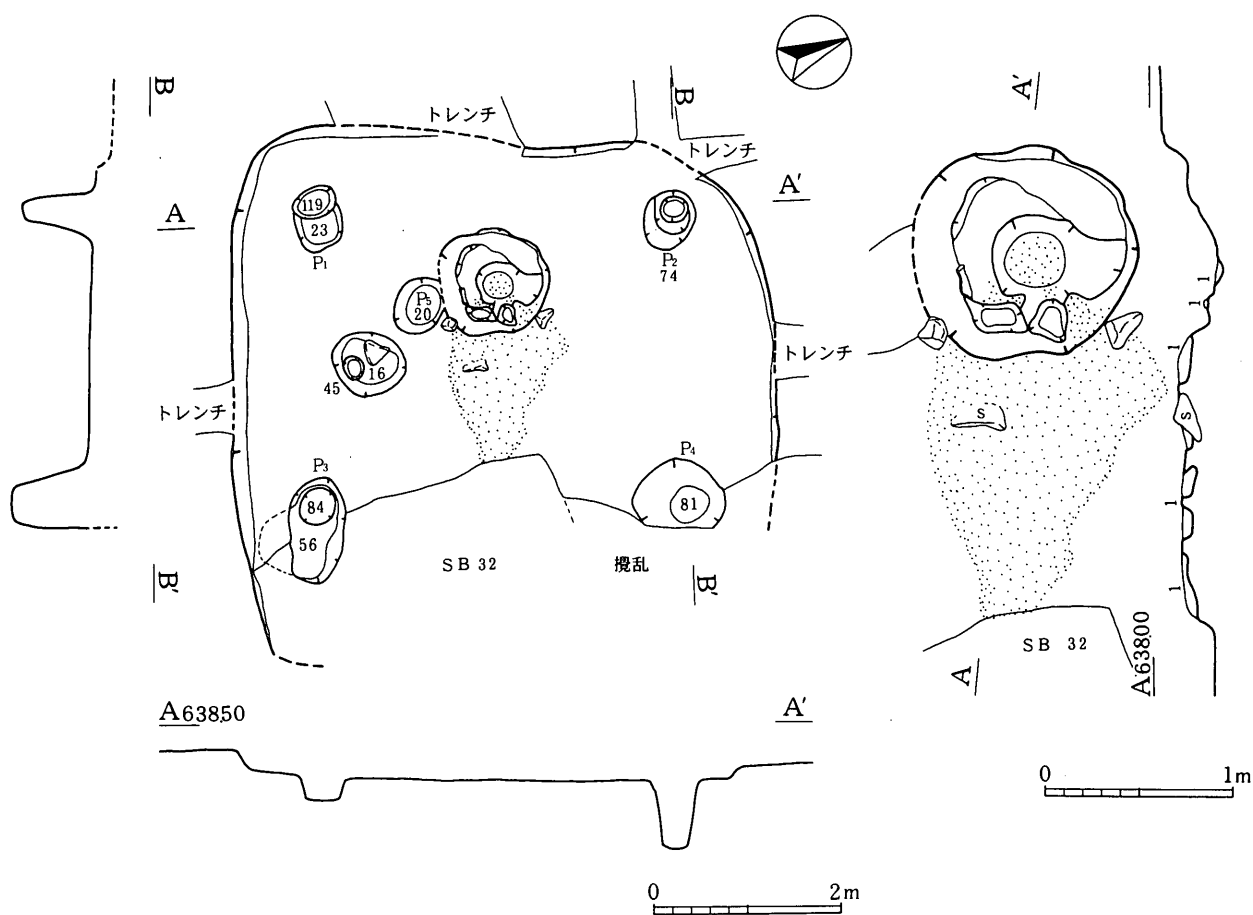
第9图 SB28·29



第10図 SB30

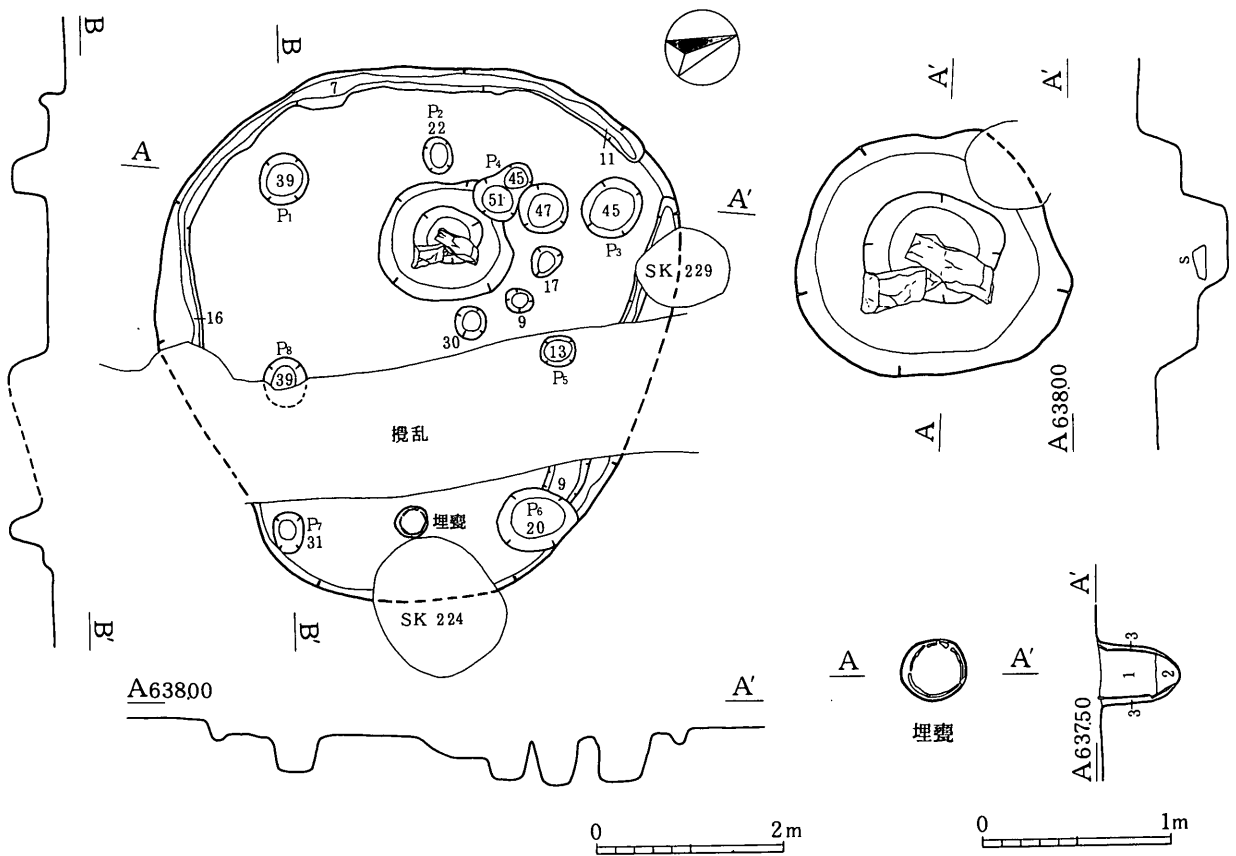


SB 31

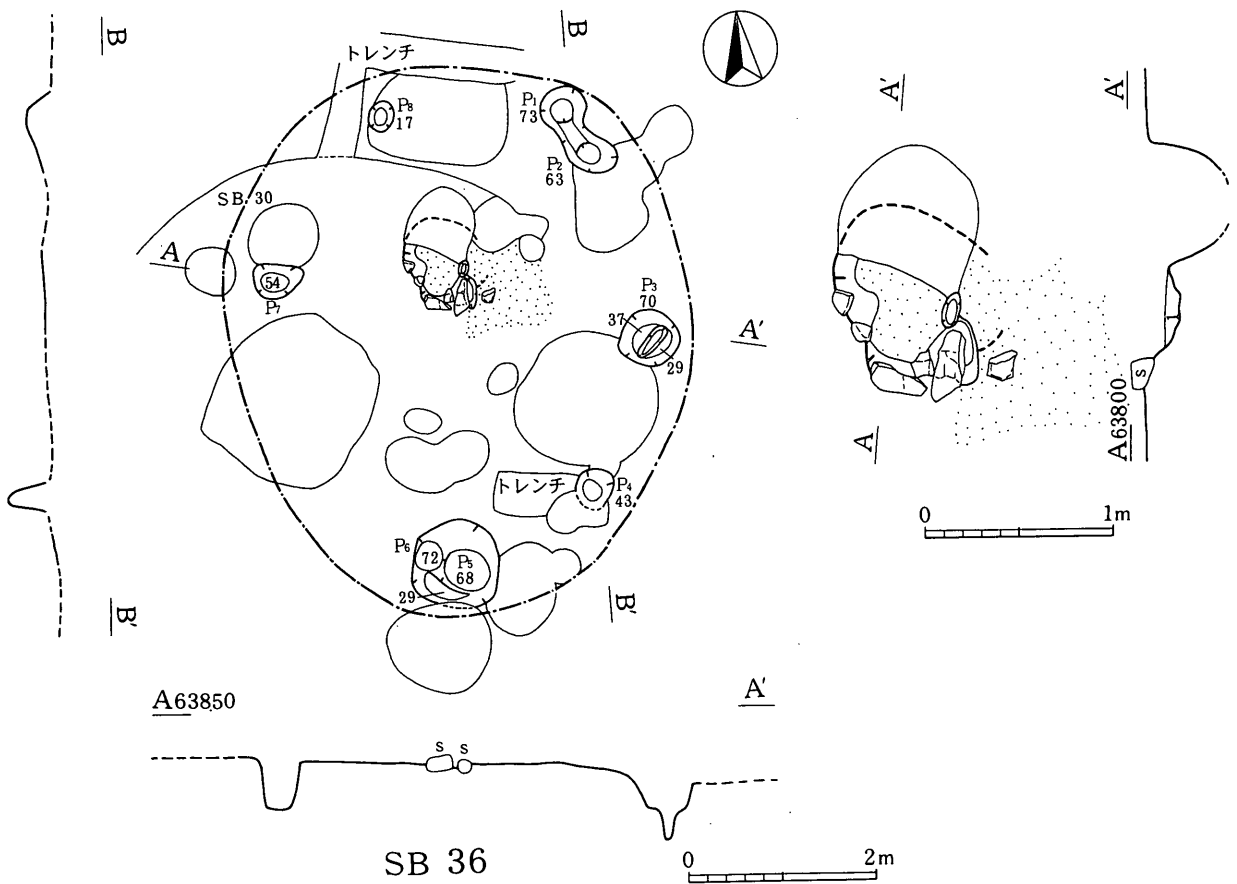


SB 33

第11図 SB31・33

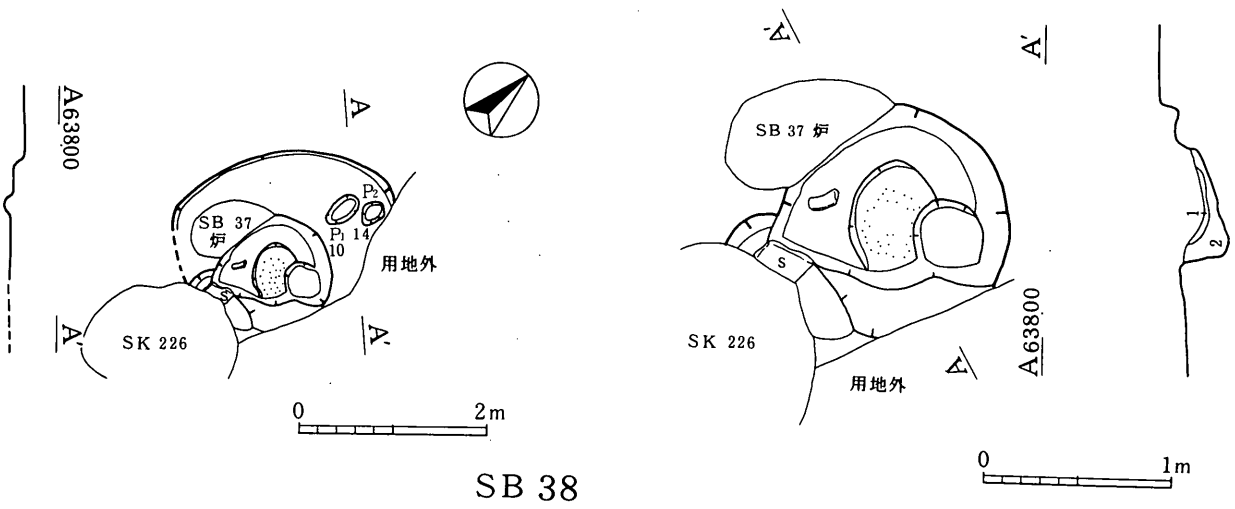
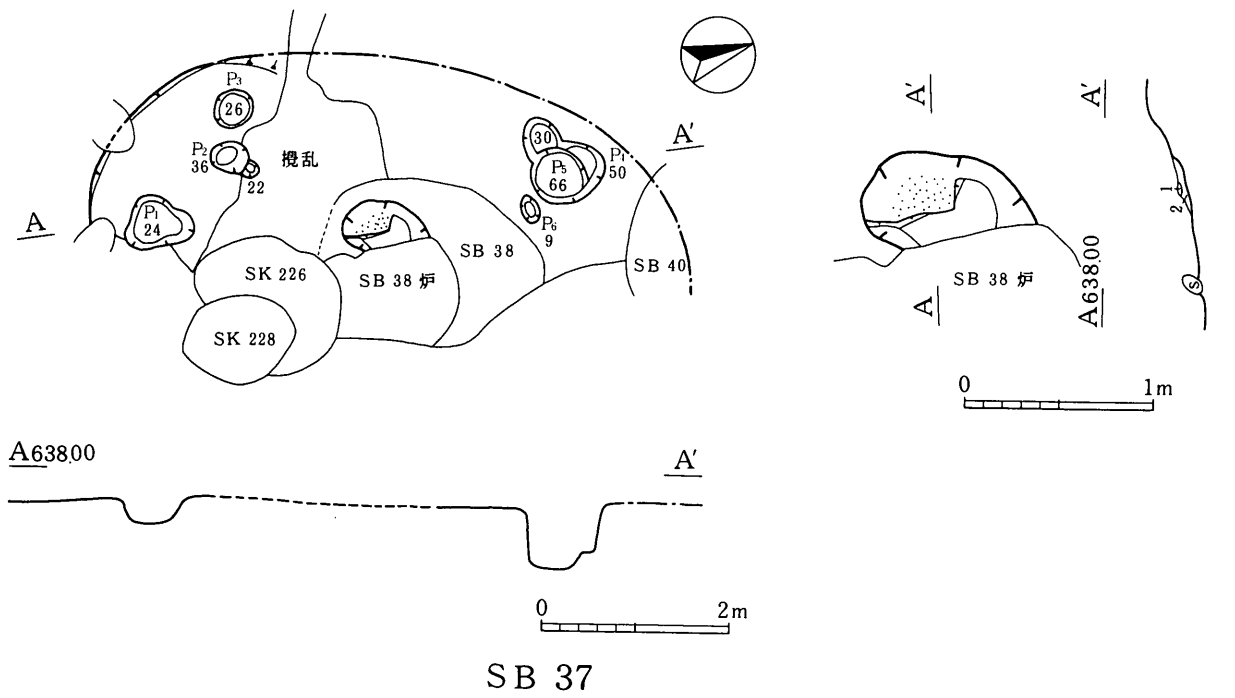


SB 34

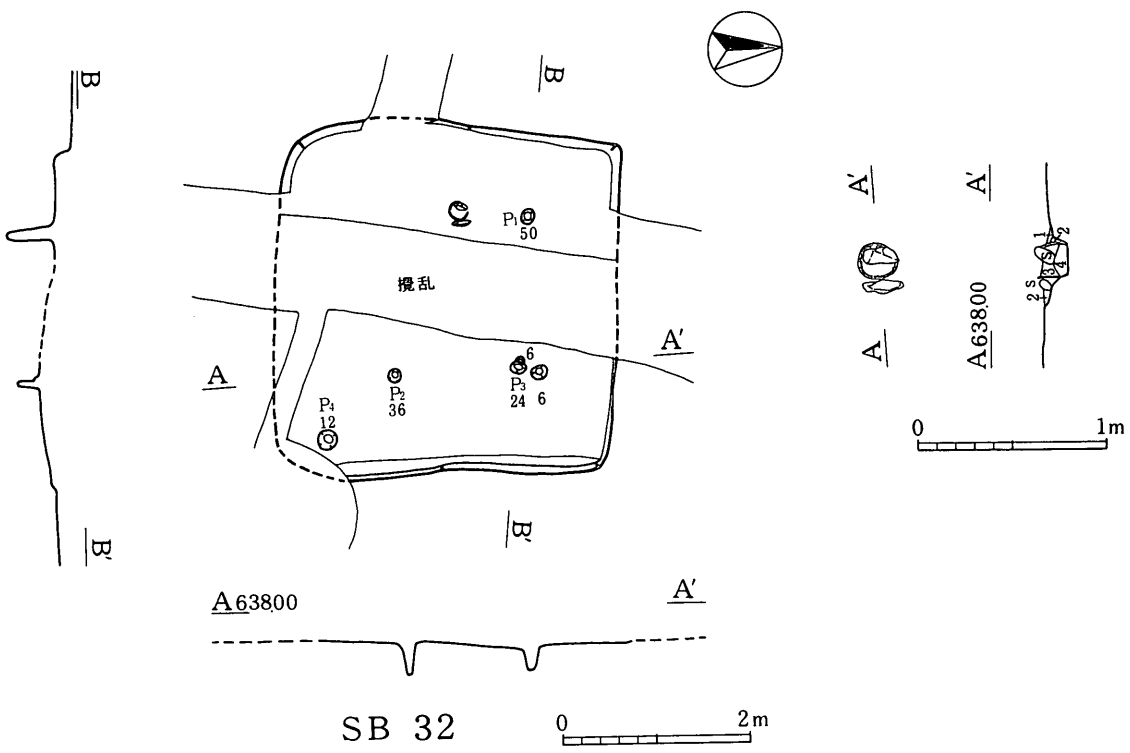
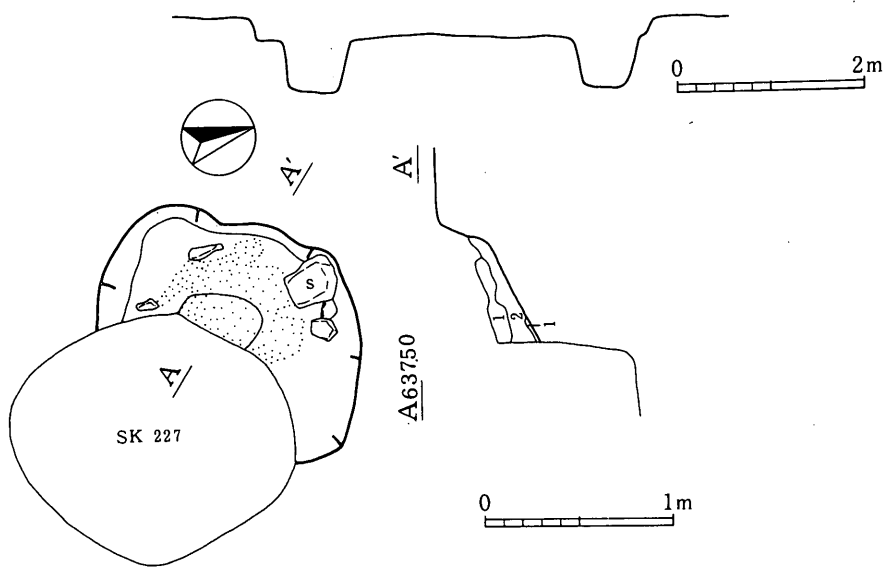
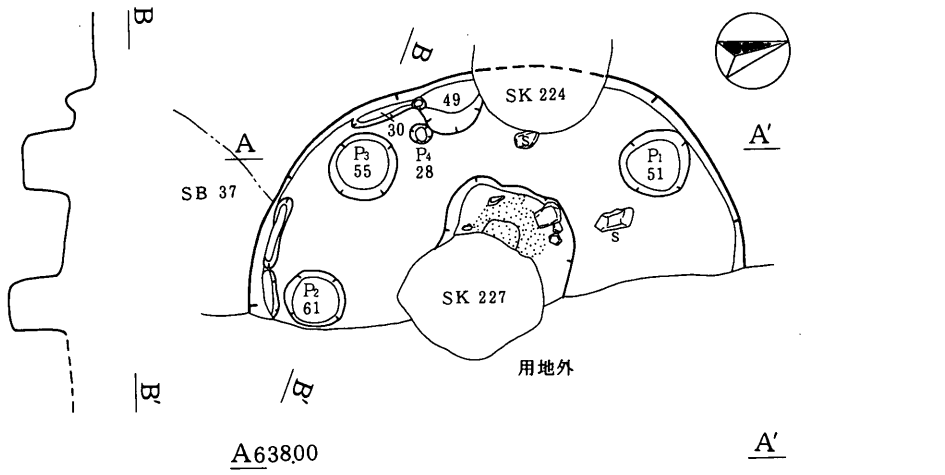


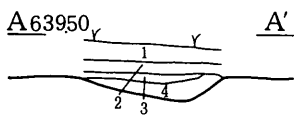
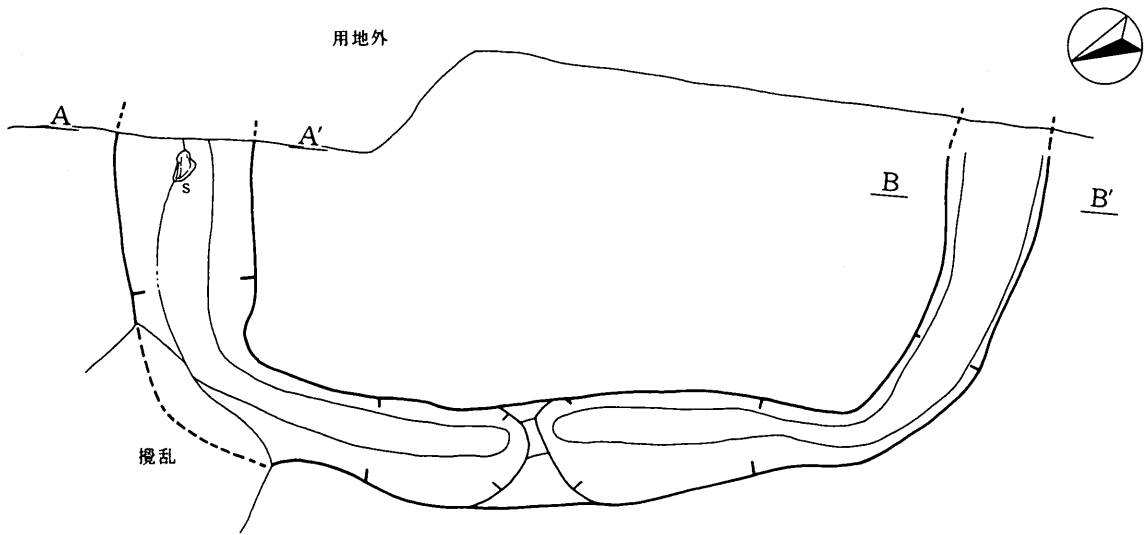
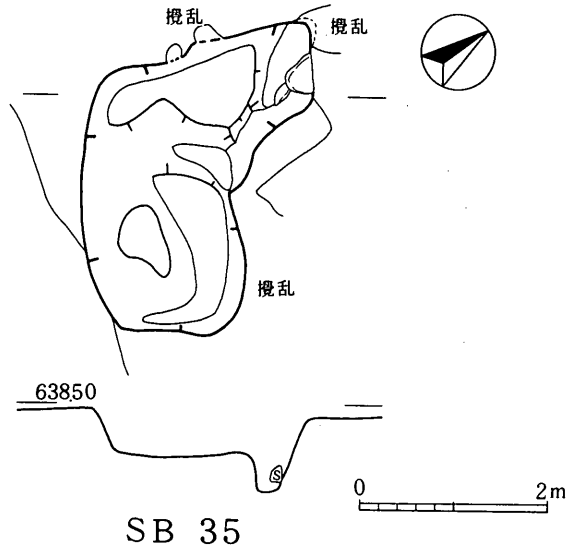
SB 36

第12図 SB 34・36

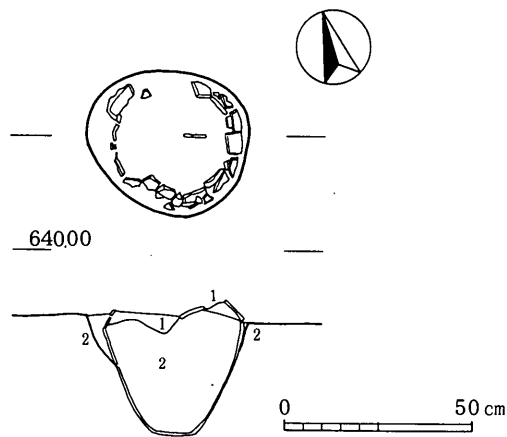
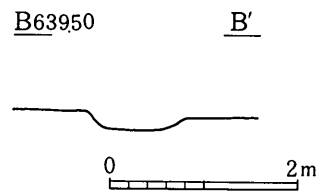


第13図 SB 37・38



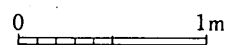
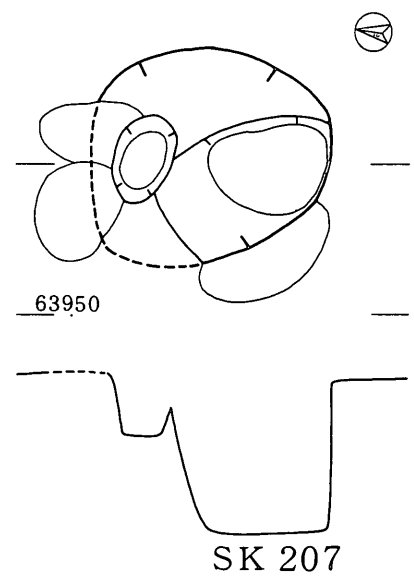
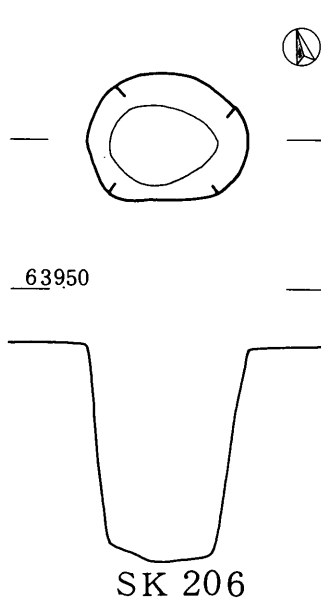
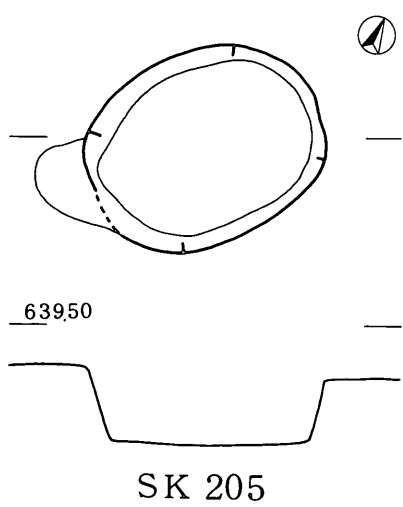
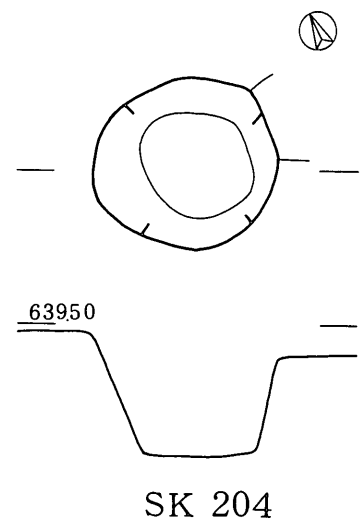
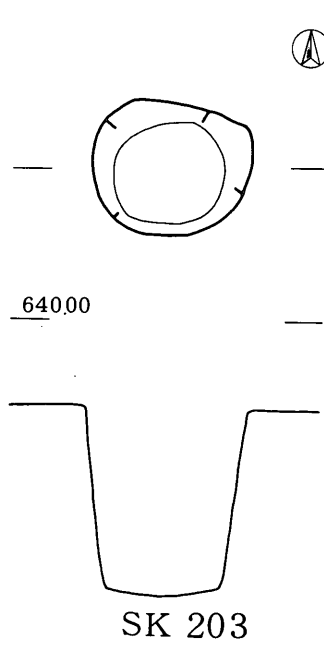
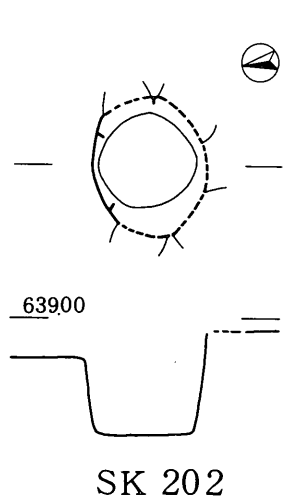
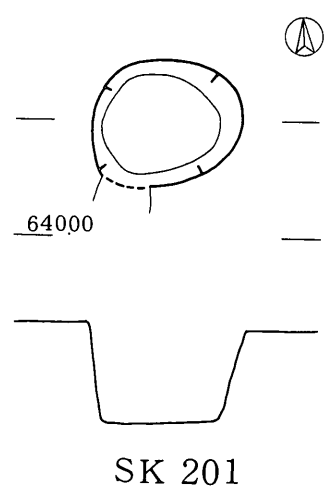
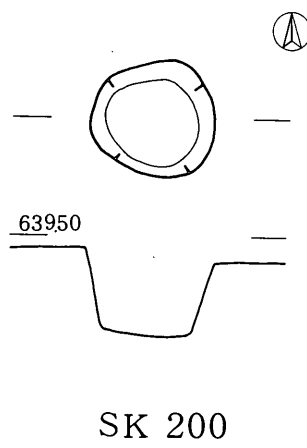
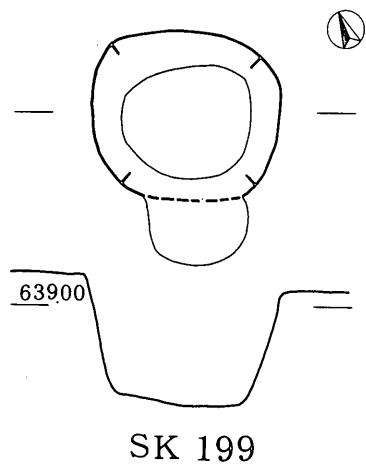


SM 01

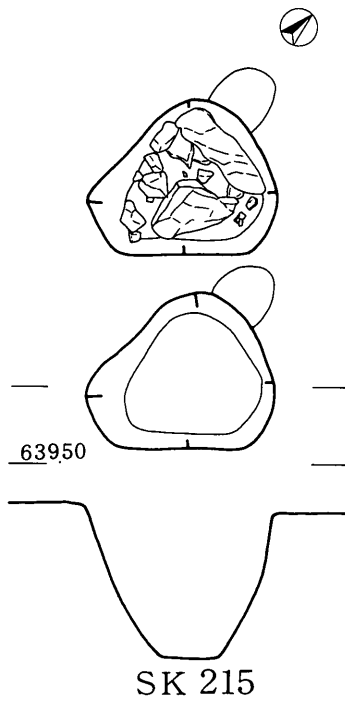
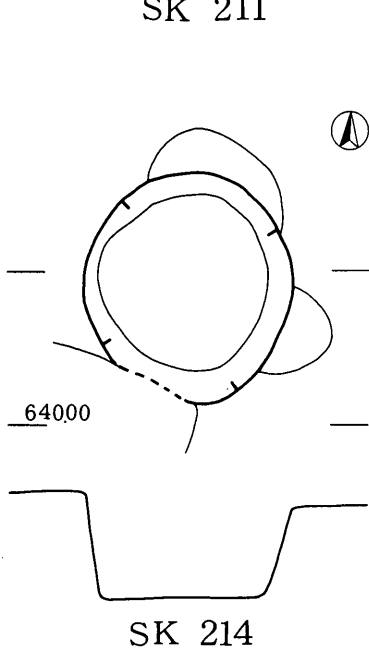
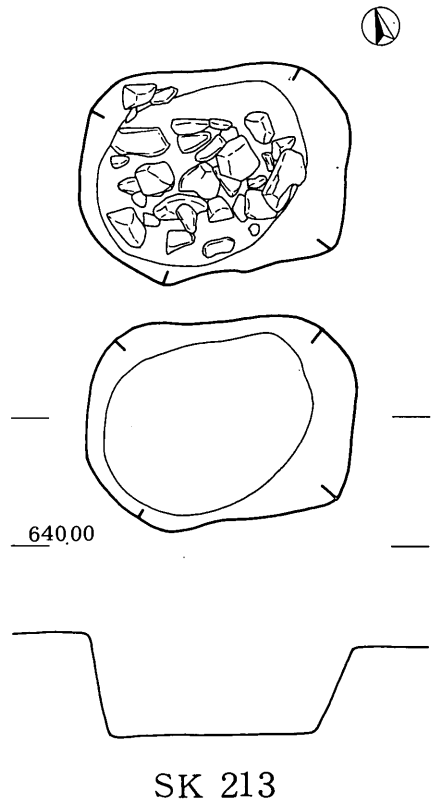
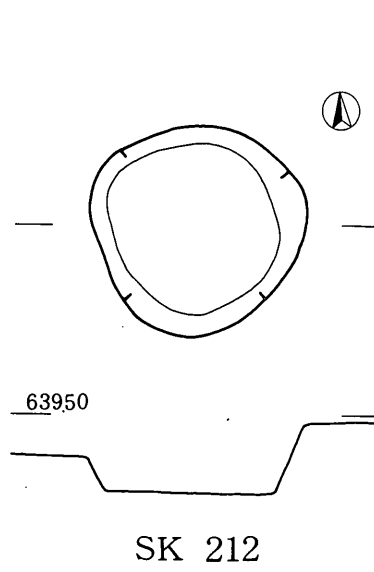
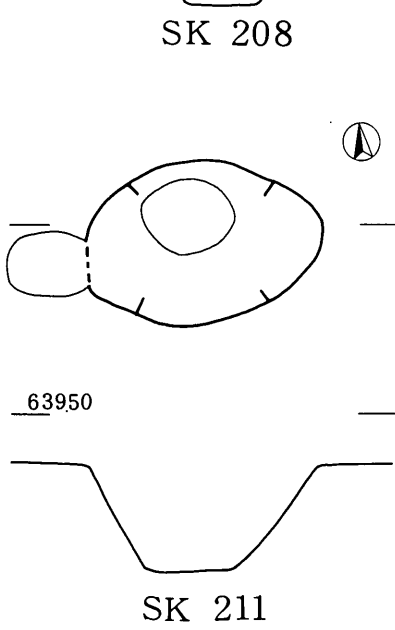
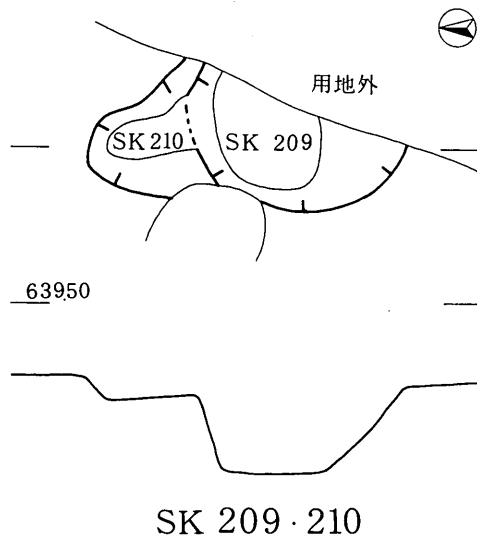
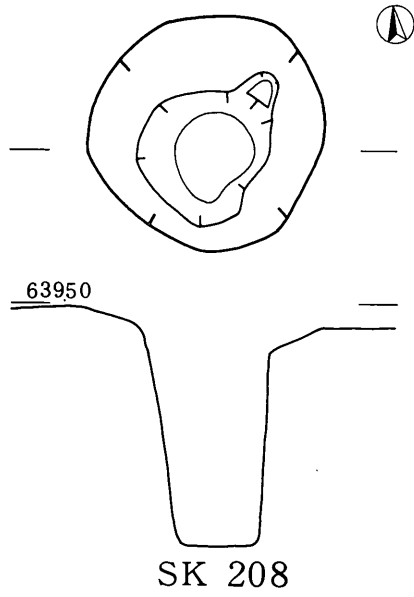


埋設土器

第15図 SB 35・SM01・埋設土器 1

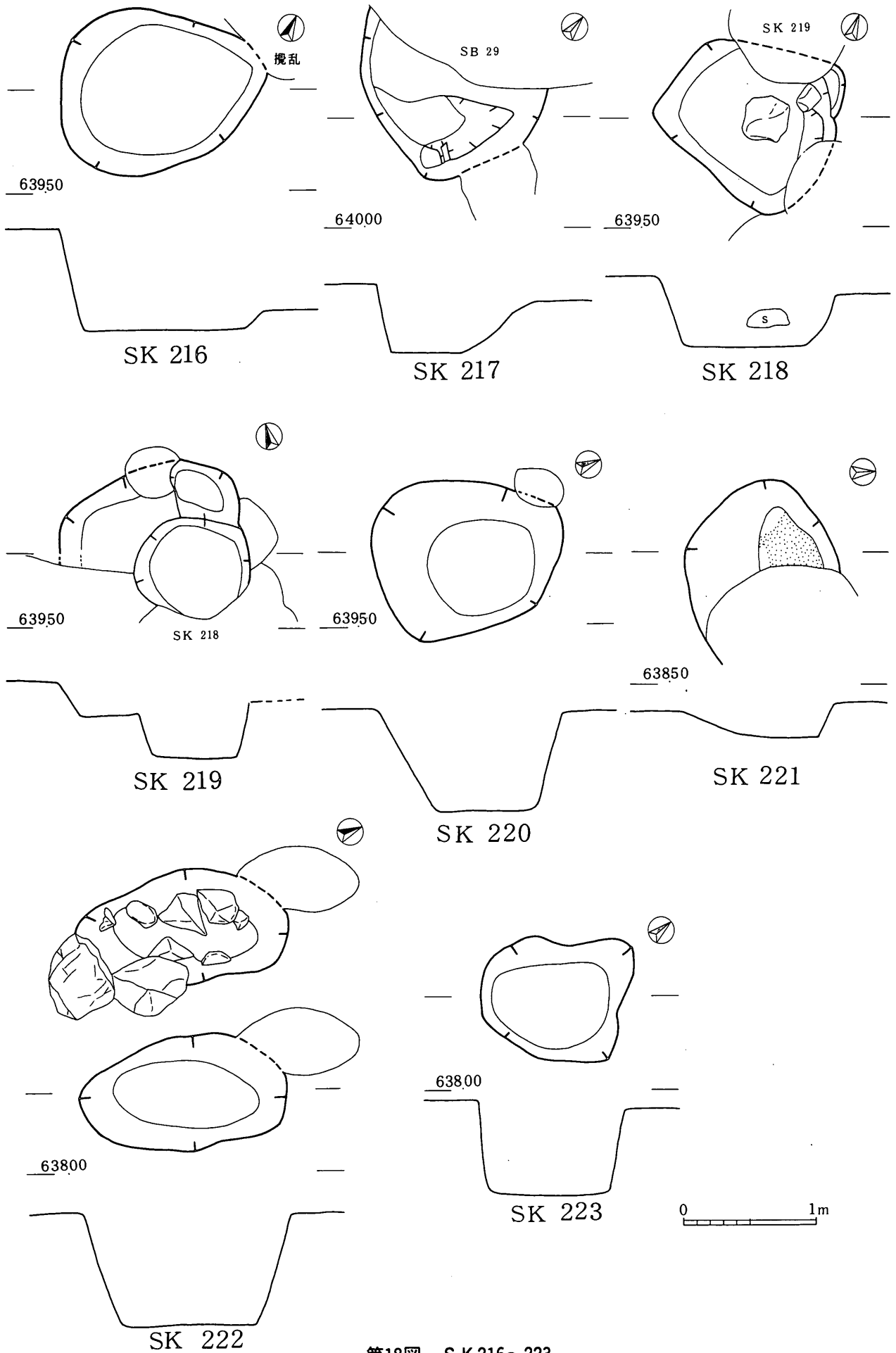


第16图 SK 199~207

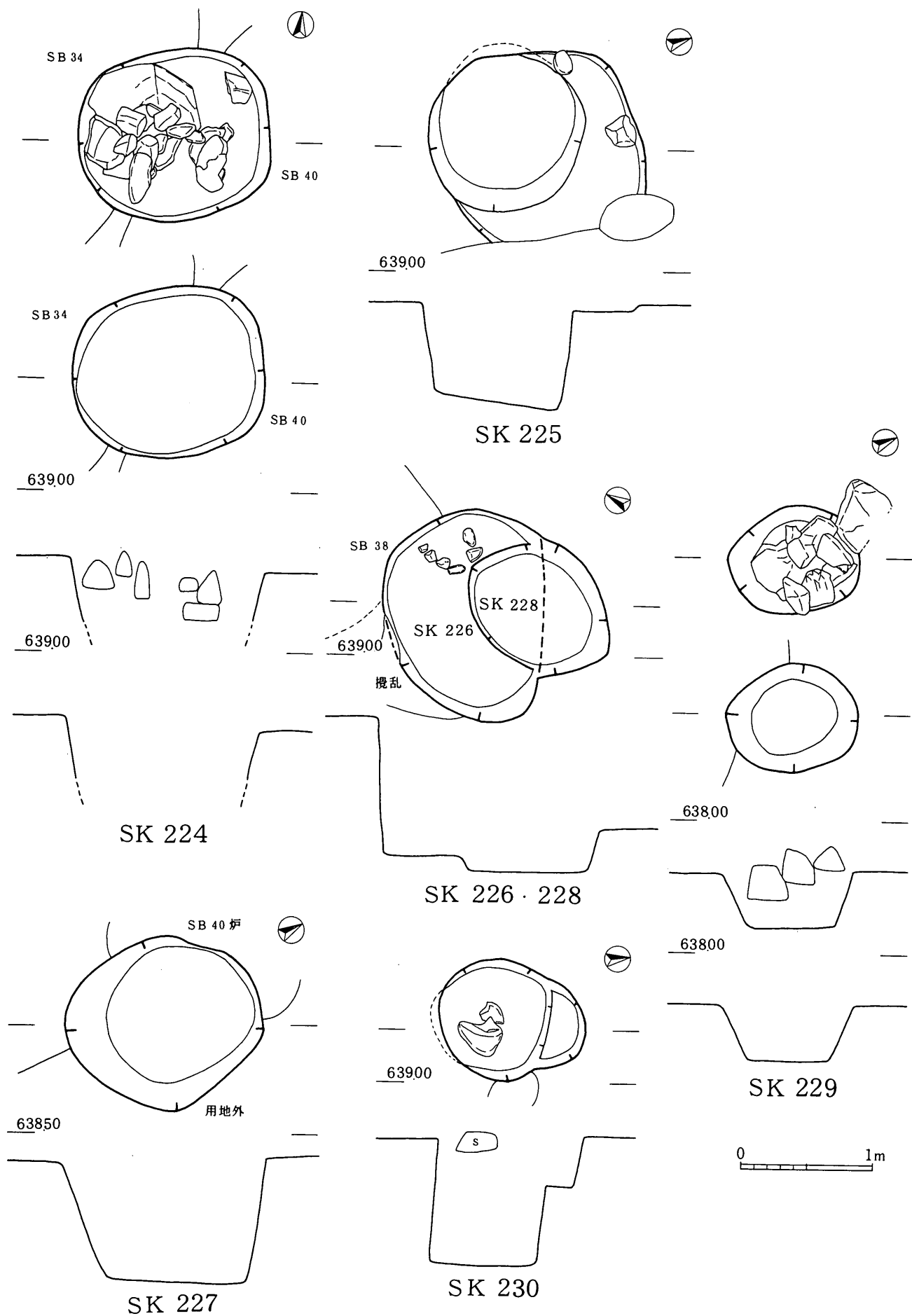


0 1m

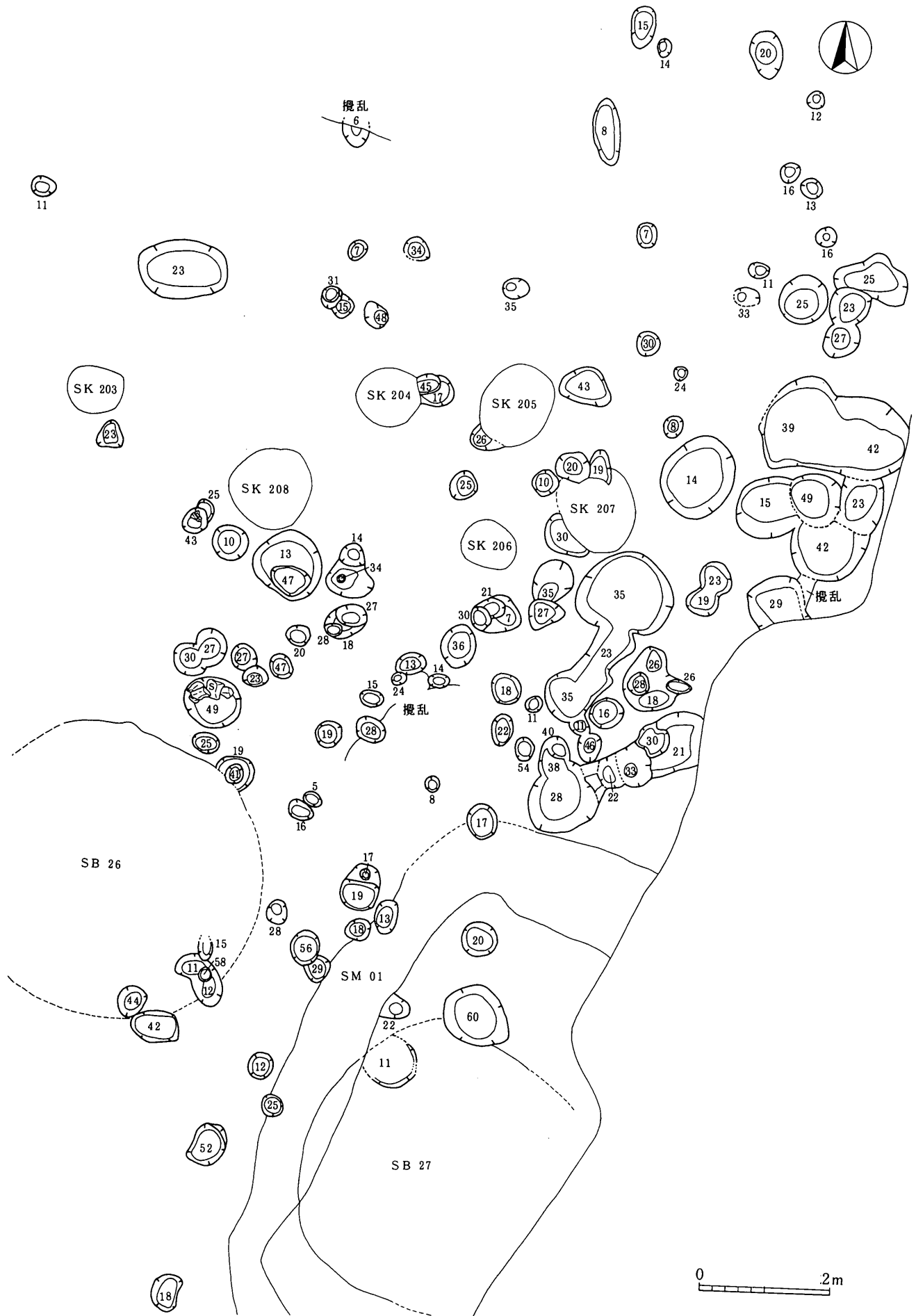
第17図 SK 208~215



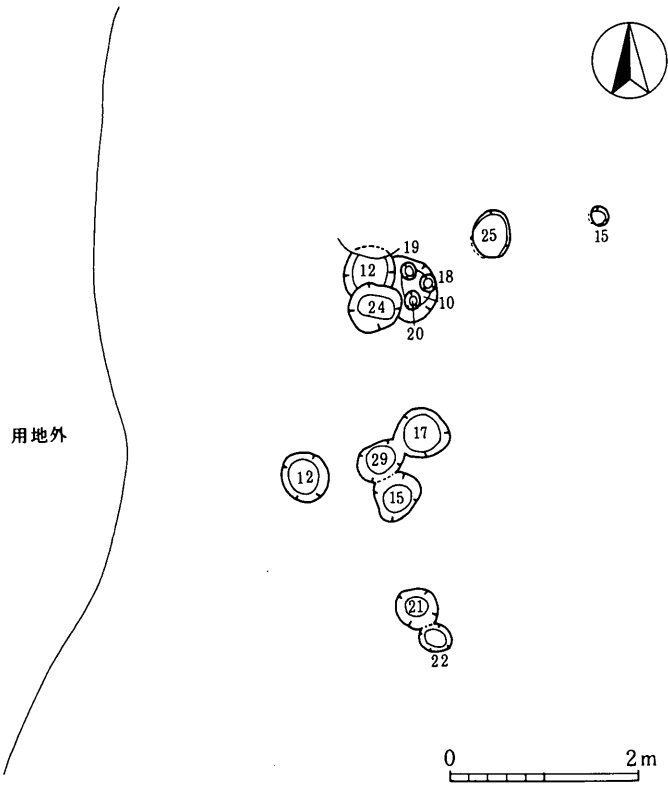
第18图 SK 216~223



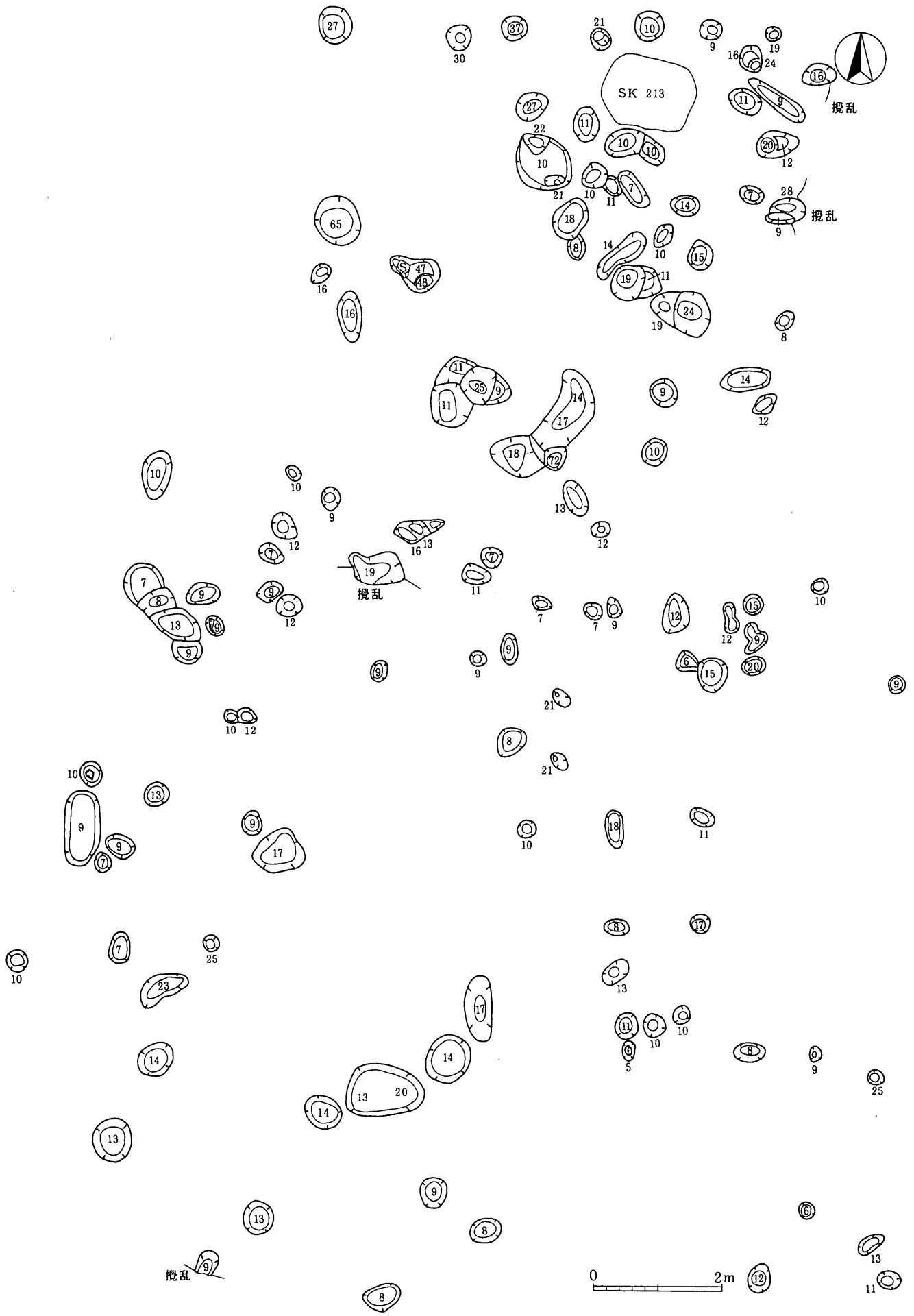
第19图 SK 224~230



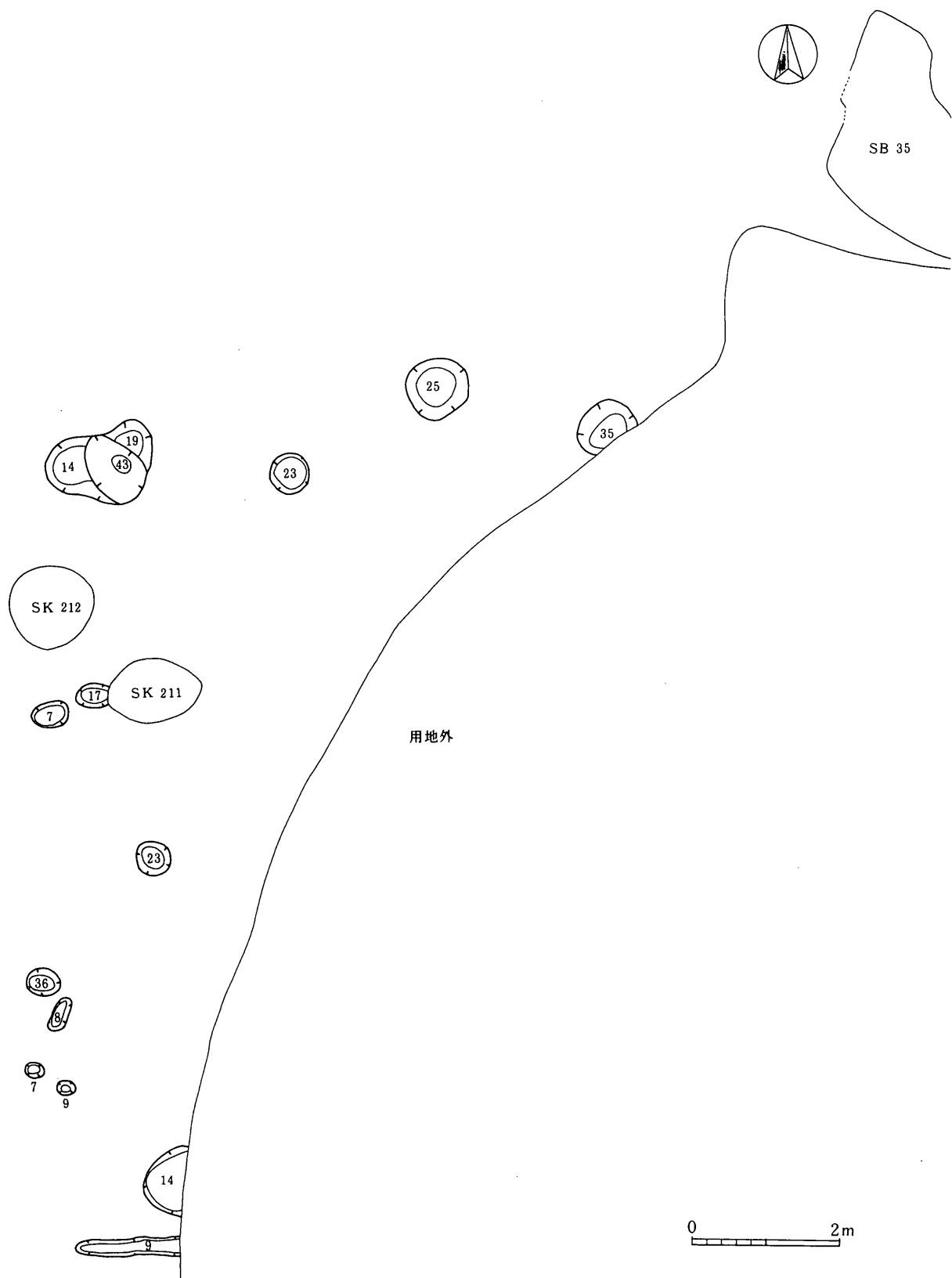
第21図 B地区 ピット (2)



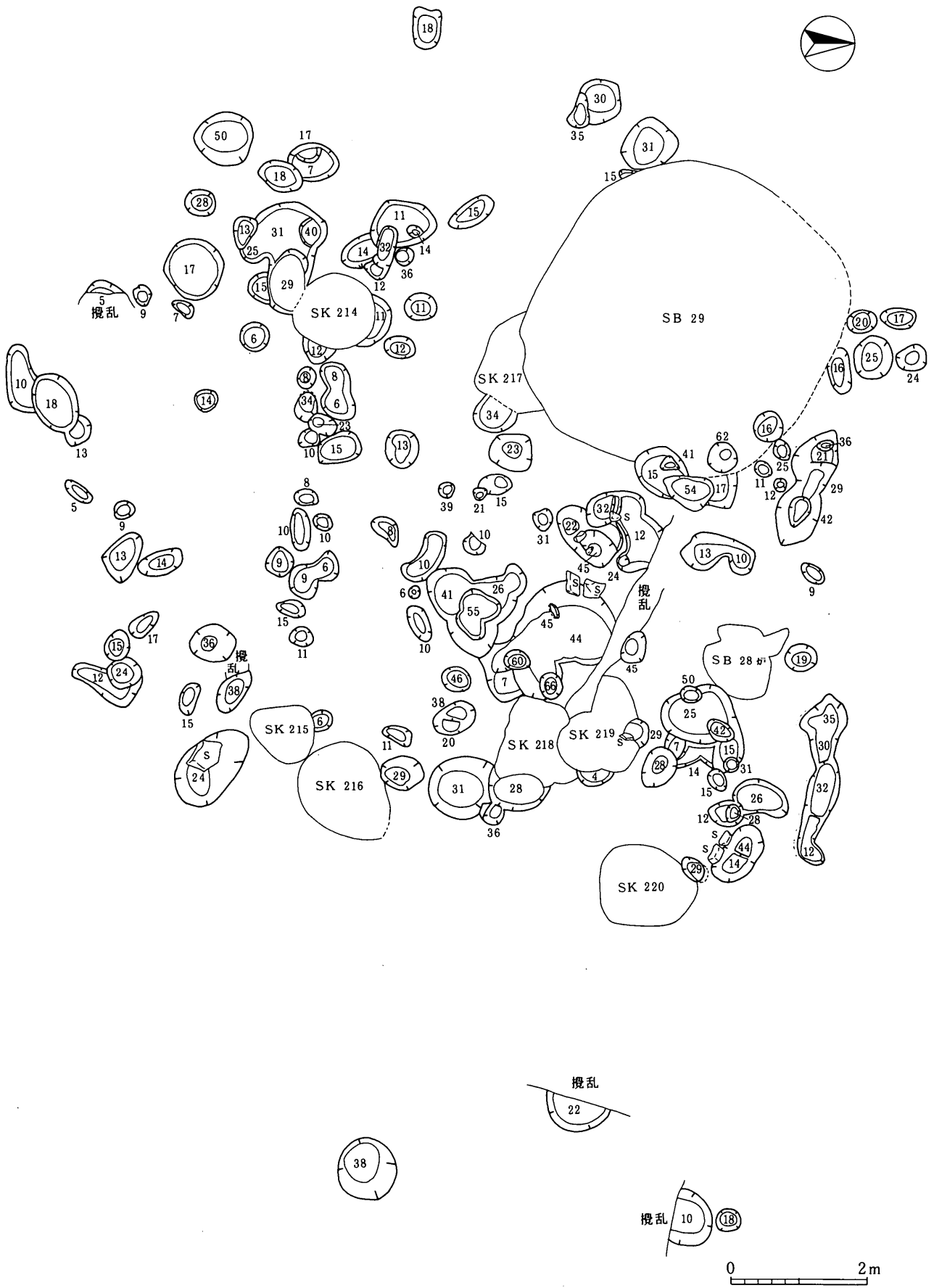
第22図 B地区 ピット (3)



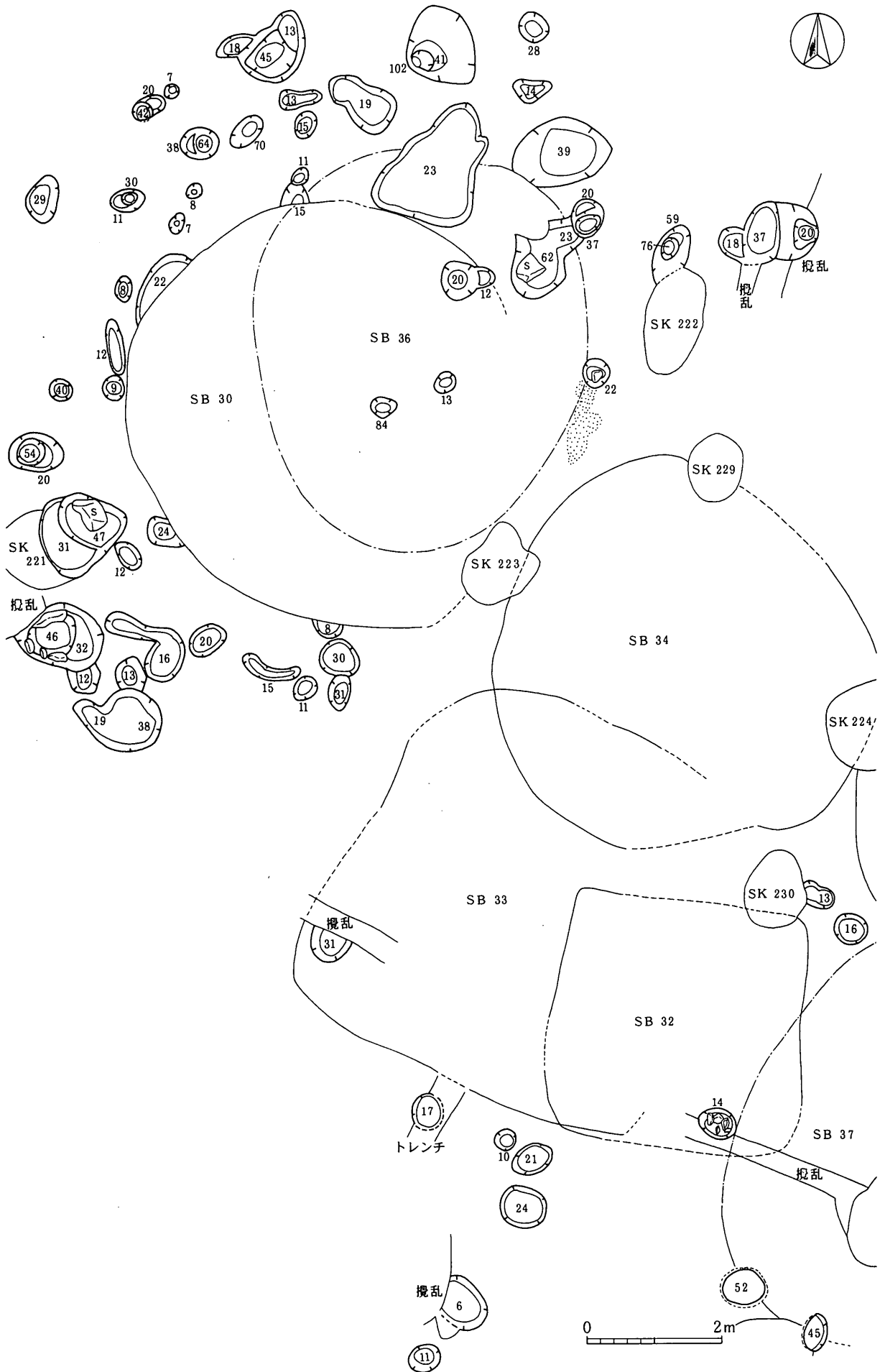
第23図 B地区 ピット (4)



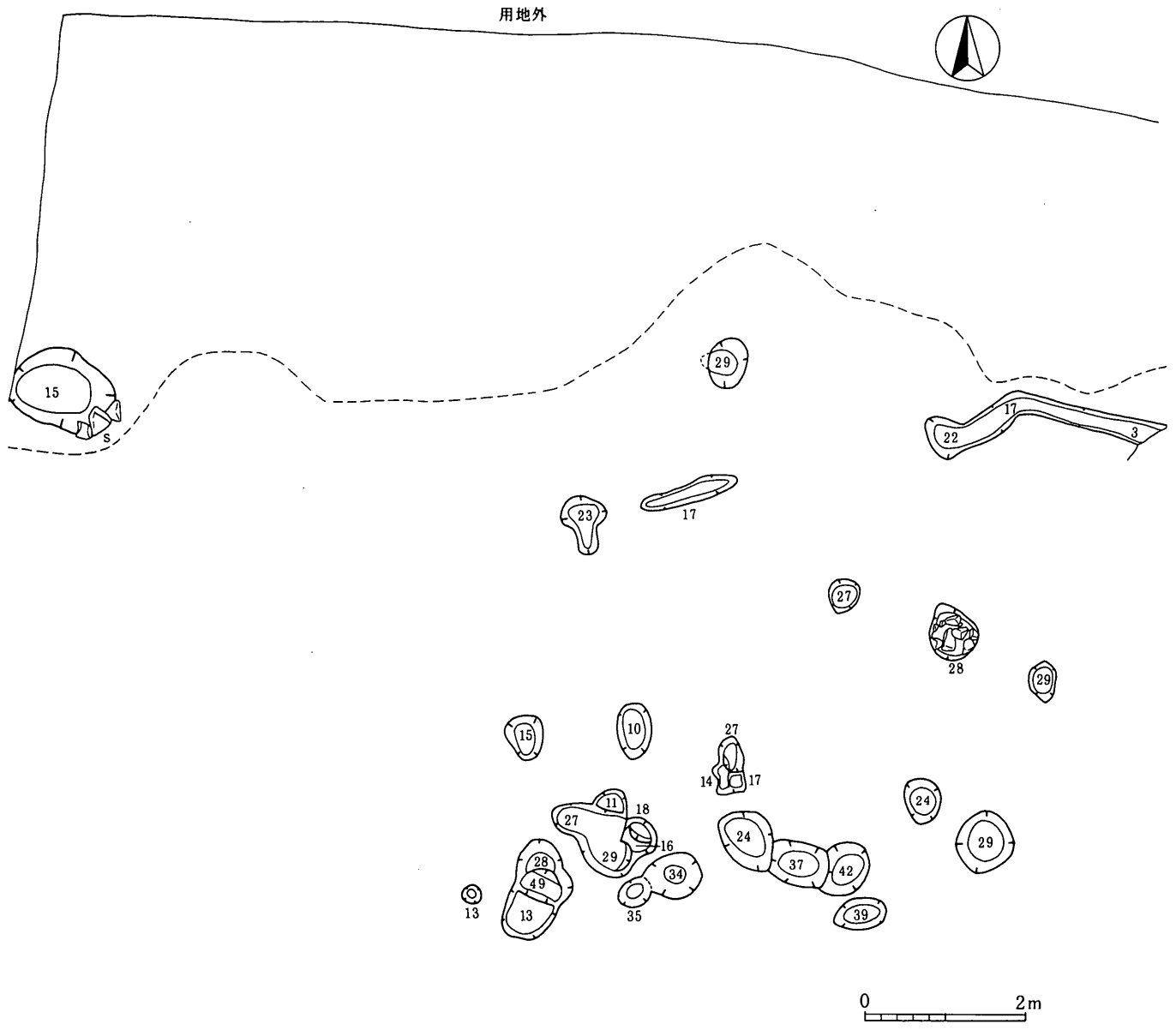
第24図 B地区 ピット (5)



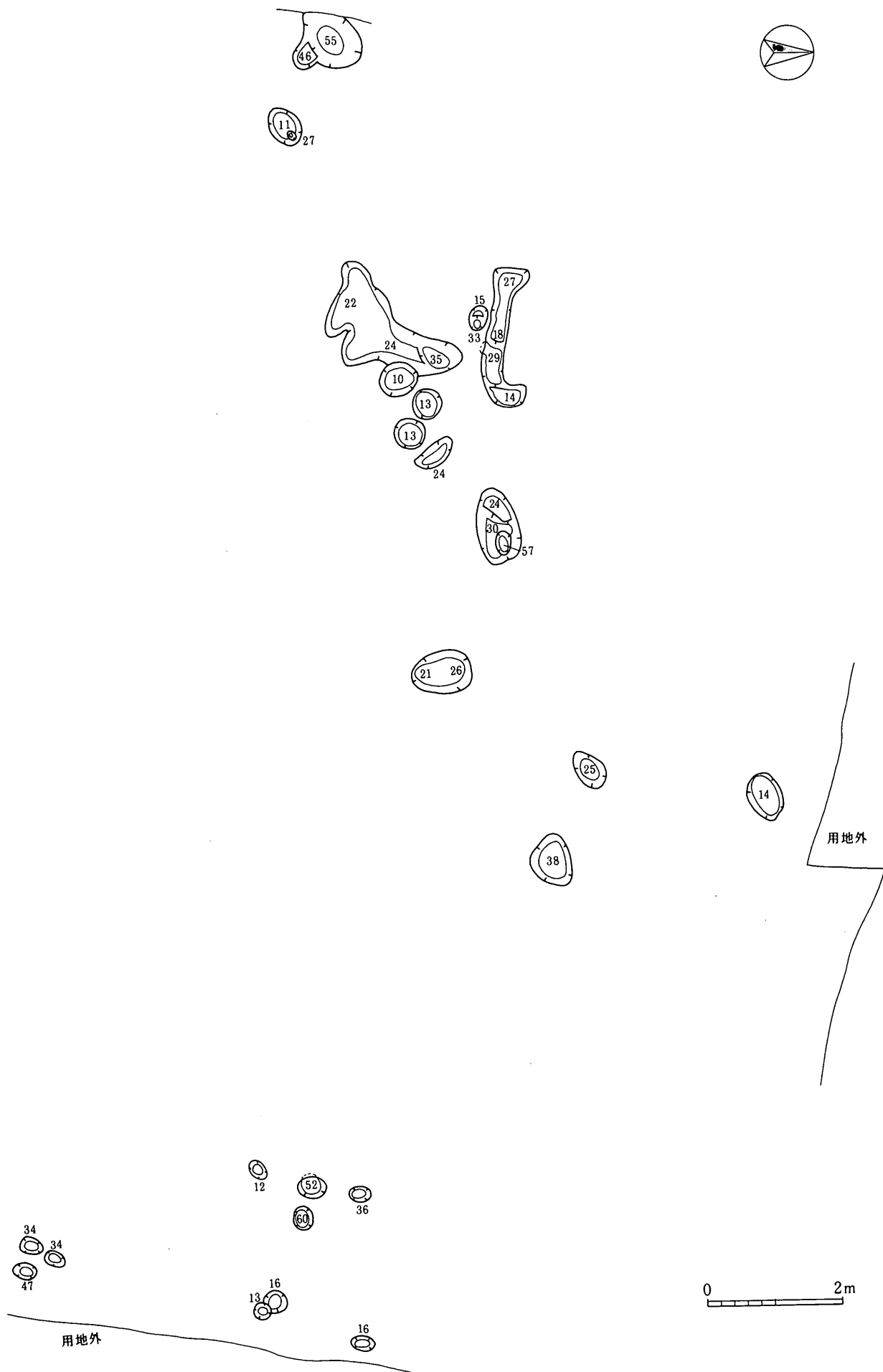
第25図 B地区 ピット (6)



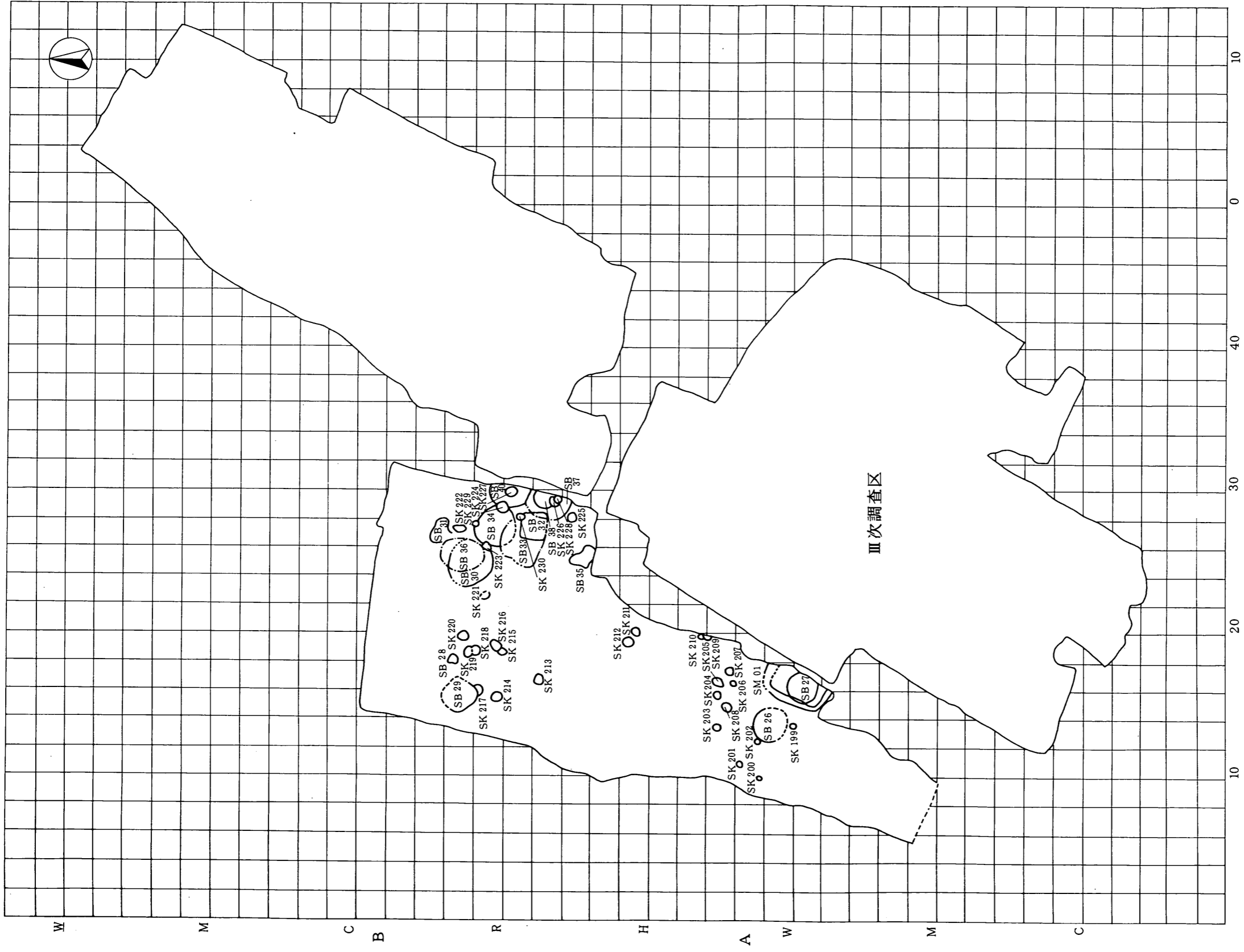
第26図 B地区 ピット (7)



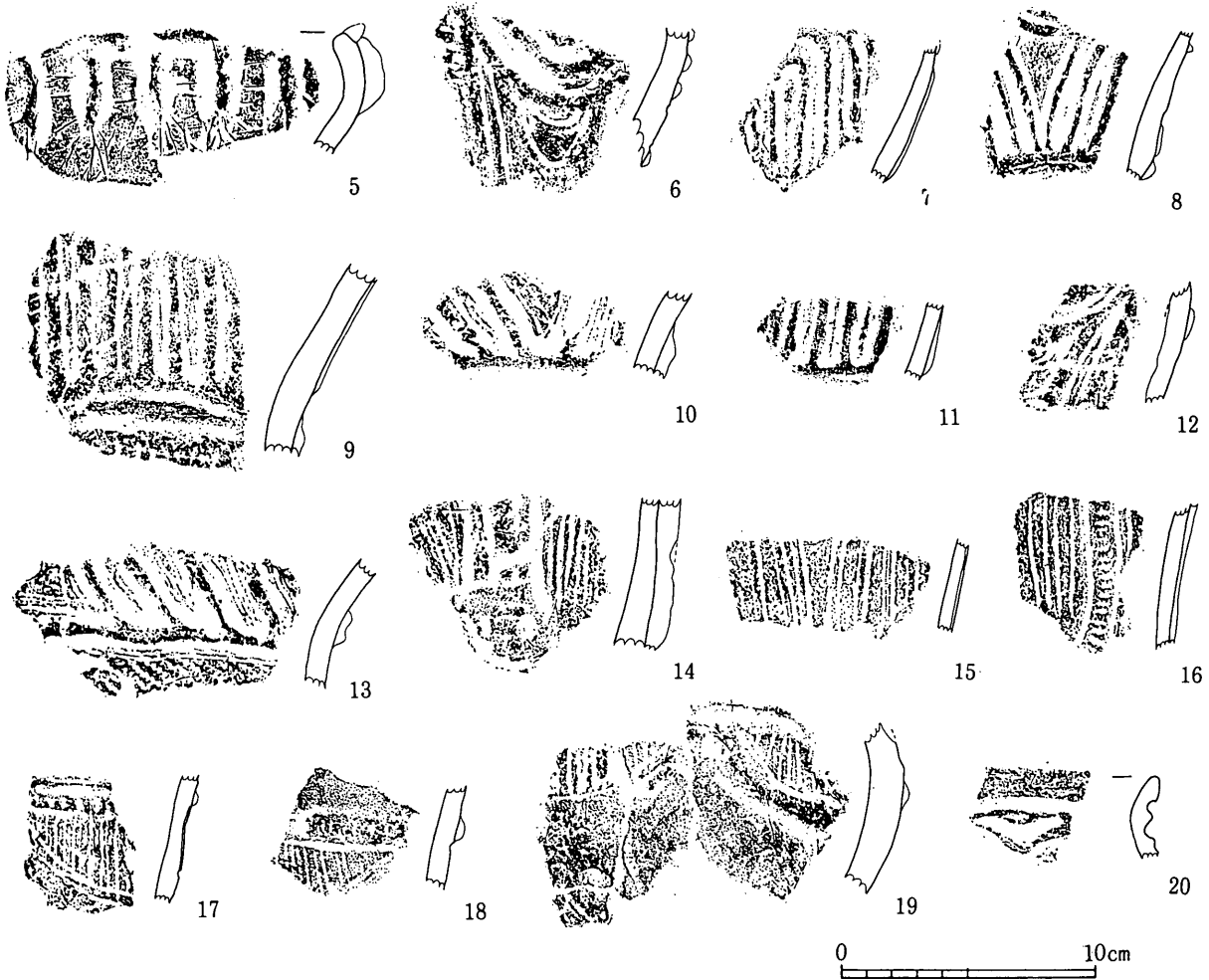
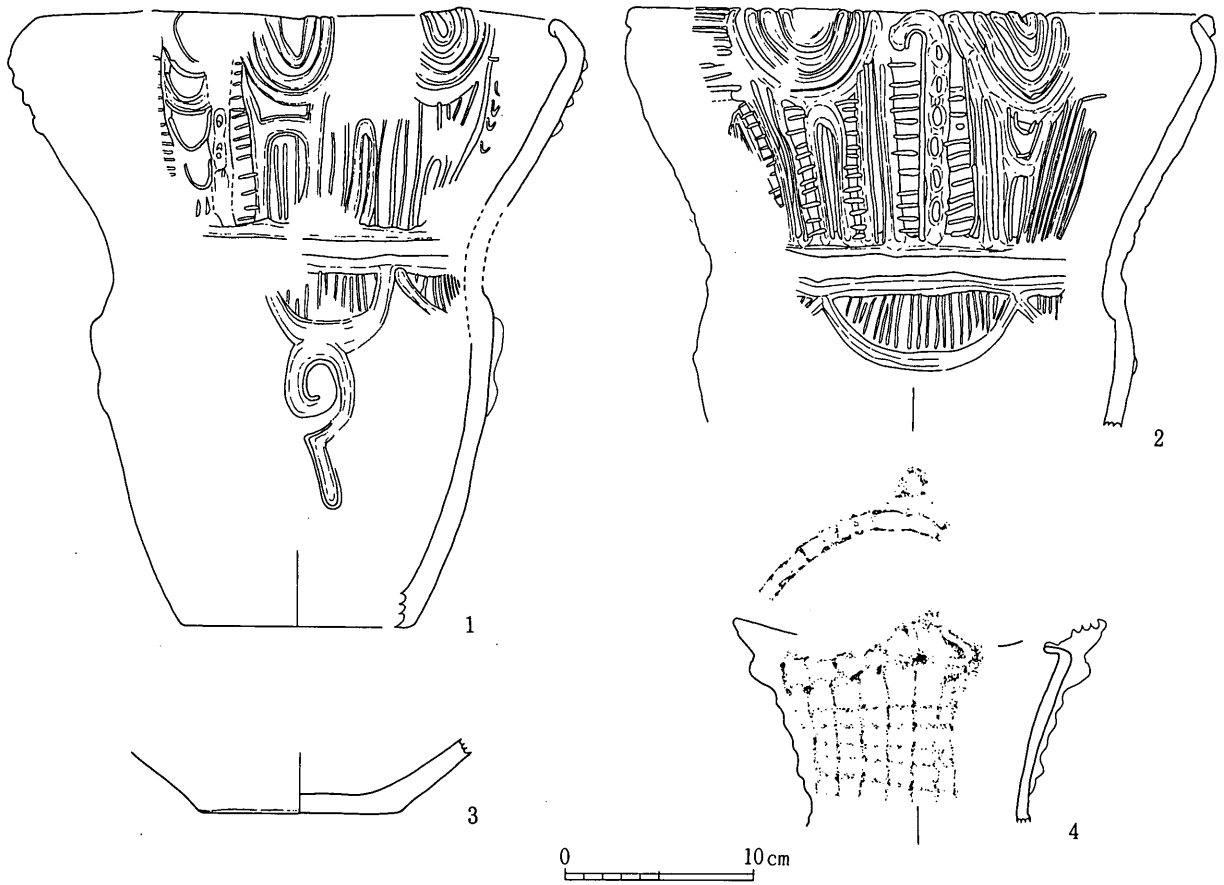
第27図 B地区 ピット (8)



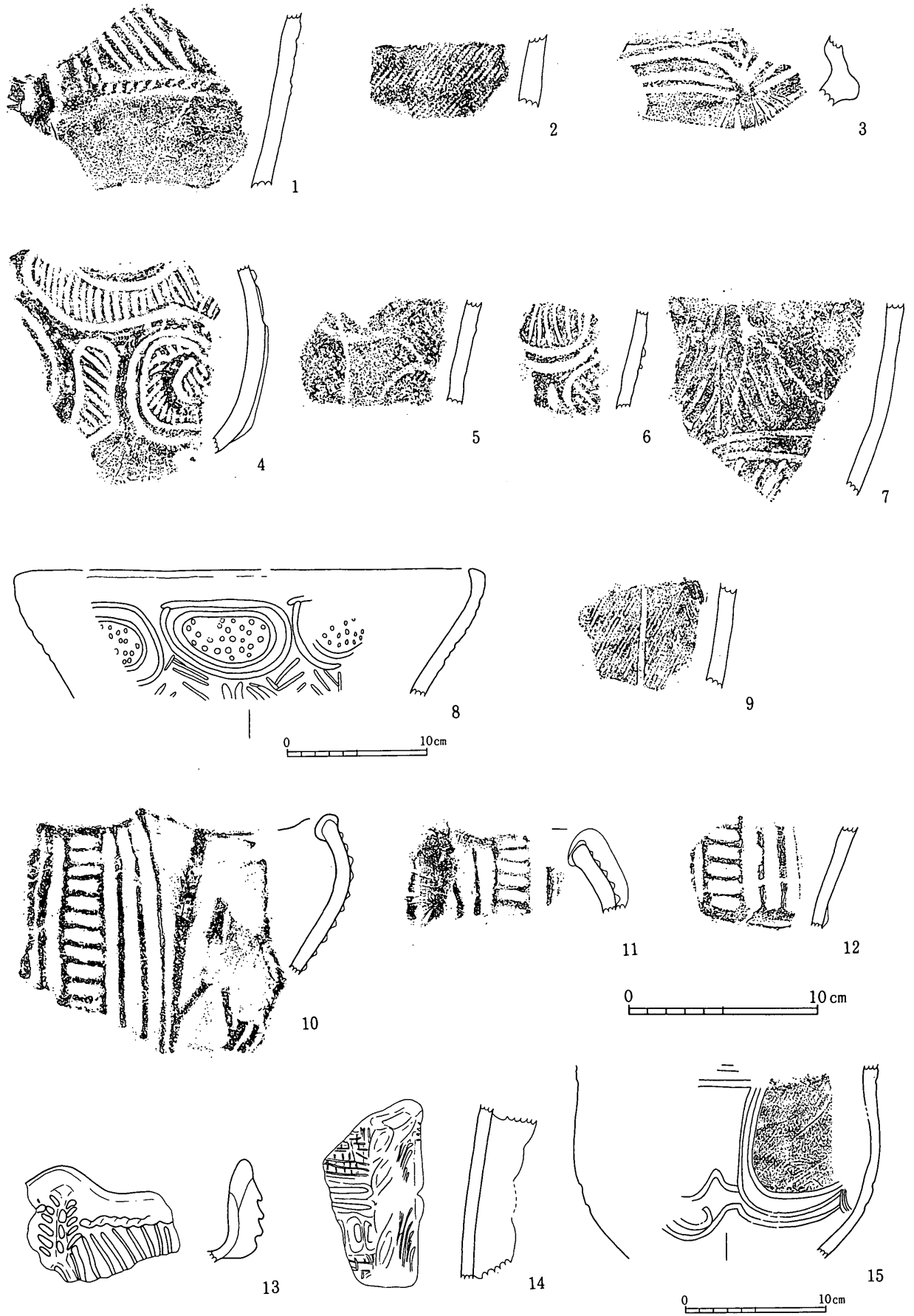
第28図 B地区 ピット (9)



第29図 三尋石遺跡 IV次調査遺構分布図

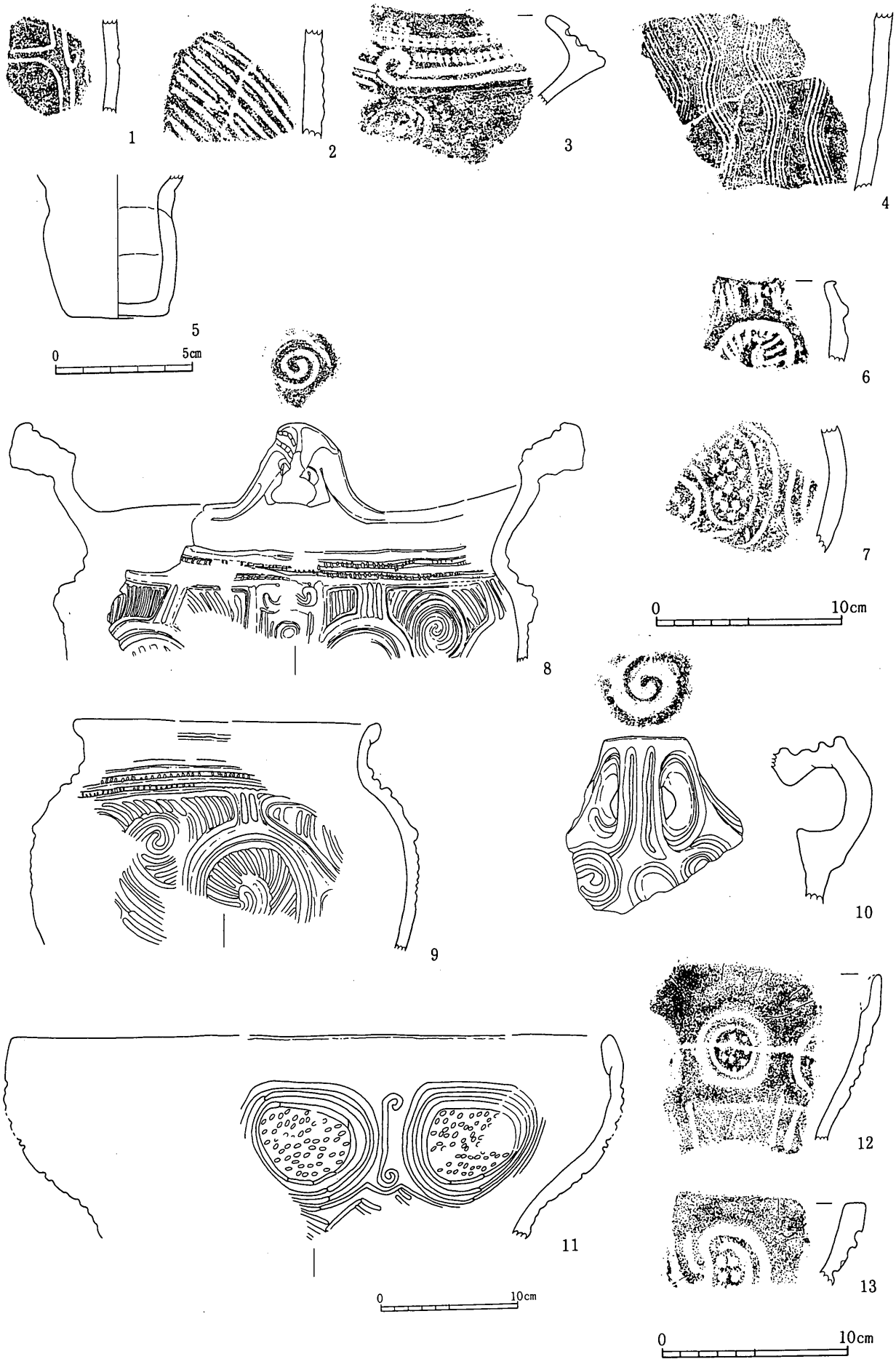


第30图 出土遺物 1~20 S B 26

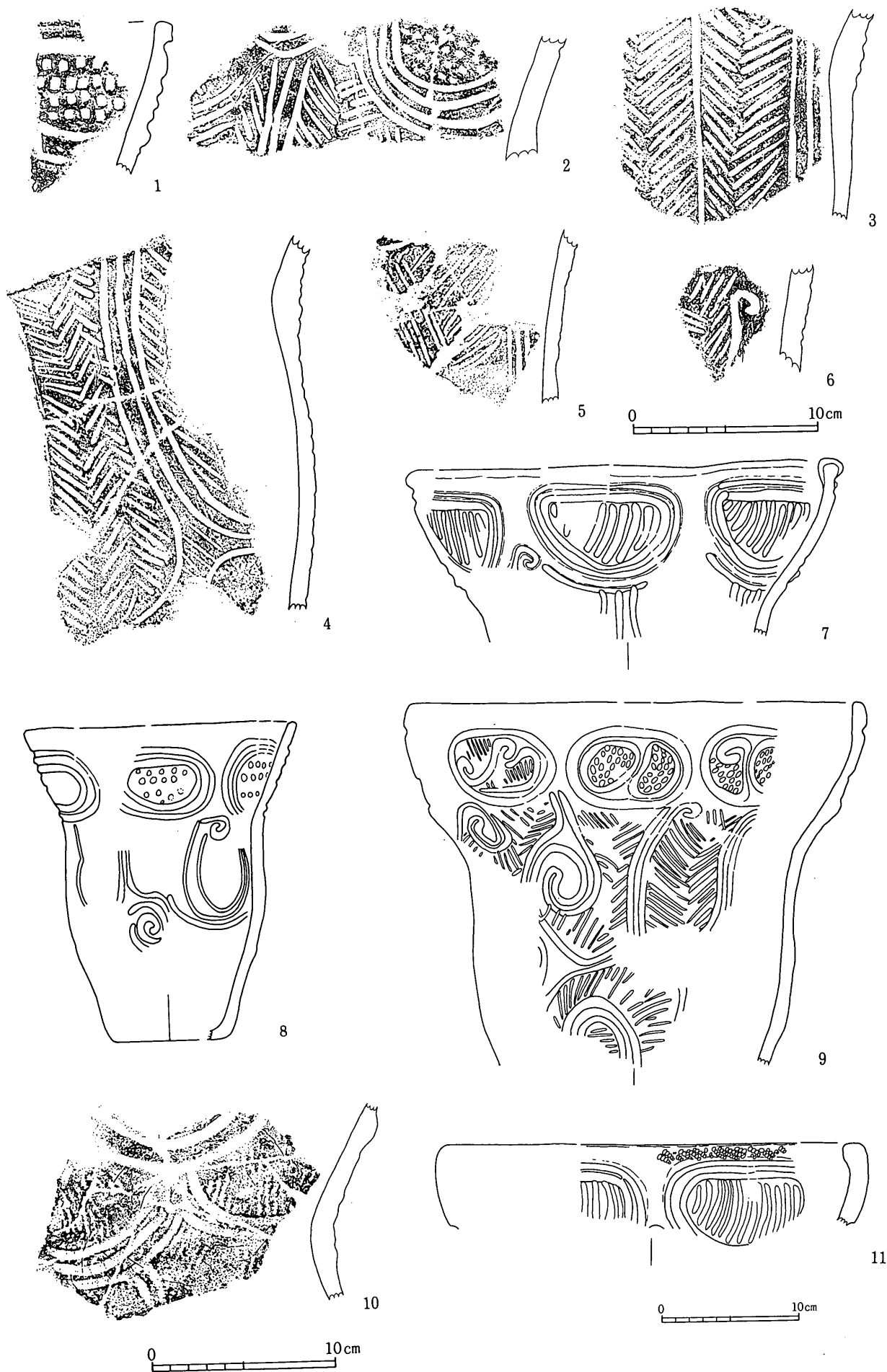


第31图 出土遺物

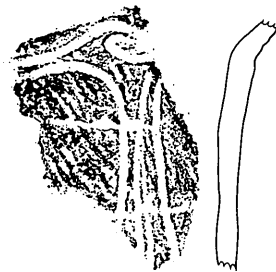
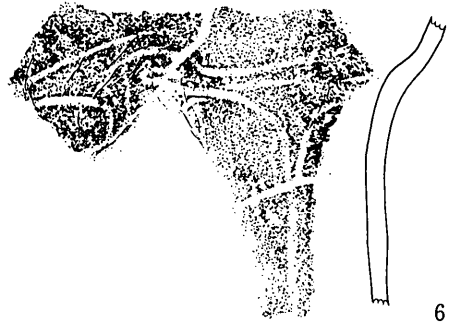
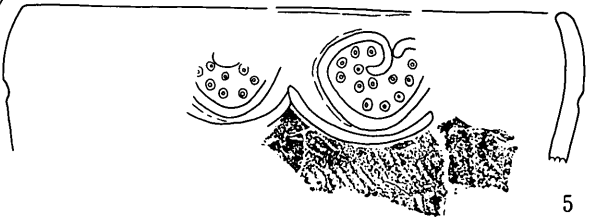
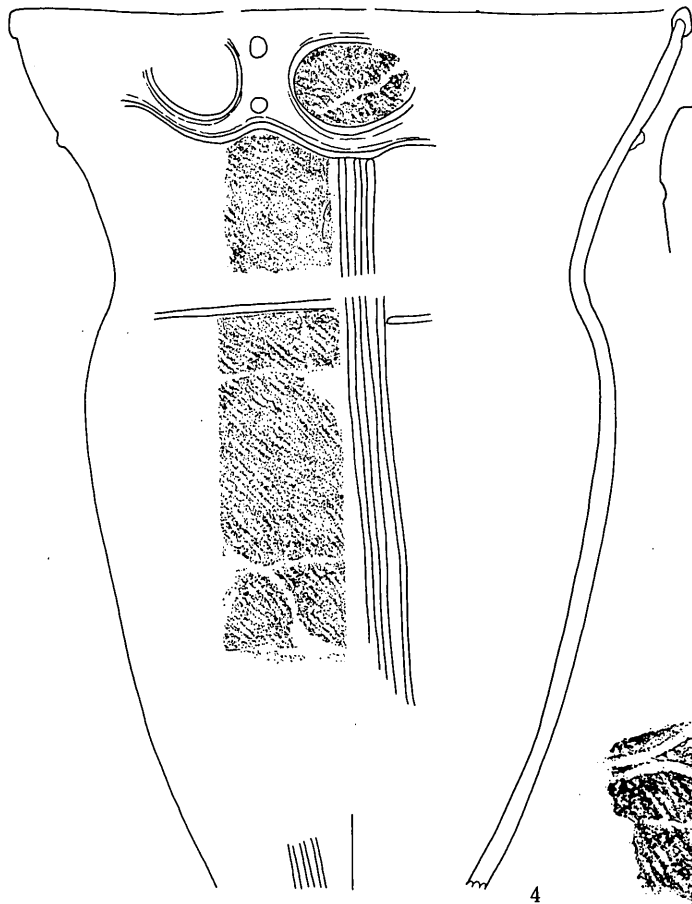
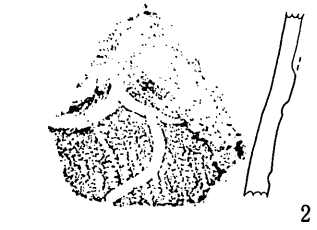
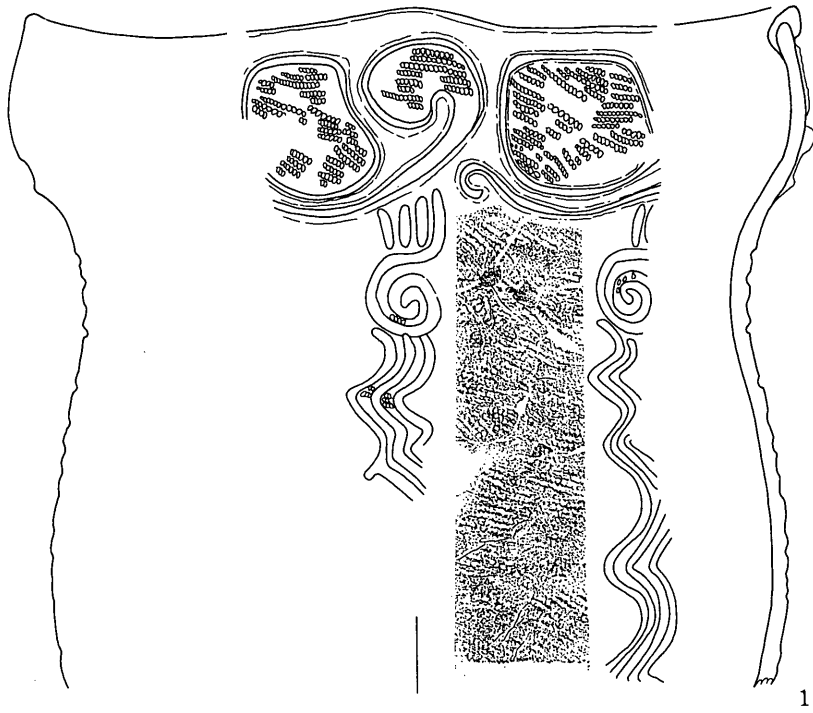
1~3	SB26	10~14	SB28
4~9	SB27	15	SB29



第32図 出土遺物 1~5 SB29 6~13 SB30



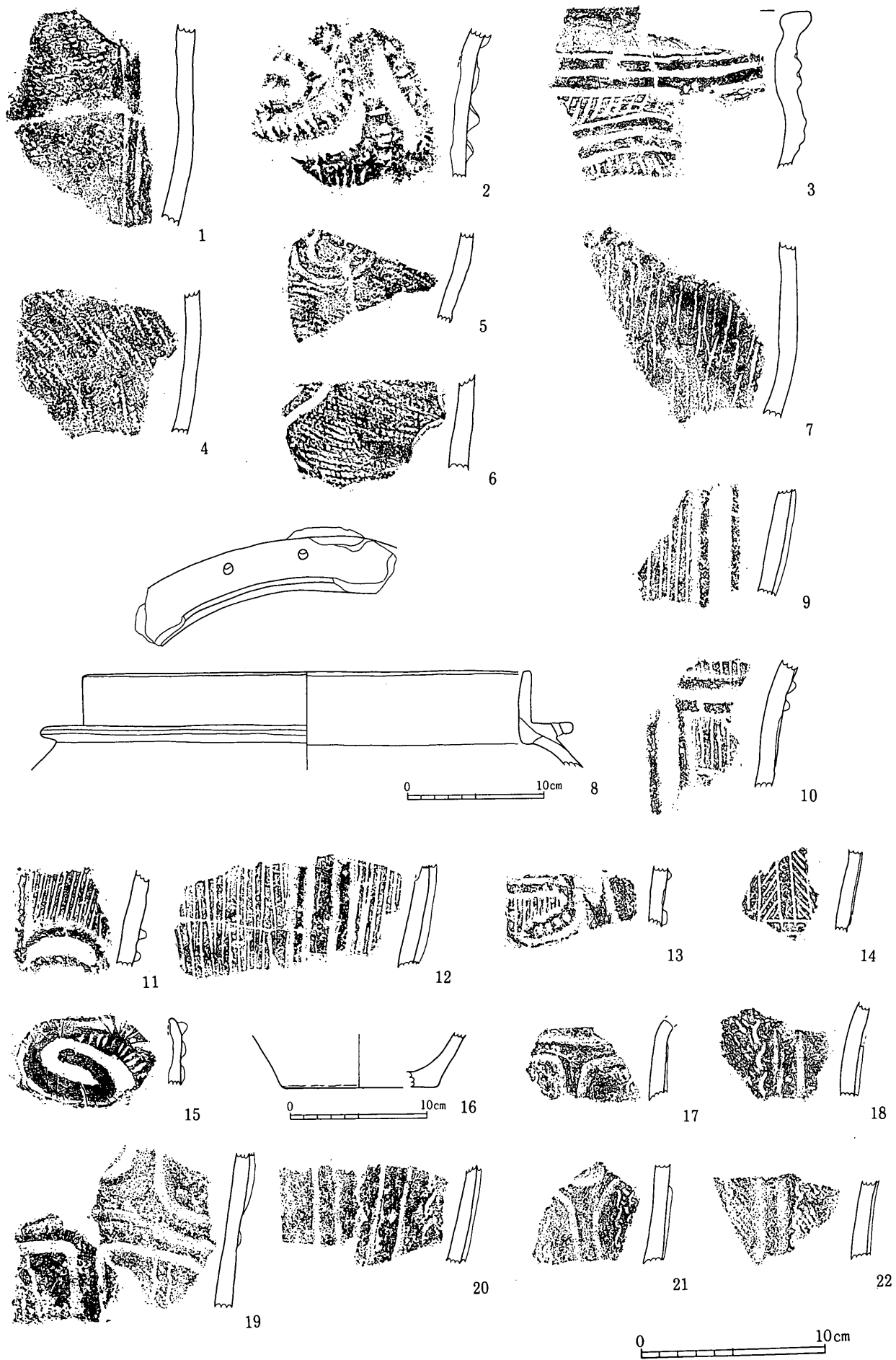
第33图 出土遺物 1~11 S B 30



0 10cm

0 10cm

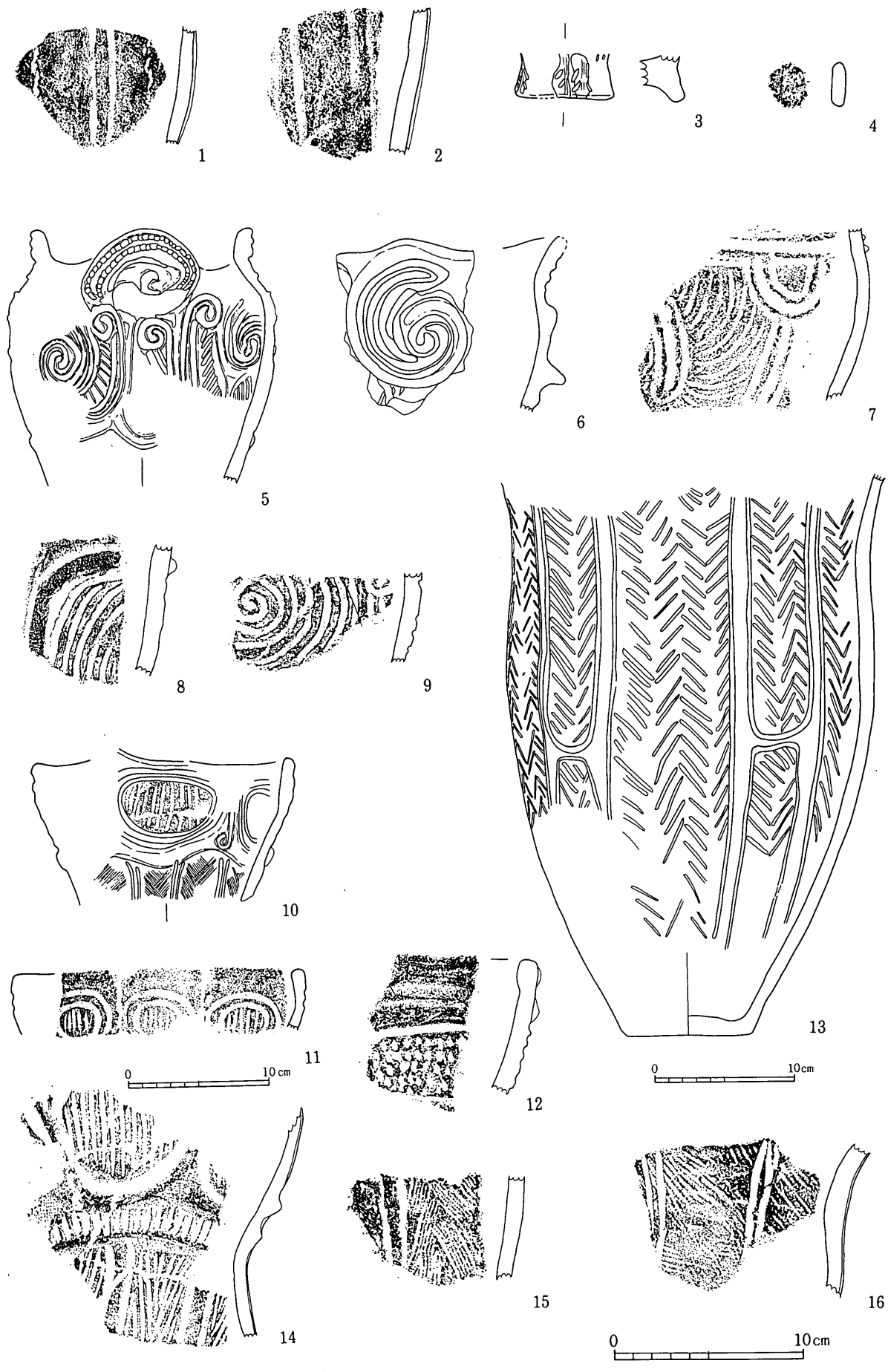
第34图 出土遗物 1~8 S B30



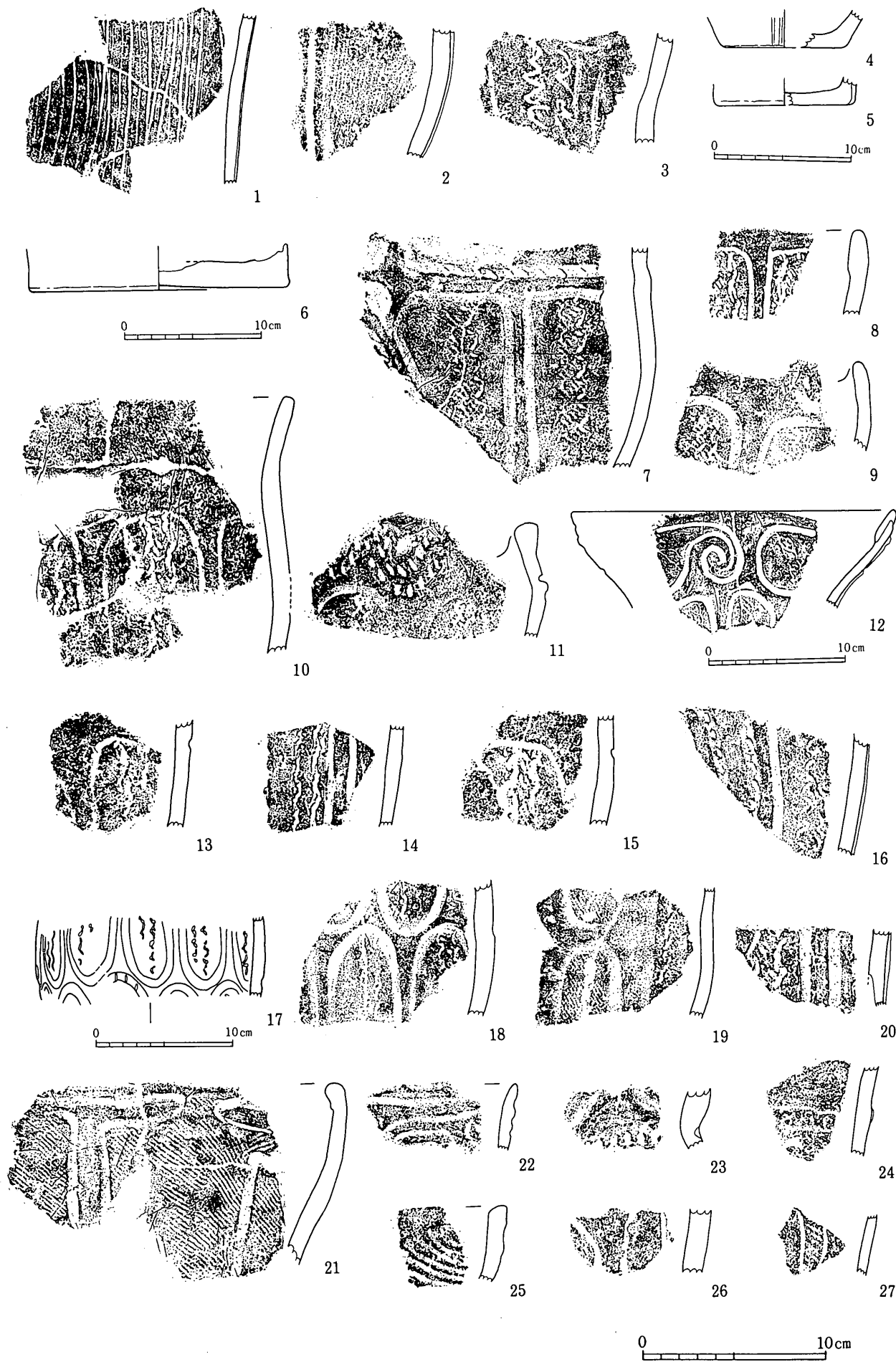
第35图 出土遗物

1~8 S B 30
9~16 S B 31

17~22 S B 33



第36图 出土遺物 1~4 SB33 5~16 SB34

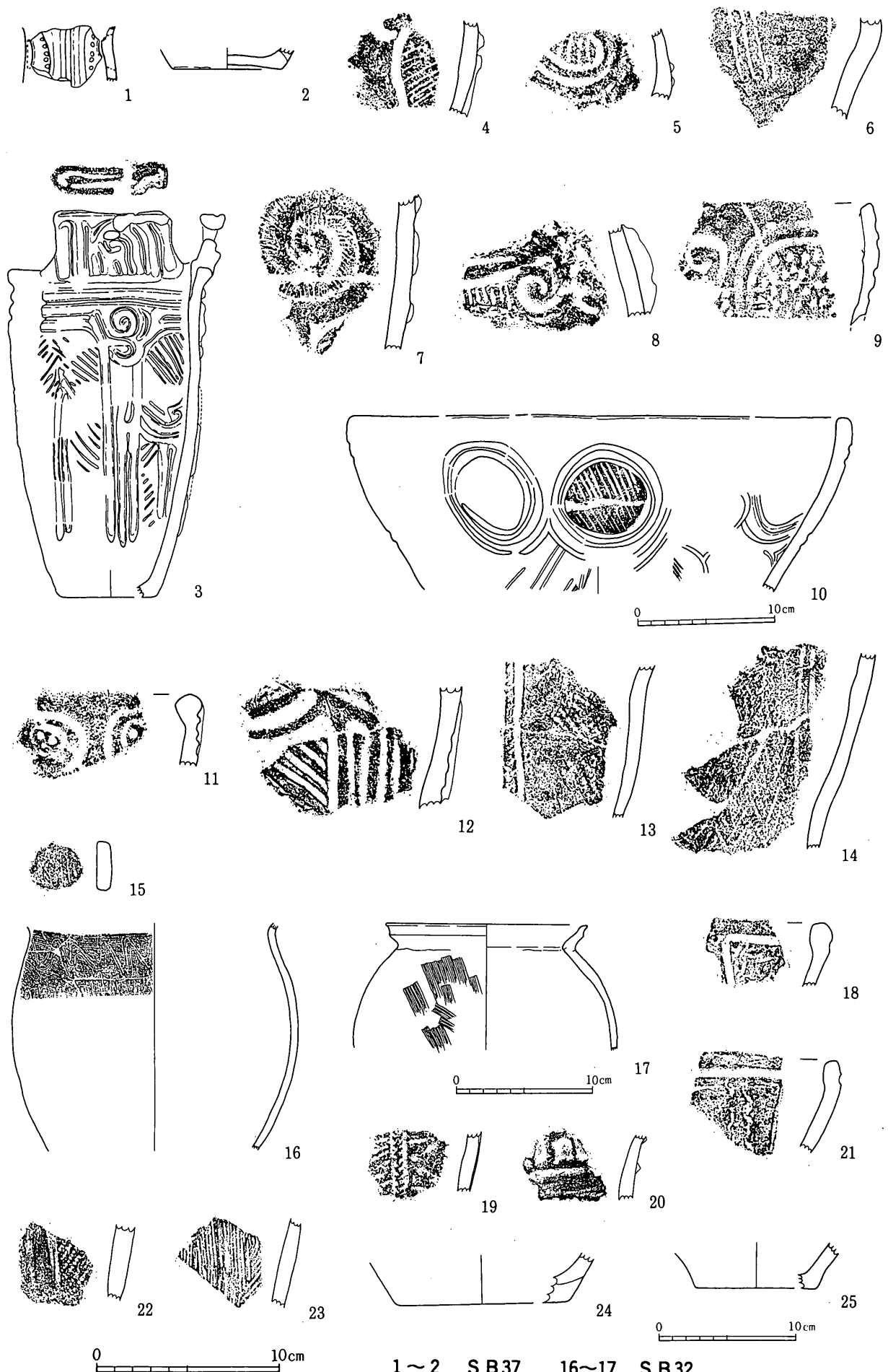


第37图 出土遺物

1~6 SB34

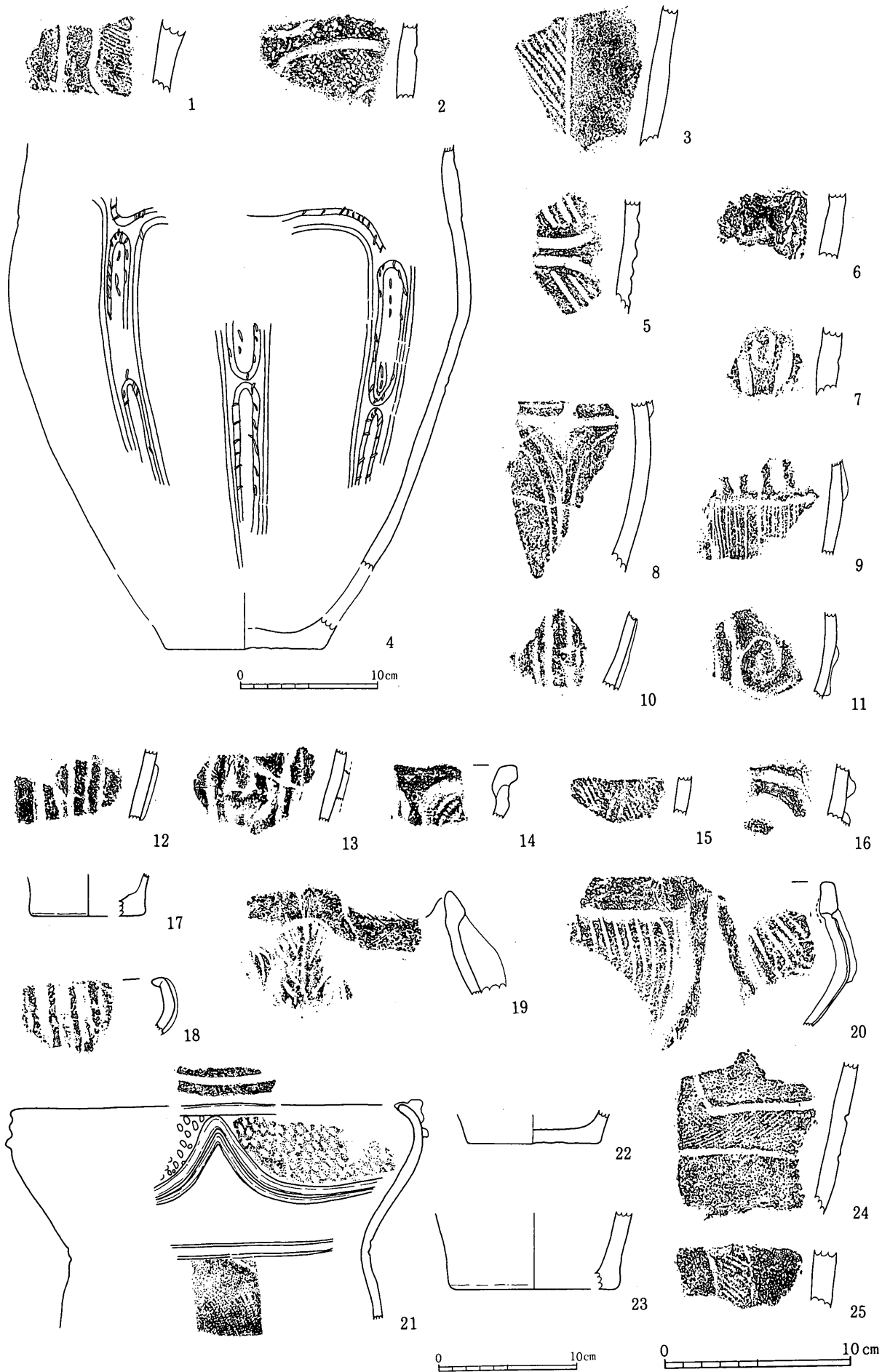
22~27 SB37

7~21 SB36



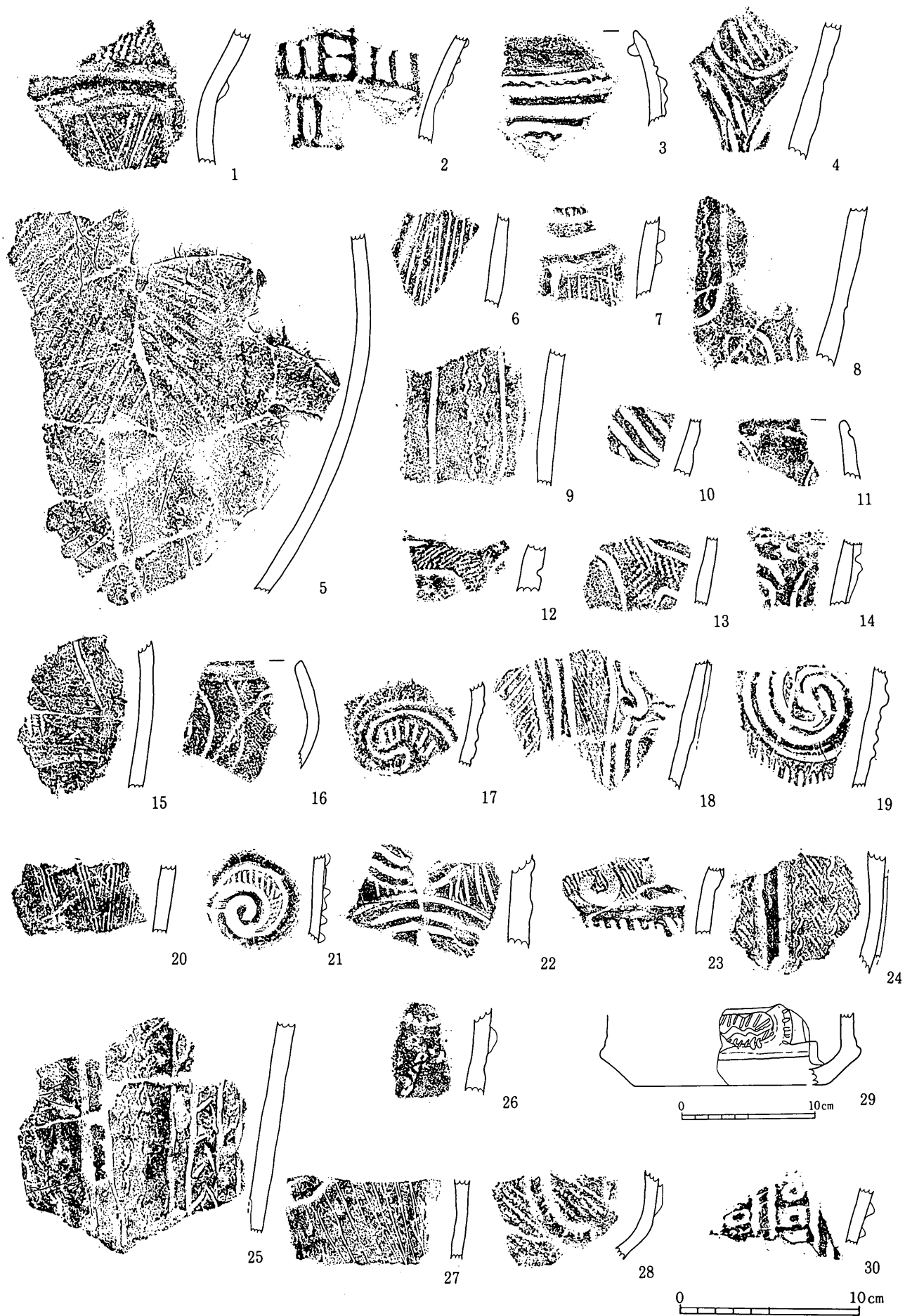
第38圖 出土遺物

- | | | | |
|------|--------|-------|--------|
| 1~2 | S B 37 | 16~17 | S B 32 |
| 3~7 | S B 38 | 18~25 | S B 35 |
| 8~15 | S B 40 | | |



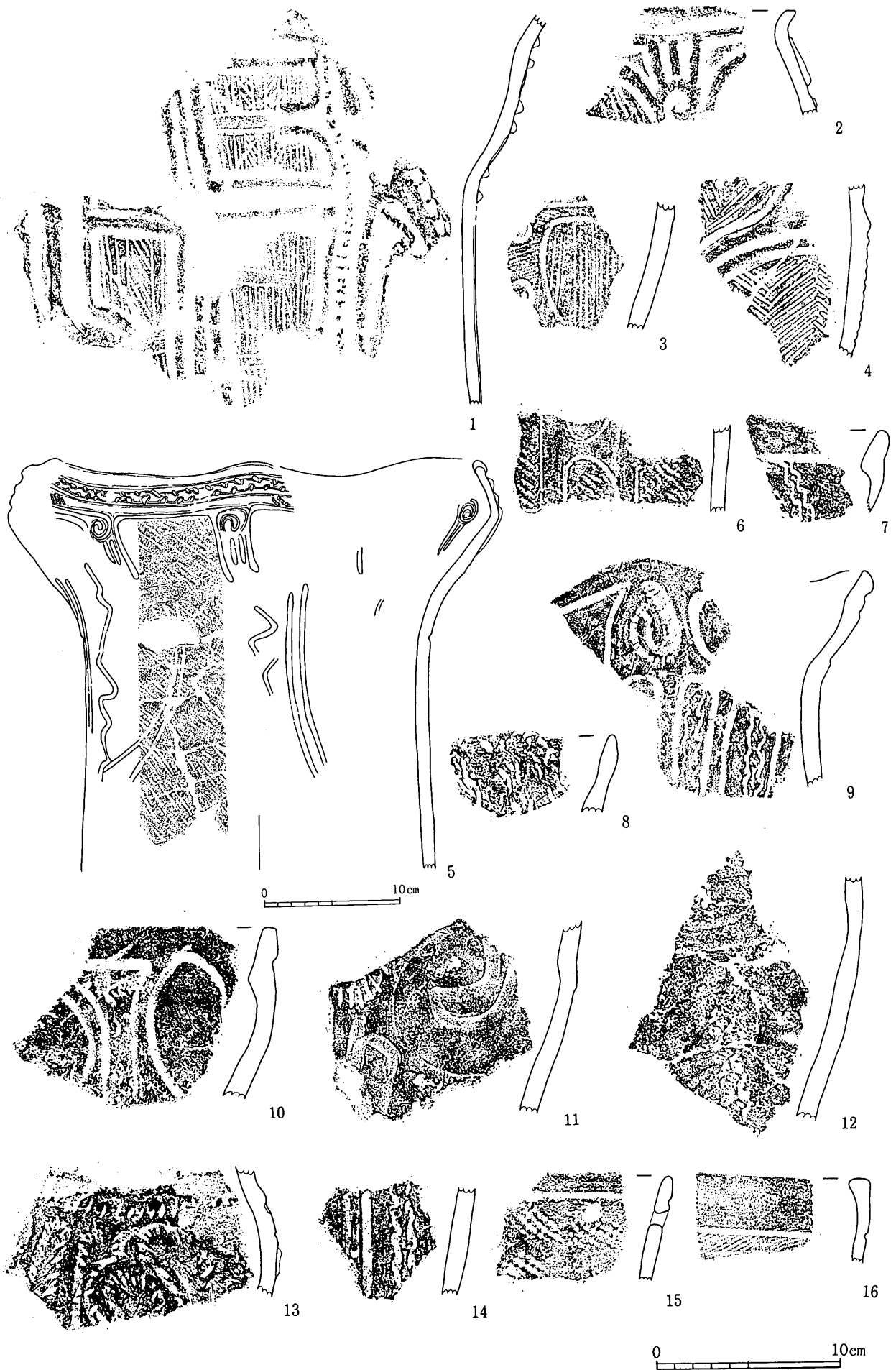
第39図 出土遺物

1~3	S M 01	6	S K 201	14~17	S K 207	22~25	S K 212
4	埋設土器 1	7~9	S K 202	18~20	S K 208		
5	S K 200	10~13	S K 206	21	S K 209		

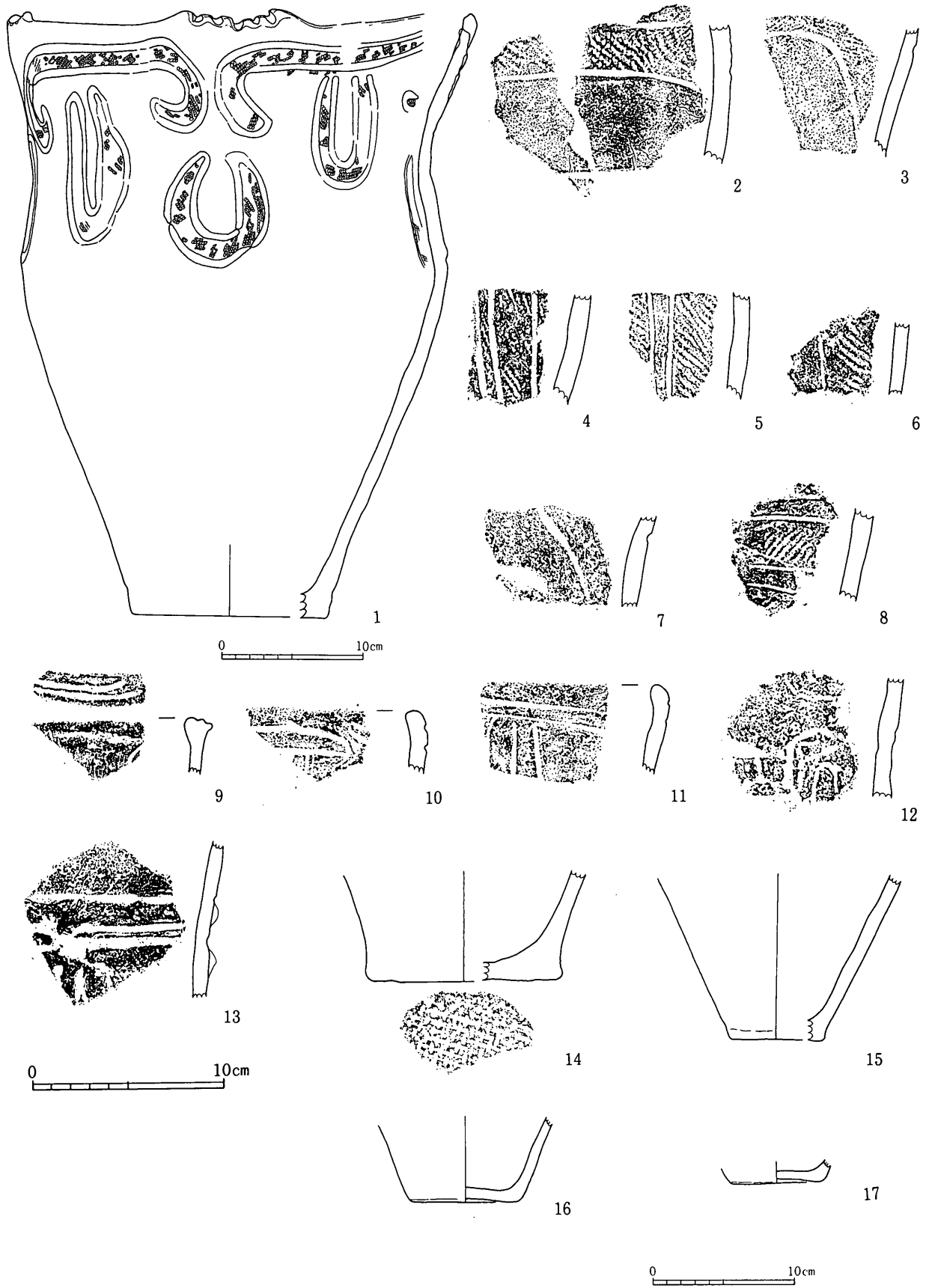


第40図 出土遺物

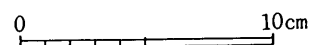
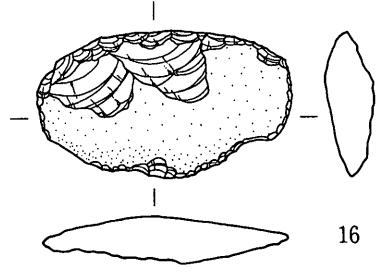
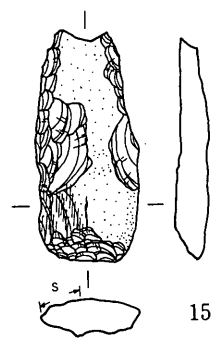
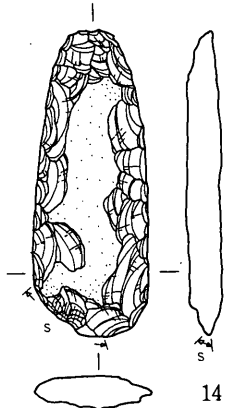
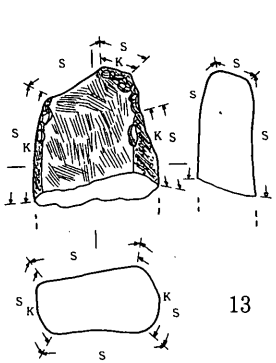
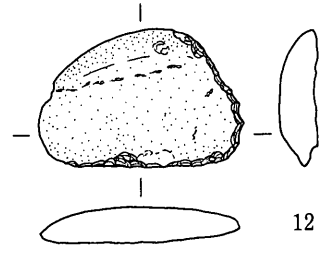
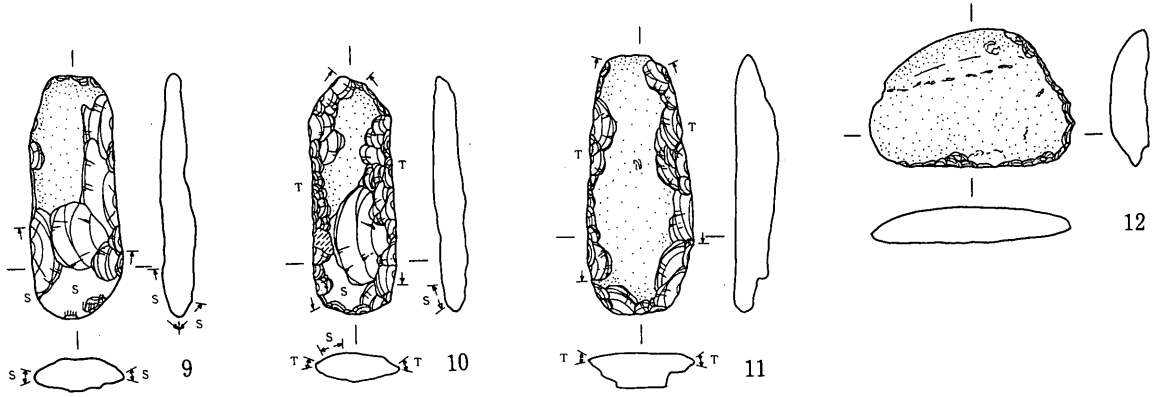
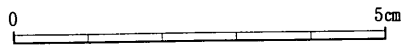
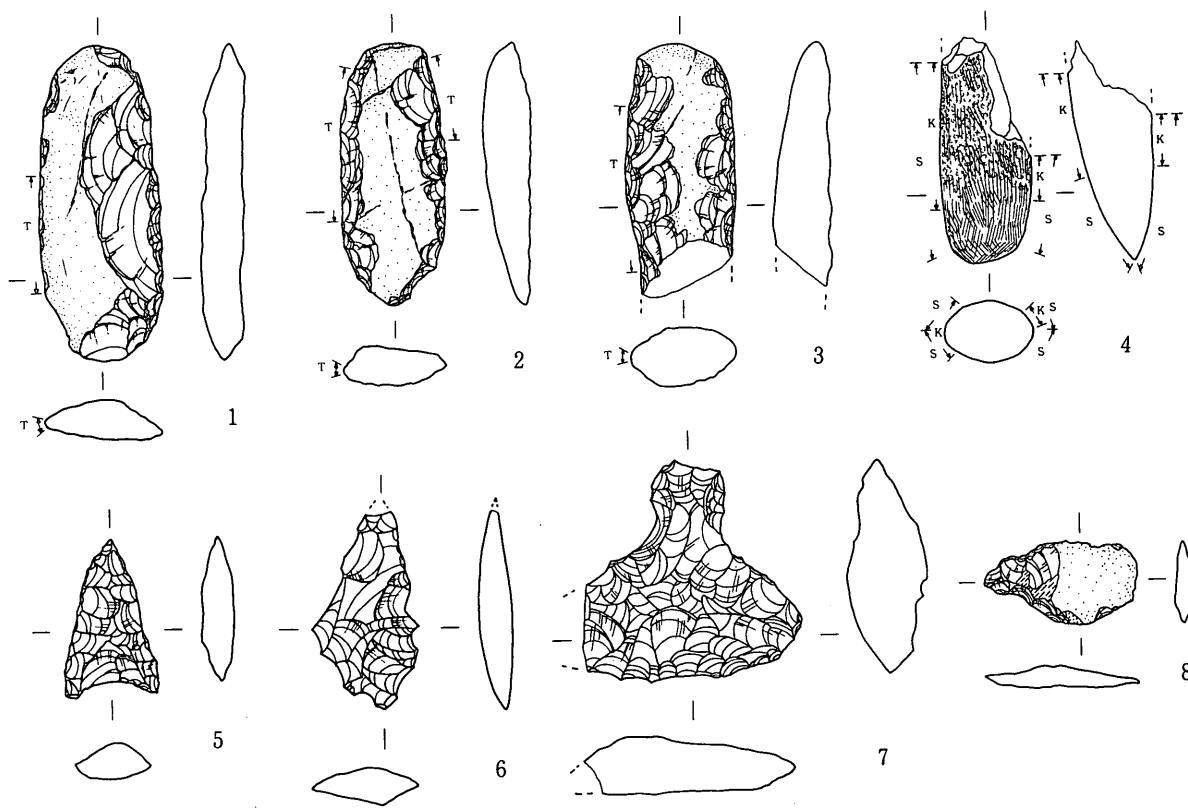
1~2	SK 215	6~7	SK 221	16	SK 224	25	SK 227	28~30	遺構外
3~4	SK 216	8~9	SK 222	17~20	SK 225	26	SK 228		
5	SK 218	10~15	SK 223	21~24	SK 226	27	SK 229		



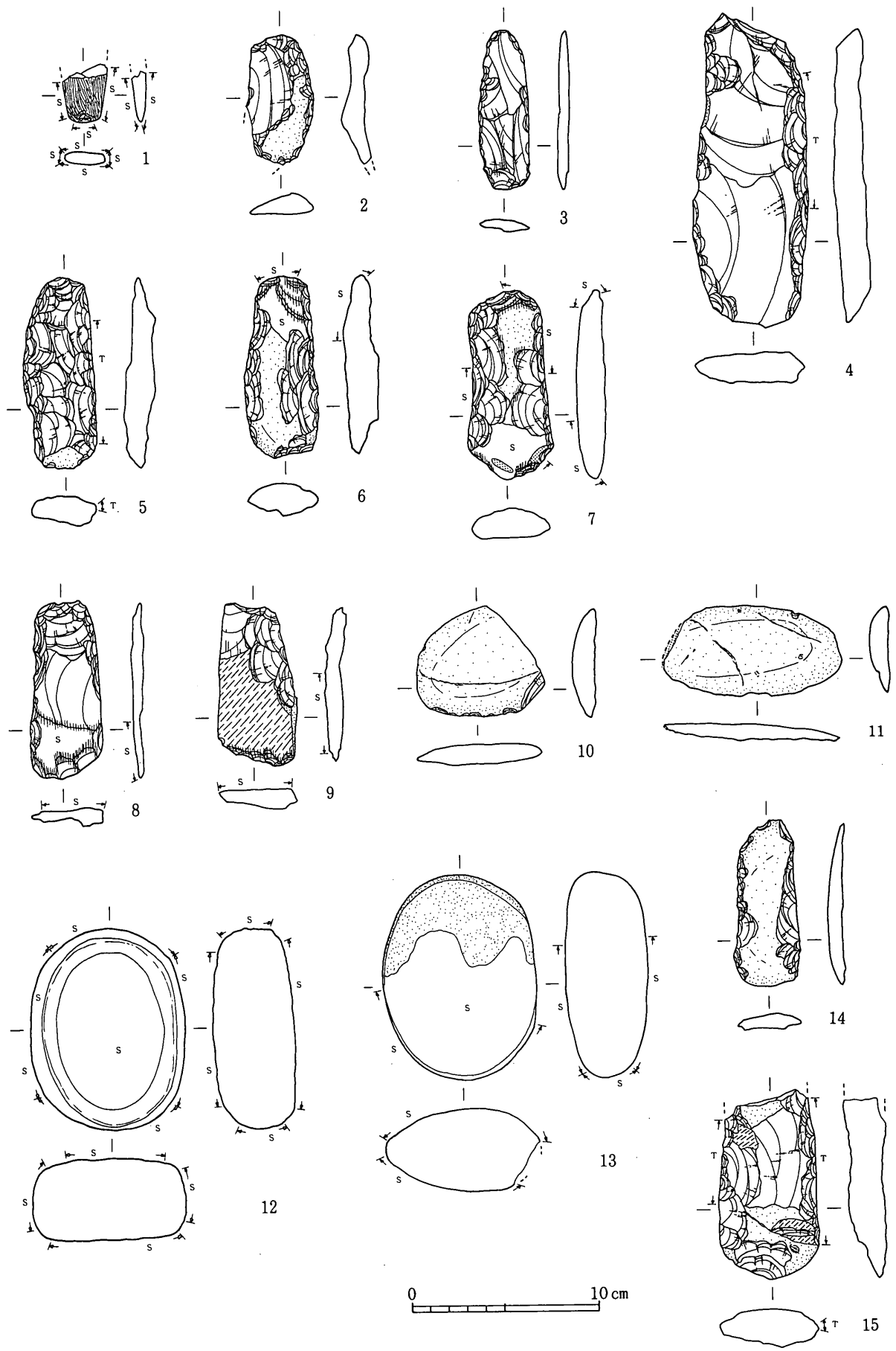
第41図 出土遺物 1~16 遺構外



第42図 出土遺物 1~17 遺構外

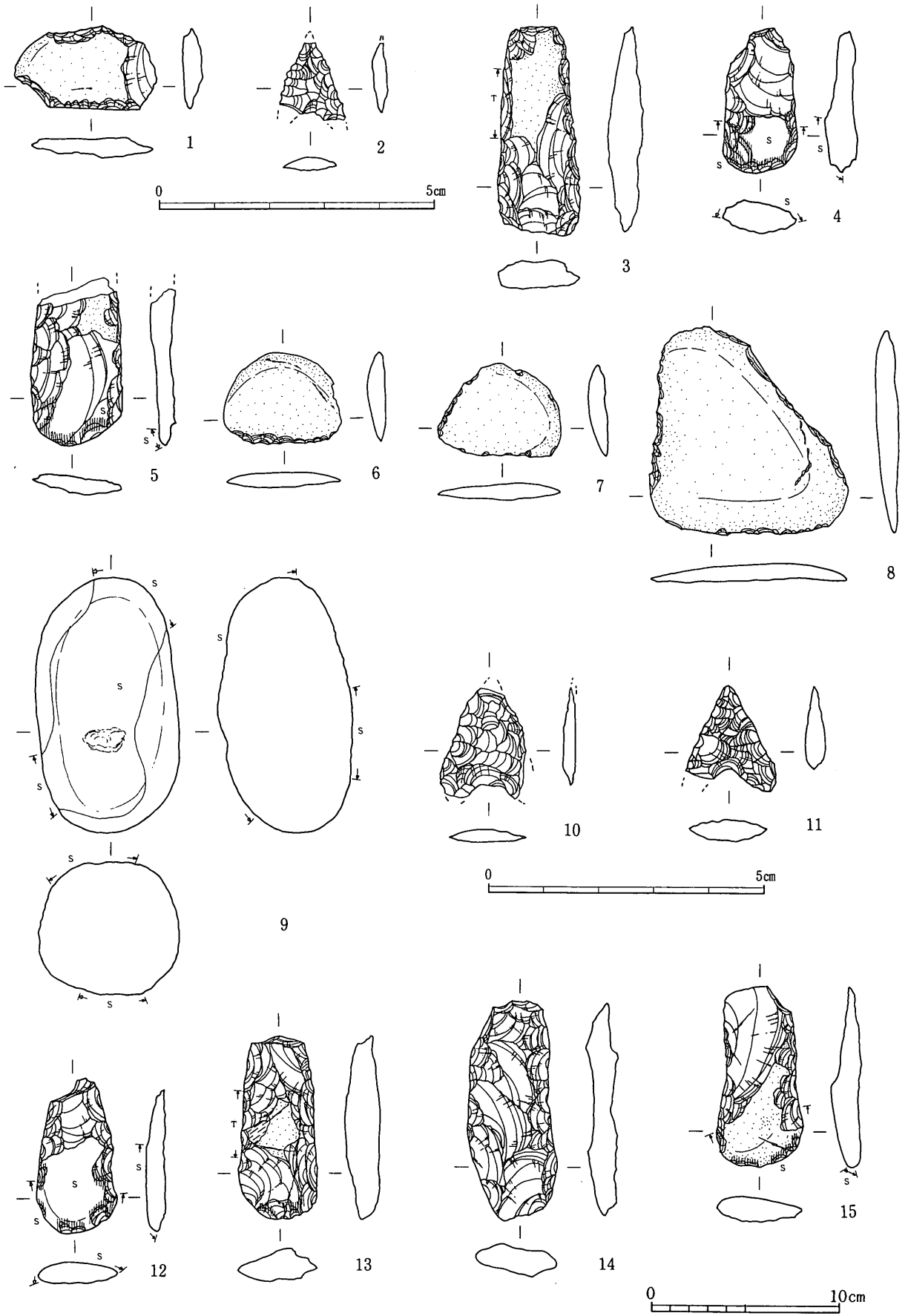


第43图 出土遗物
 1~8 SB26 14~16 SB28
 9~13 SB27



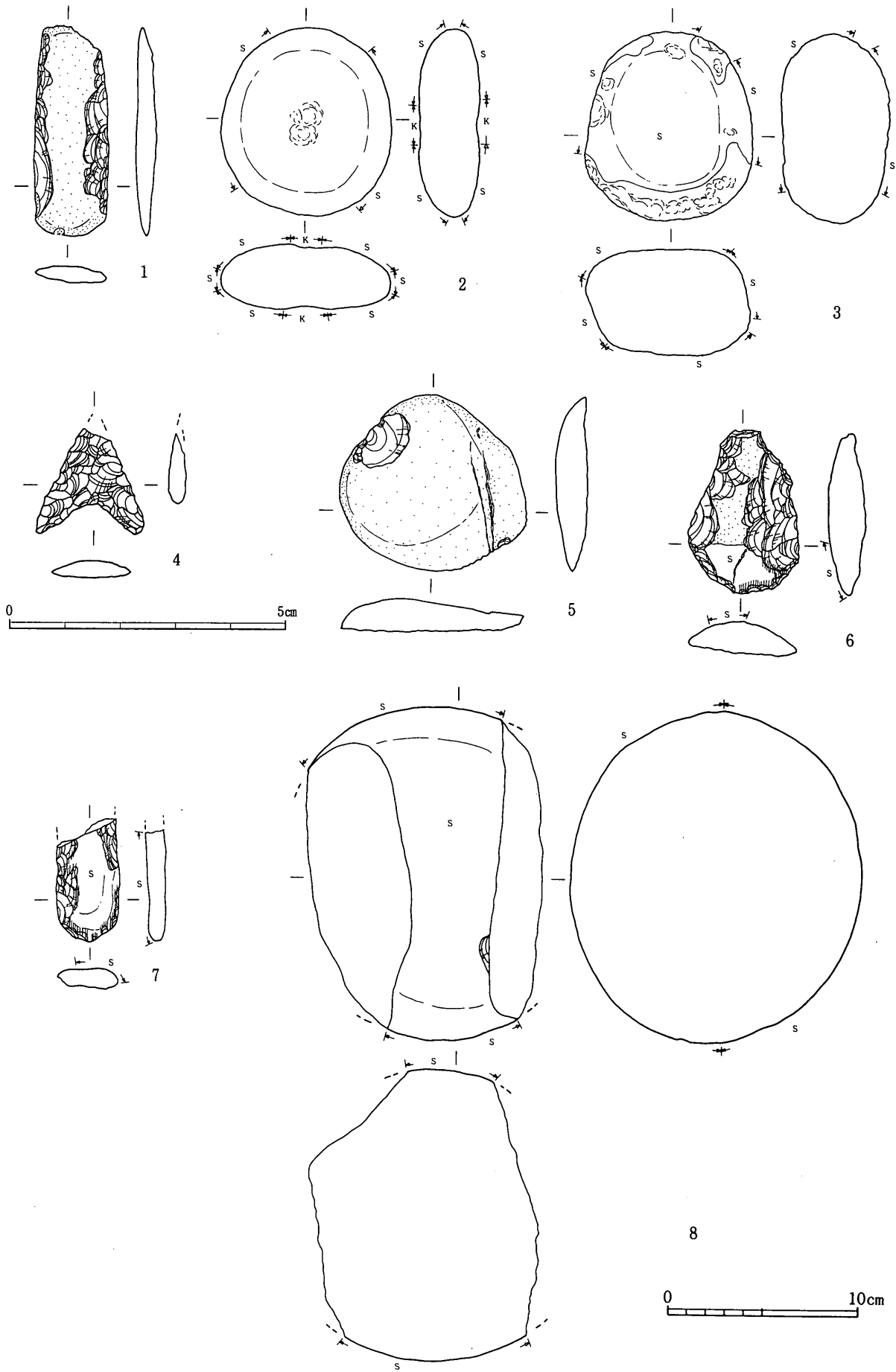
第44図 出土遺物

- | | | | |
|-----|------|-------|------|
| 1・2 | SB28 | 5~13 | SB30 |
| 3・4 | SB29 | 14・15 | SB33 |



第45図 出土遺物

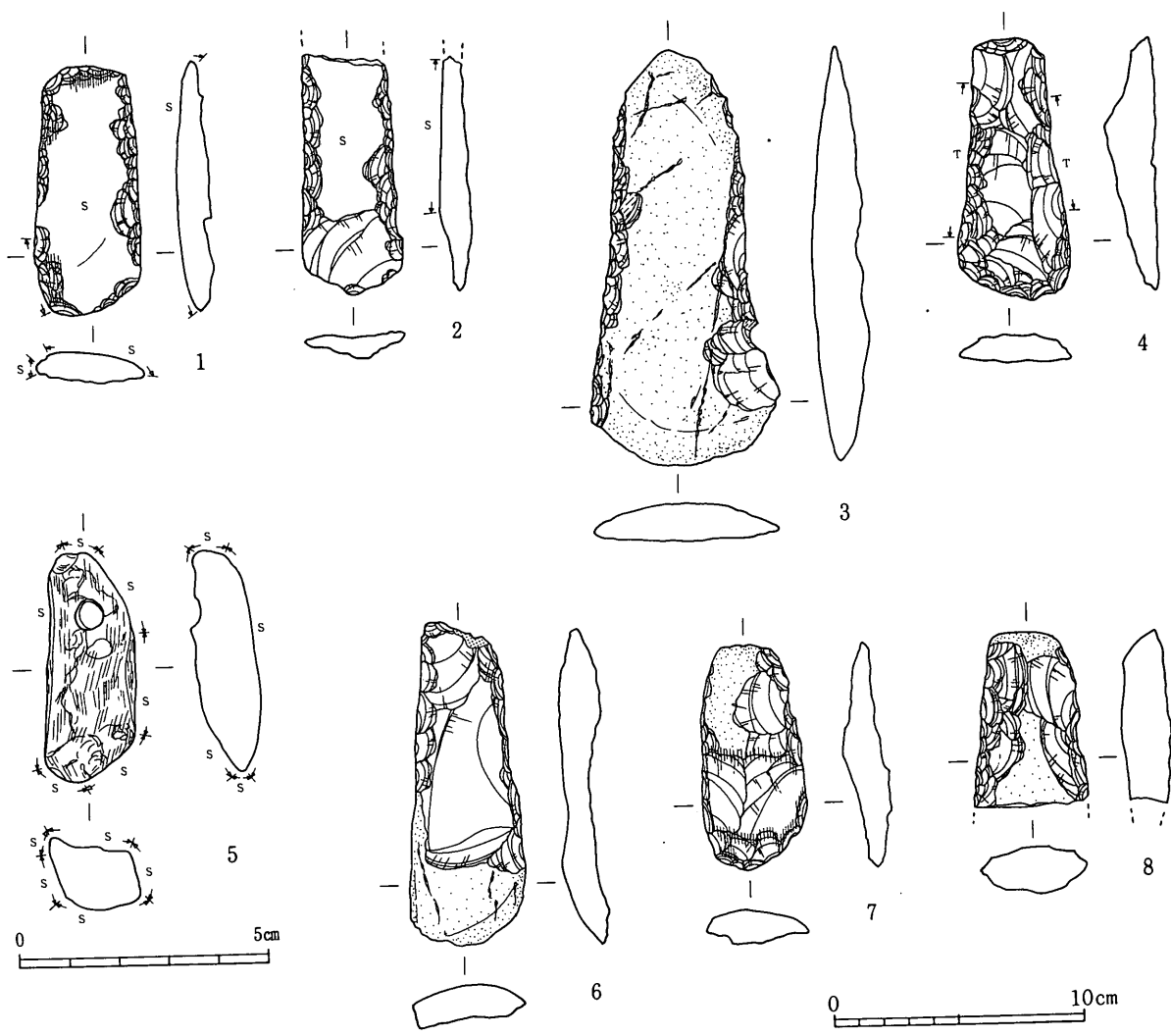
1・2	S B 33	12	S B 38
3~11	S B 34	13~15	S B 40



第46図 出土遺物

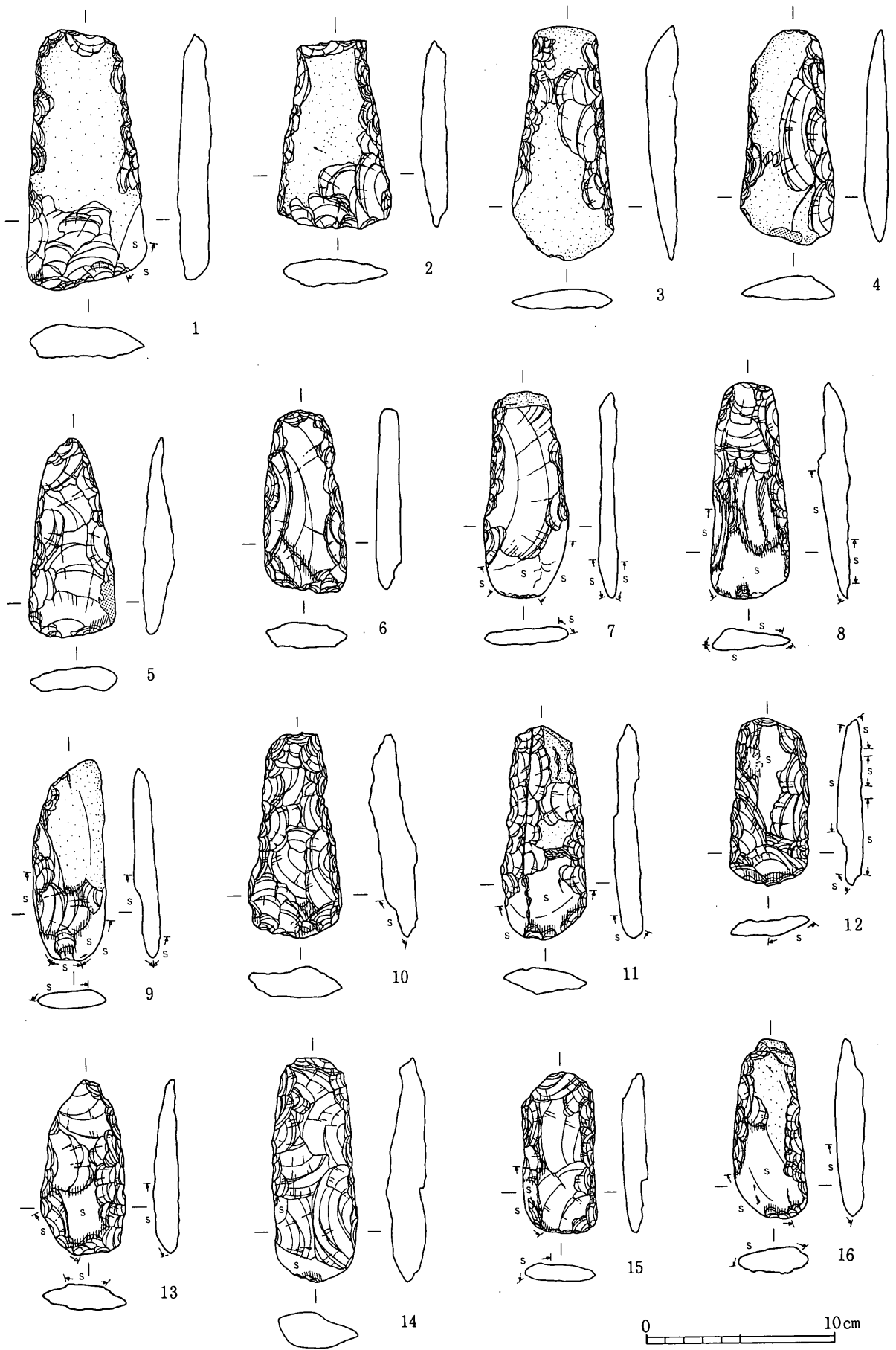
1~4 SB40
5 SB32

6~8 SB35

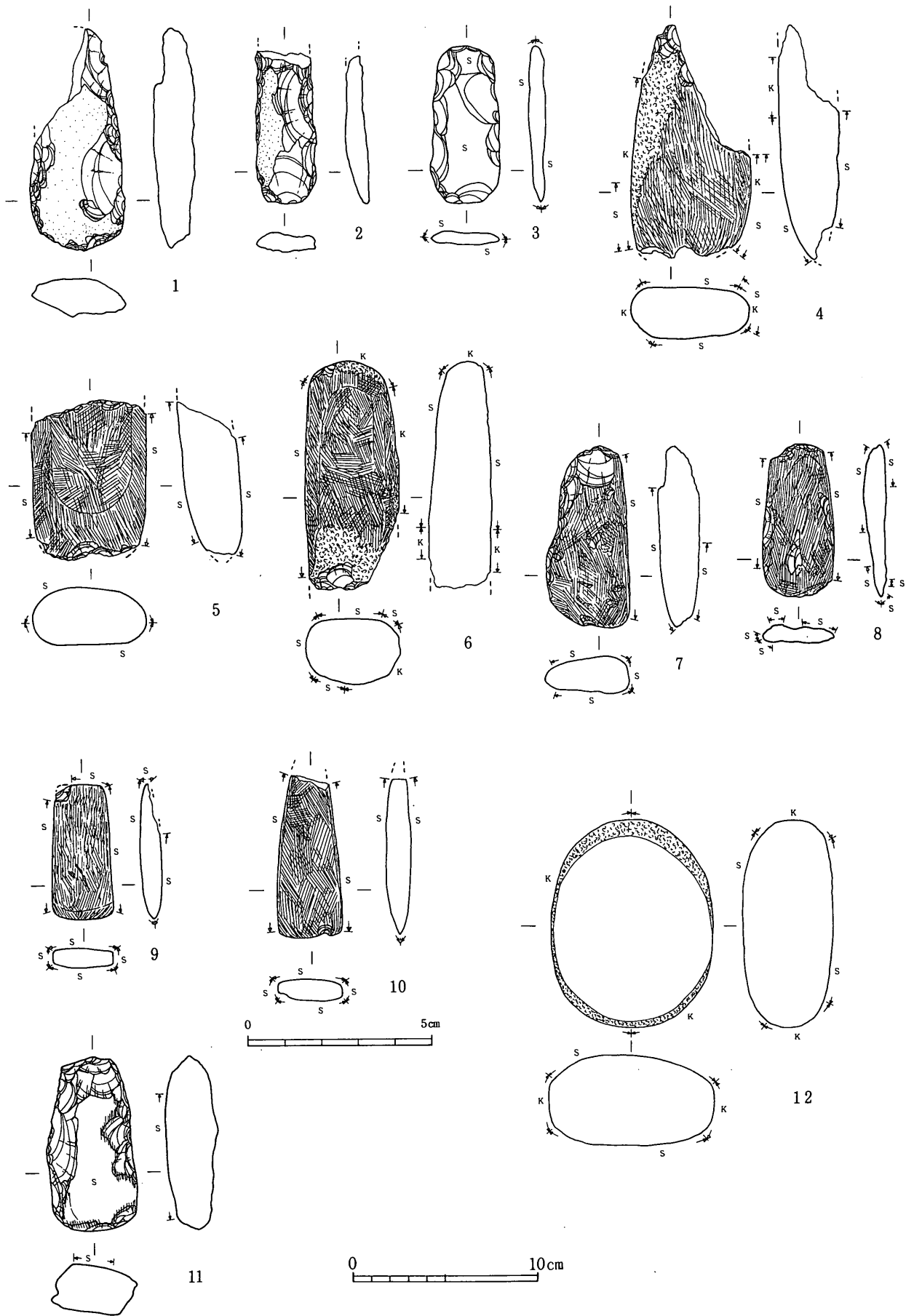


第47図 出土遺物

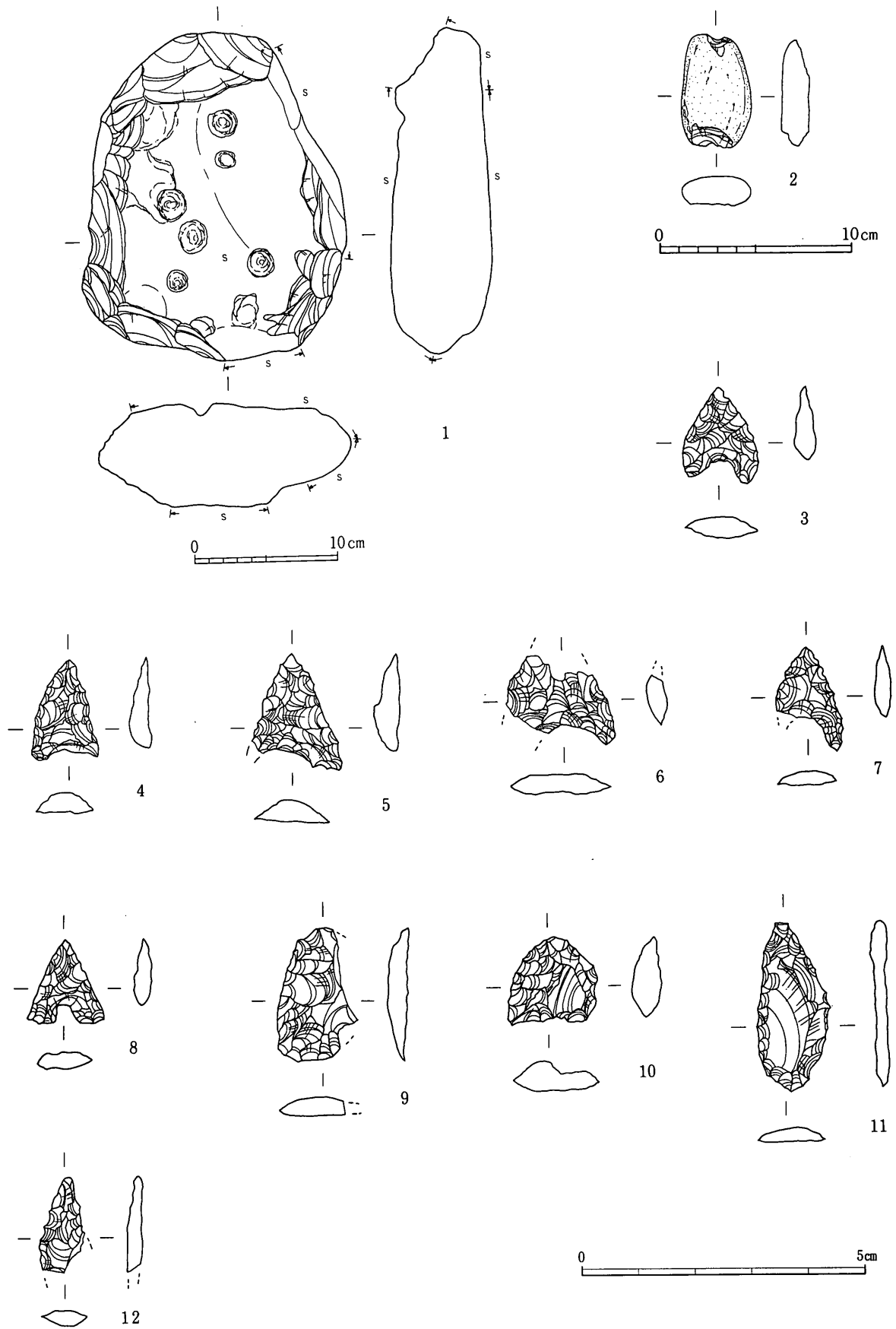
1・2	S K 207	6	S K 218
3	S K 212	7	S K 219
4・5	S K 215	8	S K 222



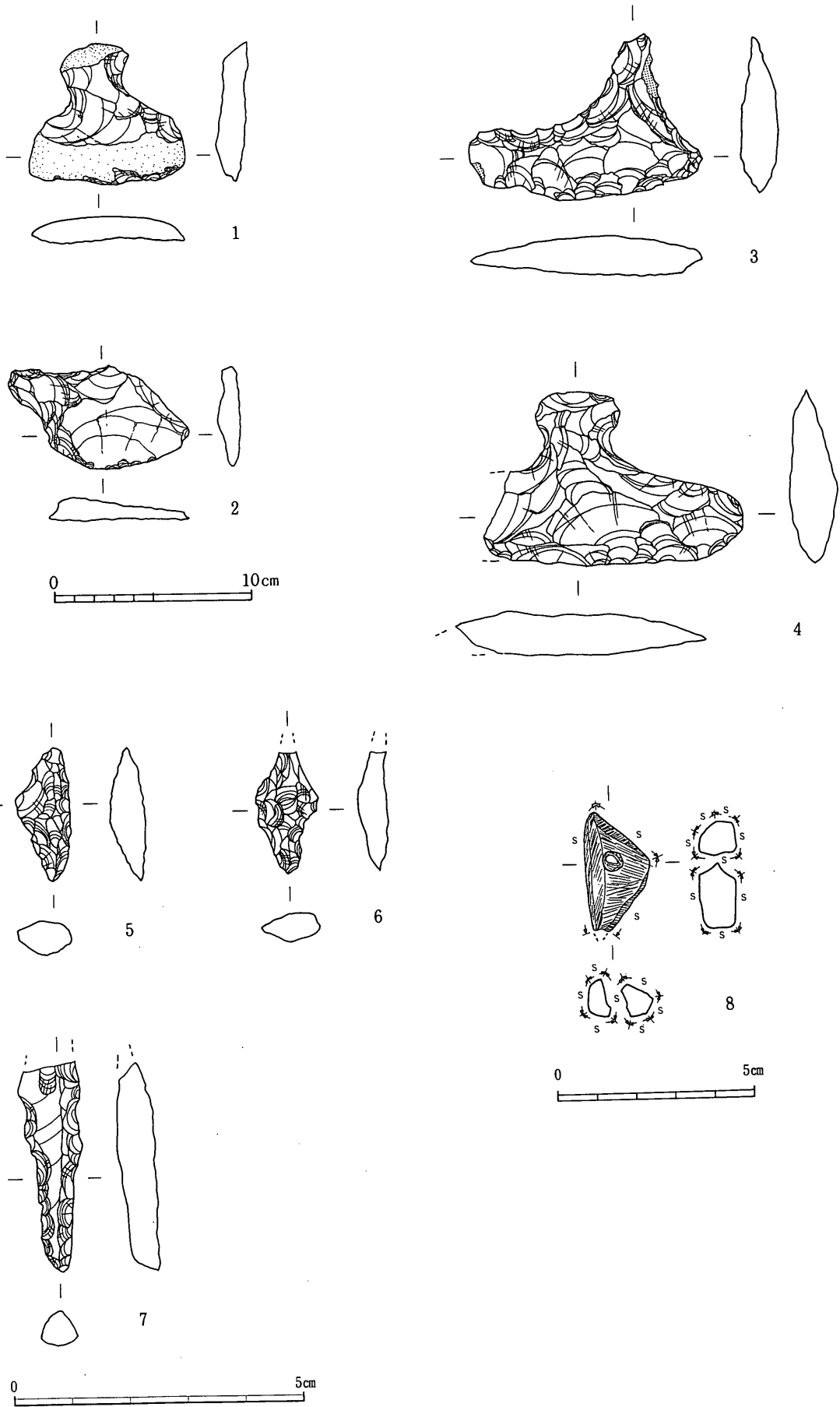
第48图 出土遺物 1~16 遺構外



第49図 出土遺物 1~12 遺構外



第50図 出土遺物 1~12 遺構外



第51図 出土遺物 1~8 遺構外

写真図版



調査区全景



B地区全景



A地区全景 (部分)



同 上



同 上



B地区全景（部分）



同上



同上



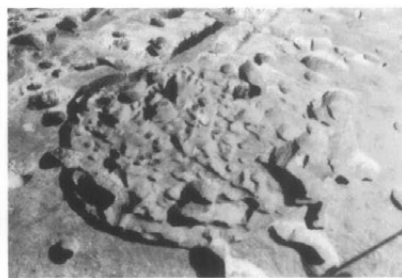
S B26



同 炉址



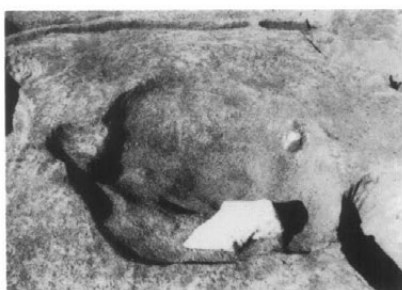
同 置物出土状況



同 掘り方



S B27



同 炉址



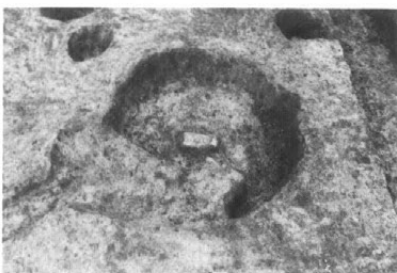
同 掘り方



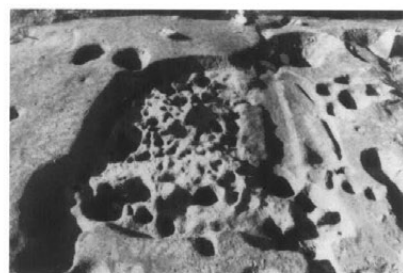
S B 28 炉址



S B 29



同 炉址



同 掘り方



S B 30



同 炉址



同 埋壑断面



同 遺物出土狀況



S B 31



同 炉址



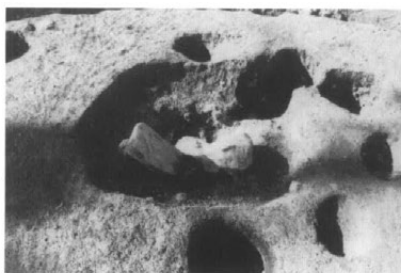
S B 33



同 炉址



S B 34



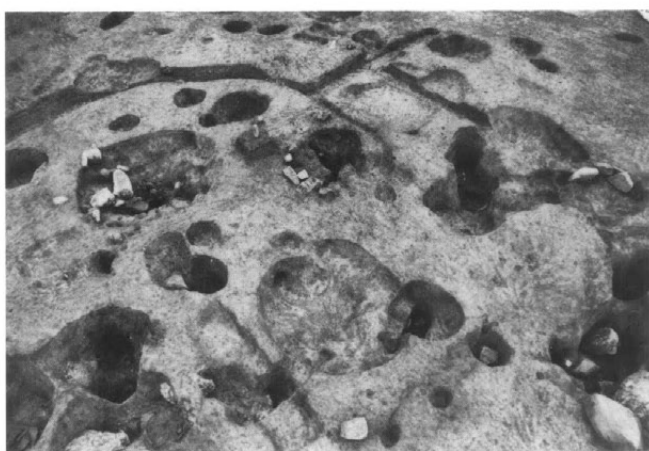
同 炉址



同 埋甕断面



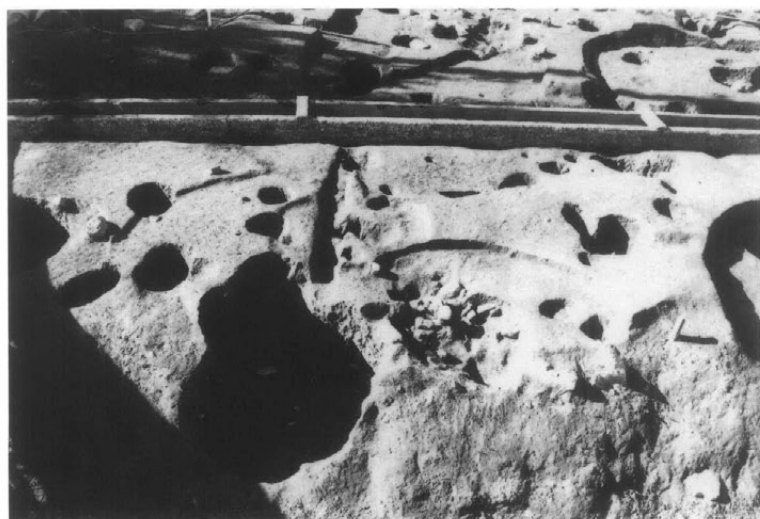
同 埋甕断面



S B 36



同 炉址



S B 37 · 38



S B 37 炉址



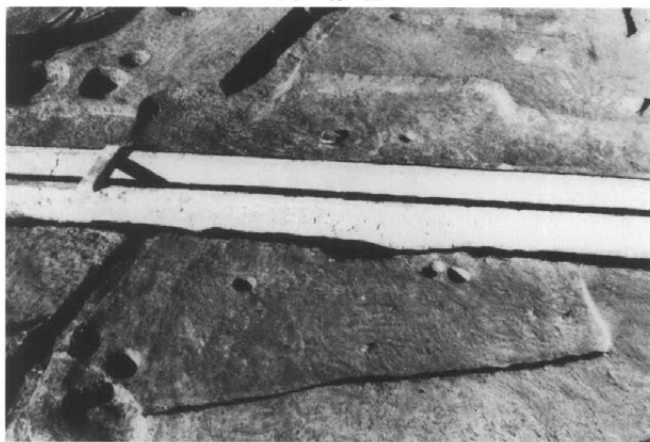
S B 38 炉址



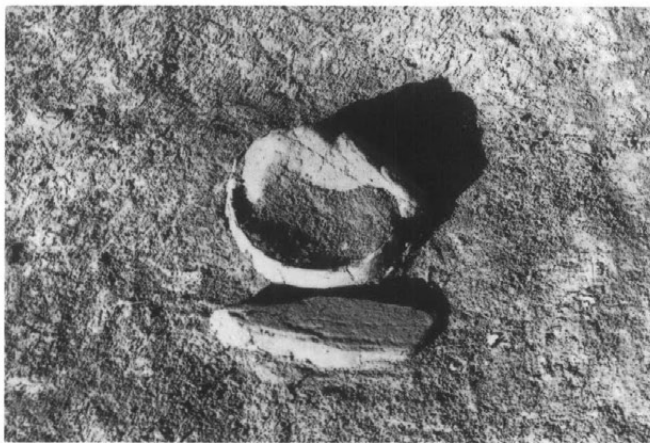
S B 40



同 炉址



S B 32



同 炉址



S B 35



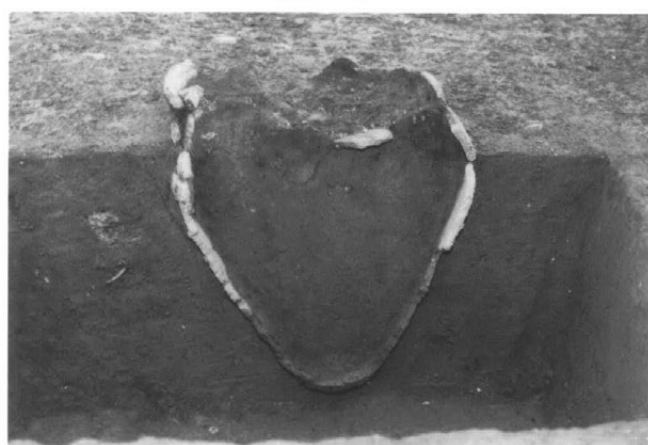
同 礫分布状況



S M 01



埋設土器 1



同 断面



後期土器出土状況



S K 212



S K 214



S K 223



調査スナップ



同 上



作業員一同



重機作業スナップ



基準点測量スナップ



空撮スナップ



S B 30



S B 30 埋甕



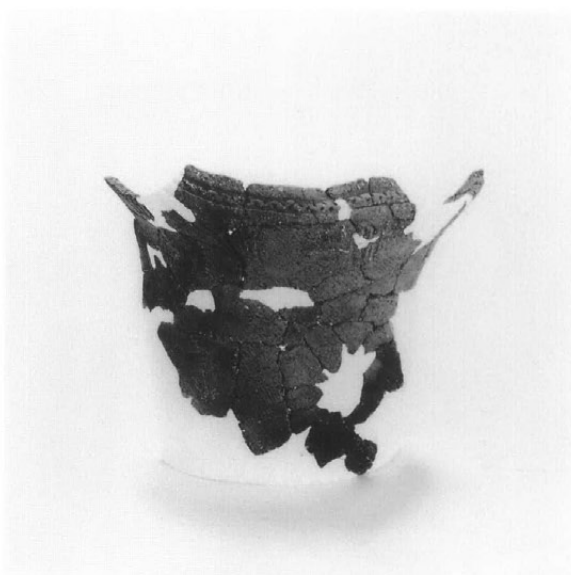
S B 34 埋甕



S B 38



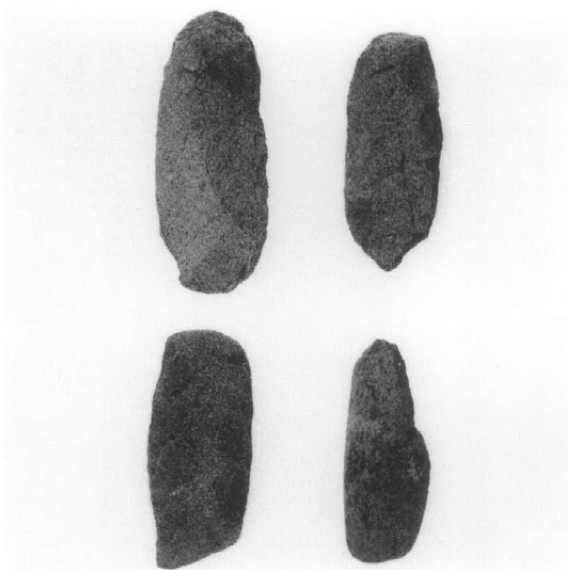
埋設土器 1



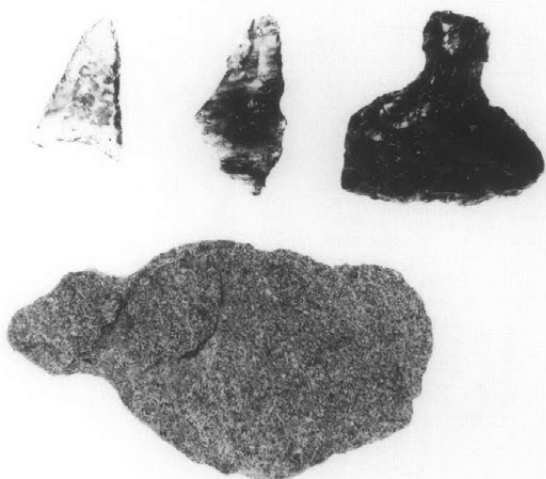
遺構外



遺構外



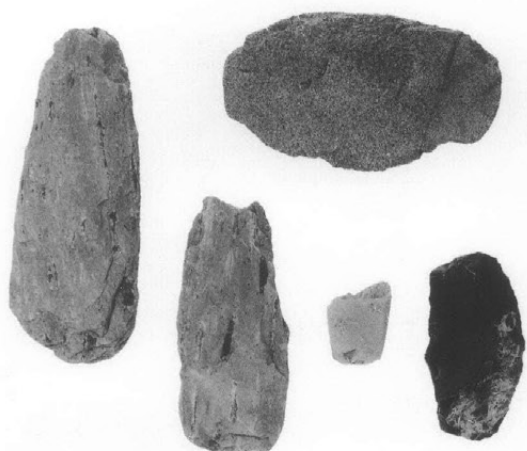
S B 26



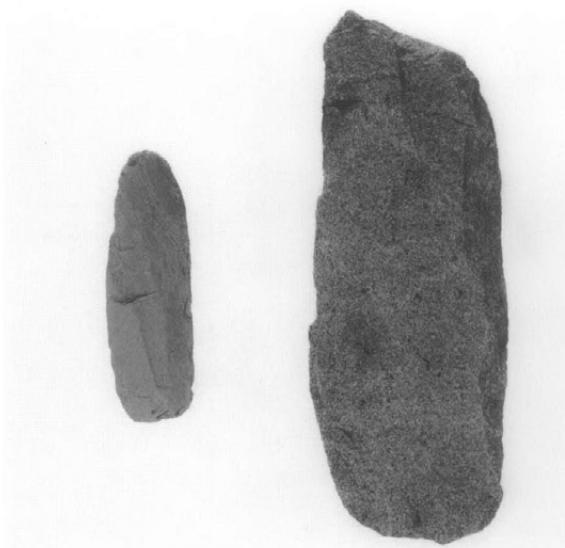
S B 26



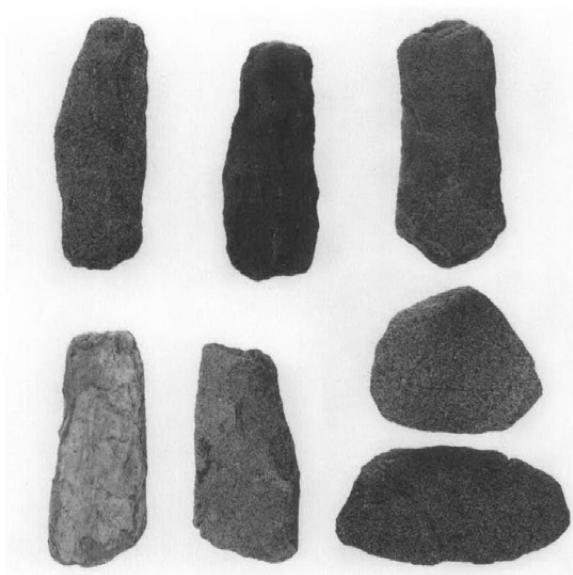
S B 27



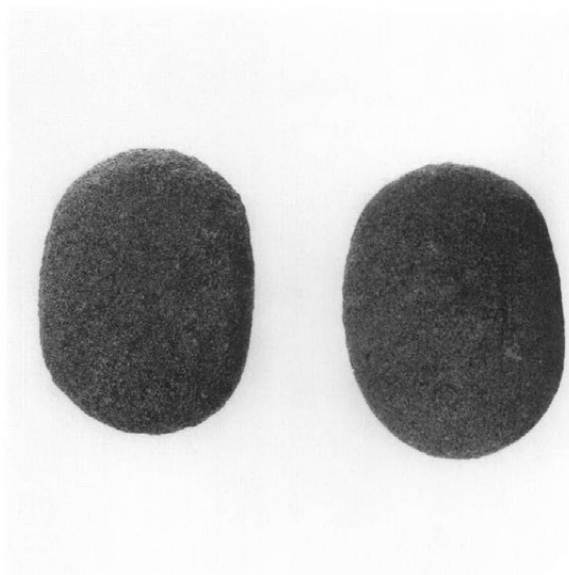
S B 28



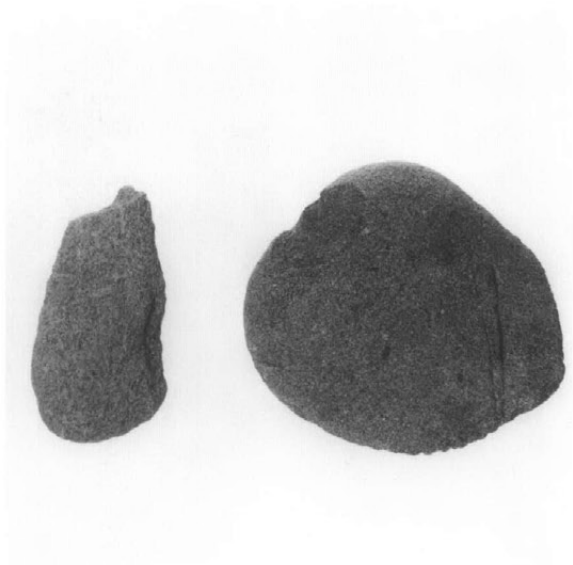
S B 29



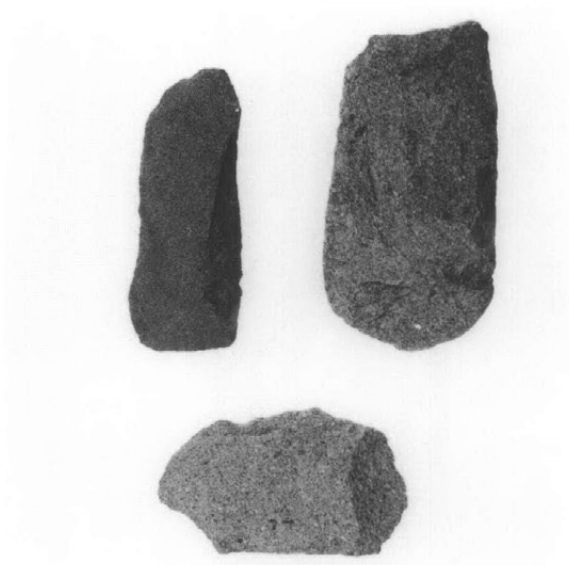
S B 30



S B 30



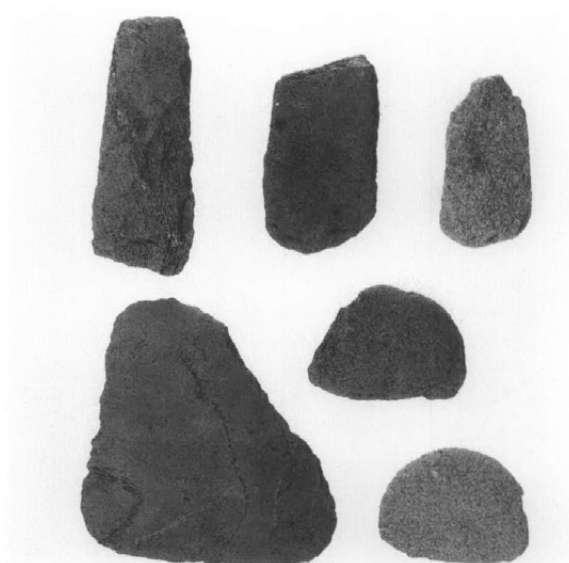
S B 32 · 33



S B 33



S B 33 · 34 · 40



S B 34

